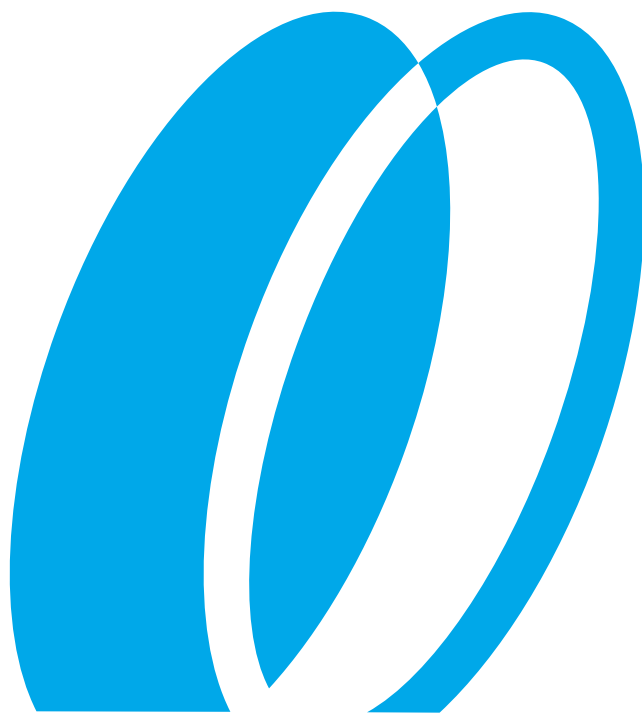




2026 DISCLOSURE

南日本銀行ディスクロージャー誌
2026年3月期

話せるところ 頼れるところ

 南日本銀行

経営理念

地域の発展に役立つ存在感のある銀行になろう
お客さまのニーズに応え堅実で信頼される銀行になろう
全員が働くことに喜びをもち誇りに思う銀行になろう

パーパス

“つながり”の強さで、地域の輝く未来をつくる

コーポレートメッセージ

話せるところ 頼れるところ

● CONTENTS

● ごあいさつ	1
● 中期経営計画 (2026年4月～2029年3月)	2
● 中小企業の経営の改善及び 地域の活性化のための取組みの状況	3～6
● 人的資本経営の実現に向けての取組み	7～8
● 2026年3月期業績ハイライト(単体)	9～11
● 当行の考え方	12～14
● 組織・ネットワーク	15～20
● 資料編	21～72

● シンボル・マーク



「南日本銀行」の頭文字「M」をデザイン化したものです。楕円の1つは南日本銀行であり、もう1つは地域を表しています。

2つの楕円が緊密な結合をし、地域と銀行、お客様と銀行、人と人との密接な関わり、信頼関係、また、銀行内のしっかりした団結をも意味しています。

「M」は変化し、限りなく拡大するイメージを想起させ、互いに寄り添い、シンプルな形状の中にも、銀行の持つ力強さ、未来性が表現されています。

本冊子は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料(業務及び財産の状況に関する説明書類)です。本資料に掲載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しております。

● 当行の概要



本店所在地	鹿児島市山下町1番1号
創業	1913(大正2)年9月4日
資本金	133億51百万円
店舗数	本支店64カ店 (本支店61、出張所3) ※ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式での店舗統合による実質店舗数59カ店
従業員数	826人 (嘱託・パート・出向者含む)
主要勘定(単体)	総資産 8,629億円 預金残高 8,072億円 貸出残高 6,158億円 (2026年3月末現在)

ごあいさつ

皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび、ディスクロージャー誌「118期営業のご報告(2025年4月1日~2026年3月31日)」を発刊いたしました。本誌を通じて、当行グループの経営状況や地域への取組みをご覧いただき、私どもの考えや歩みへのご理解を深めていただければ幸いです。

2025年度は、金融環境の変化に加え、デジタル技術の急速な発展により、日本経済や地域社会を取り巻く環境が大きく変化した一年でした。地域においては、企業の人手不足や事業承継への対応のみならず、個人の暮らしや価値観の変化、資産形成ニーズの多様化など、さまざまな課題や期待が交錯し、地域金融機関に求められる役割も複雑かつ多様化しています。

こうした時代だからこそ、お客さまの声に真摯に耳を傾け、ともに考え、ともに歩む姿勢がこれまで以上に求められていると考えています。私ども南日本銀行グループは、「話せるところ 頼れるところ」のコーポレートメッセージを合言葉に、地域の皆さまにとって最も身近な存在となり、課題解決のお手伝いができる銀行グループを目指します。

この方針のもと、第1次中期経営計画「インテグリティある組織への変革」において築いた土台を礎に、本年4月より第2次中期経営計画「Speed&Challenge~変革から成長へ~」を始動いたしました。本計画は、お客さまや地域にとっての「Only One Partner」となることを目指す長期ビジョンの実現に向けた「成長ステージ」と位置づけ、人材戦略・DX戦略・パートナーシップ戦略を柱に据えています。役職員一人ひとりが地域課題に果敢に挑み、ステークホルダーの皆さまとの共創を通じて、持続可能な地域の成長に貢献してまいります。

今後とも皆さまの変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



2026年7月
取締役頭取 田中 暁爾きょうじ

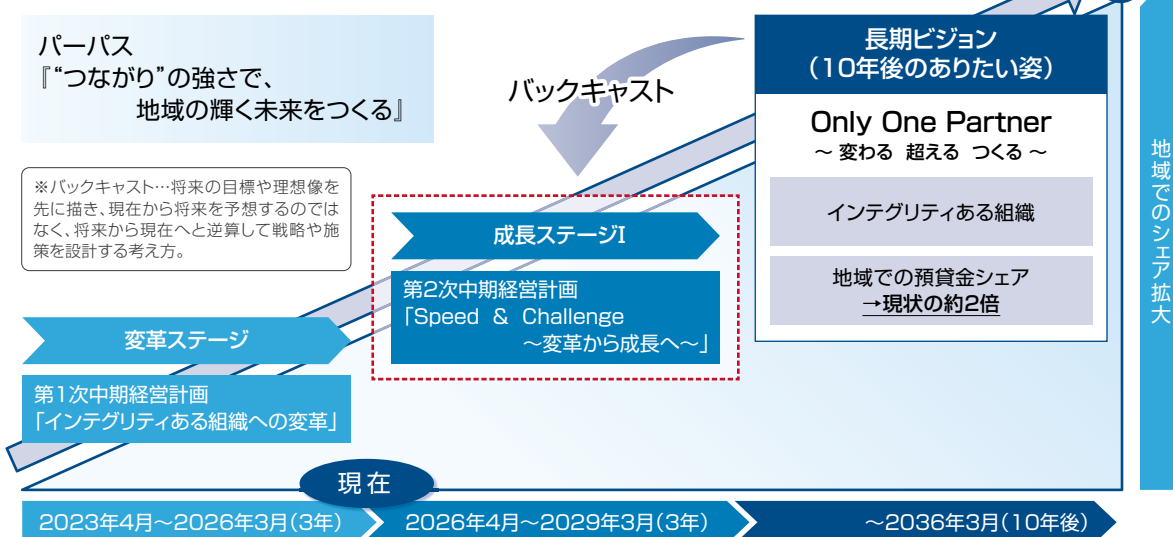
中期経営計画(2026年4月～2029年3月)

第2次中期経営計画

本計画は、第1次中期経営計画から継承する「インテグリティの浸透」を引き続き図っていくとともに、長期ビジョン(10年後のありたい姿)を策定し、そこからバックキャストで設定した戦略により、これまでの延長線上にはない「南日本銀行グループ」に成長していく3年間とします。

長期ビジョン(10年後のありたい姿)

本計画は『10年後のありたい姿』の具現化に向けた『成長ステージ』



本中期経営計画の概要

計画名称	第2次中期経営計画「Speed & Challenge ～変革から成長へ～」				
計画期間	2026年4月～2029年3月				
目指す姿	役職員が地域課題の解決にスピード感を持って果敢にチャレンジしていくことで、ステークホルダー（お客さま・株主・行員・地域）に必要とされる銀行グループへ成長することを目指します。				
本計画の位置づけ	本計画は、第1次中期経営計画から継承する「インテグリティの浸透」を引き続き図っていくとともに、長期ビジョン「Only One Partner ～変わる 超える つくる～」からバックキャストで設定した戦略により、これまでの延長線上にはない「南日本銀行グループ」に成長していく3年間とします。				
戦 ・ 施 策	コア戦略	人材戦略		重点施策	グループ体制の強化
		DX戦略			経営基盤強化
		パートナーシップ戦略			ガバナンス強化
	基 本 施 策				
	「インテグリティ」の浸透		「パーパス」の実践		「対話」の充実
「人材戦略」×「DX戦略」⇒「パートナーシップ戦略（なんぎんファン）」					

中期経営計画についての詳しい内容は、当行HPにてご覧いただけます



中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

⑧ 新販路開拓コンサルティング『WIN-WINネット業務』

【WIN-WINネット業務について】

業務の目的

お取引先事業者と当行が「WIN-WIN」の関係となり、永続的に良好かつ強力なリレーションを構築することを目的としています。

業務の概要

お客さまの売上を増やすために、当行ネットワークを活用して新たな販売見込先への販路開拓を支援し、商談から売上入金金まで見届ける『新販路開拓コンサルティング業務』です。

お客さまのWIN

- ・自社では困難な販路先の開拓を銀行が責任をもってお手伝いすることで、売上増加を支援します。
- ・行員同席による交渉支援に加え、経営改善や事業運営方法のアドバイスも行います。



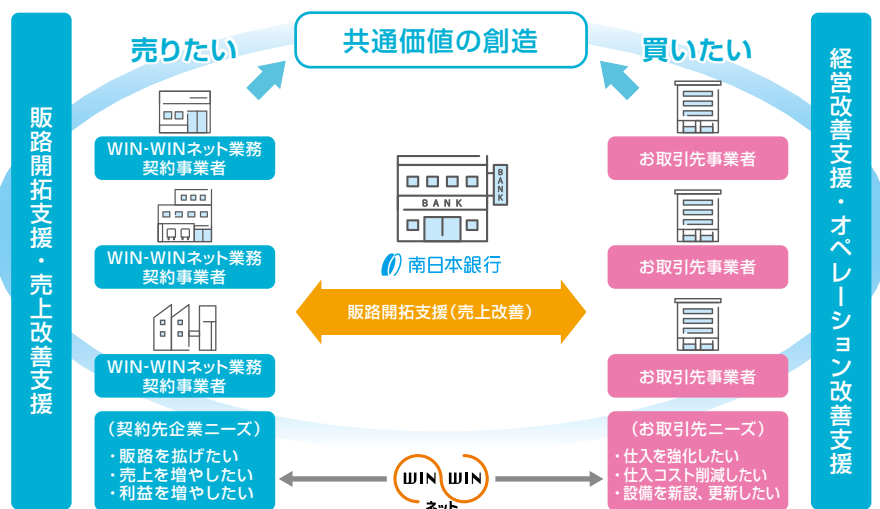
当行のWIN

- ・お客さまの売上増加が収益拡大へつながることで、当行との中長期的なお取引の継続、拡大へつなげてまいります。
- ・「地域に責任をもつ真の地域金融機関」として、地域経済活性化を下支えることで、当行の持続可能性につなげてまいります。

【WIN-WINネット業務が目指す支援】

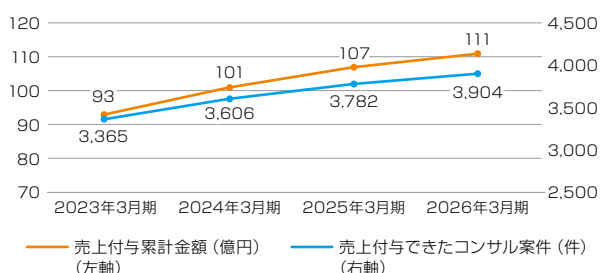
地域の厳しい事業環境におかれているお取引先事業者の販路開拓を支援します	【売上改善支援】
「販路開拓支援」だけでなく、お取引先事業者の経営課題解決を支援します	【本業支援】
お取引先事業者の「商品・サービス」を深掘りし、「強みの活用」を支援します	【企業価値向上支援】
継続的な商流創出を実現し、地域経済回復・活性化を支援します	【サステナビリティ支援】

【WIN-WINネット業務の仕組み】



【WIN-WINネット業務契約先およびコンサル案件成約状況】

業務開始以降累計（2026年3月末現在）	
売上付与累計金額	111億円
売上付与できたコンサル案件	3,904先
契約先数	790先
売上付与先数	591先
売上付与率	74.8%



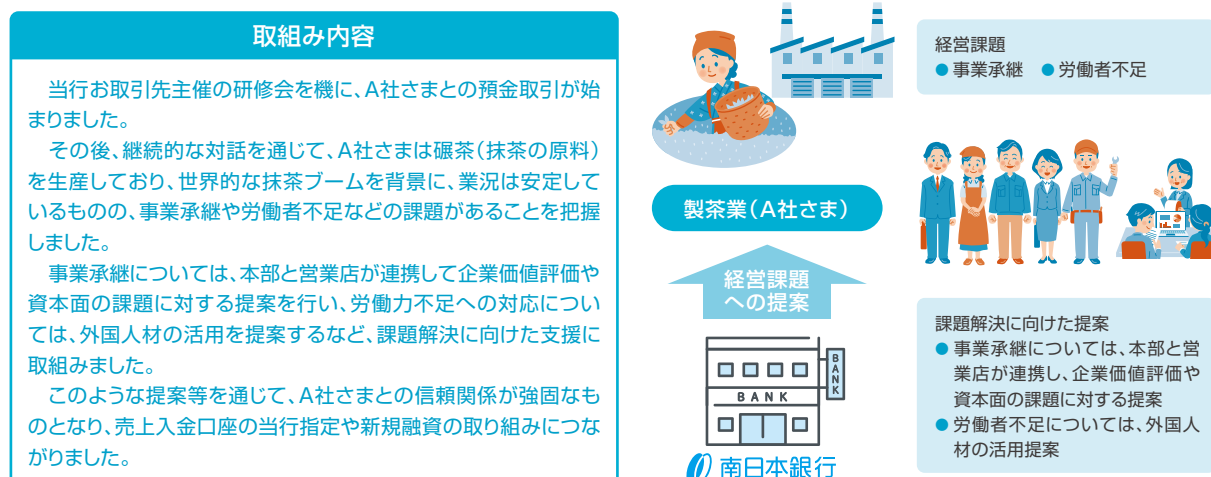
中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

① なんぎんファンを増やす取組み

当行では、第2次中期経営計画において『なんぎんファンを着実に増やす』ことを掲げ、重要な経営課題として取組んでいます。

人口構造の変化やデジタル化、物価高騰など、地域とお客さまを取り巻く環境が大きく変化する中でも、お客さまとの信頼関係を一層深め、なんぎんファンを着実に増やしていくことが、預金・貸出金のシェア拡大にとどまらず、行員一人ひとりのやりがいや、地域における当行の存在価値の向上につながると考えています。

【ファンを増やすための取組みの一例】



① 「DX認定事業者」の認定取得について

当行は、第1次中期経営計画において、データとデジタル技術を活用した業務変革の取組みとして、DX（デジタルトランスフォーメーション）を掲げています。

DX施策を進展させるべく、2025年6月に『南日本銀行DX戦略』を策定し、2025年10月には、経済産業省が定めるDX認定制度に基づく『DX認定業者』に認定されました。

当行は、デジタル技術を活用したDXを通じて、生産性向上や業務効率化を図るとともに、お客さまが必要とする「デジタル」サービスを積極的に提供していくことで、地域に貢献・信頼される金融機関であり続けることを目指してまいります。



① 一般社団法人金融データ活用推進協会(FDUA※)への加盟について

当行は、AIをはじめとするIT技術を用いた金融データ活用の高度化を目的に、一般社団法人金融データ活用推進協会(FDUA)に一般会員として加盟しました。

本協会への加盟により、幅広い業務領域においてAI等のIT技術を効果的に活用し、業務の効率化やデータ分析の高度化を図ることで、業務改革(DX)を進めます。

加えて、お客さまの利便性を高める新たな付加価値サービスの展開を目指してまいります。

※FDUA…一般社団法人金融データ活用推進協会の略称。金融業界におけるデジタル化が急速に進む中、業界・各社の発展および個人のスキルアップに貢献することを目的として、金融機関の実務目線に立って、AI・データ活用の推進に取り組むため、金融機関とAIスタートアップなどが集まり発足した団体です。

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

⑧ 鹿児島県「価格転嫁サポーター制度」への参画について

「価格転嫁サポーター制度」とは、事業者の円滑な価格転嫁への取組みを支援することを目的に、鹿児島県を中心とする県内金融機関、鹿児島県信用保証協会、奄美群島開発基金、かごしま産業支援センターの職員が「価格転嫁サポーター」となり、県内事業者の価格交渉や価格転嫁への取組みを促すものです。当行も、本趣旨に賛同し、参画いたしました。

今後も、お取引先事業者が抱える経営課題の解決に向け、役職員一丸となり支援してまいります。



⑨ なんぎんSDGs宣言書作成支援サービス

本サービスは、「SDGs取組診断ツール」を使用し、お客さまのSDGsへの取組状況を把握、分析することで経営課題を発掘し、SDGsへの取組みを支援しています。

また、SDGsの観点から取引先の事業内容の理解を深めるとともに、本サービスをお客さまとの対話ツールの一つとして活用しています。



⑩ 「なんぎんビジネスセミナー」の開催

お取引先事業者の新入社員及び若手社員の皆さまを対象に、社会人として必要なビジネスマナーの習得を目的とした「なんぎんビジネスセミナー」を毎年開催しています。

2026年度は、(株)アルテミスジャパンの代表取締役「乙守 三千代」氏を講師として招聘し、『知ってトクする！仕事の“ワザ”習得』をテーマに、同社が独自に開発した「個質学(自分のコトと相手のコトを同時に理解、把握、共有ができるコミュニケーション分析ツール)」を活用し、人間関係の円滑化が非常に重要であるといった講義や、実践形式での接遇研修が行われました。

今後も本セミナー等を通じて、地域における若手社員の人材育成に貢献し、地域経済の活性化に努めてまいります。



【「なんぎんビジネスセミナー」の様子】

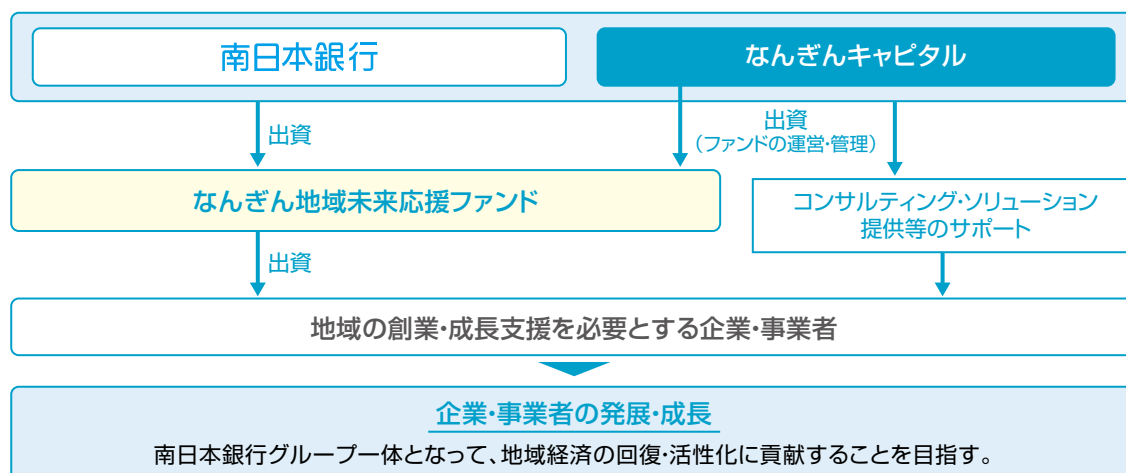
中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況

⑧ 株式会社なんぎんキャピタルの取組み

2023年4月に、当行100%出資による投資専門子会社「株式会社なんぎんキャピタル」を設立し、該社を無限責任組合員、当行を有限責任組合員とする投資事業有限責任組合「なんぎん地域未来応援ファンド」を設立しています。

当ファンドは、地域経済に寄与する技術やサービスを有するスタートアップ企業等を支援することを目的としており、地域の将来を担う起業家の育成・支援や地域のお客さまのライフステージに応じた投資など、鹿児島県経済への貢献に繋がる企業への投資を行っています。

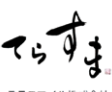
【運営スキーム】



【第1号ファンドの概要】

名称	なんぎん地域未来応援ファンド投資事業有限責任組合(略称:なんぎん地域未来応援ファンド)
ファンド総額	5億円
投資対象	地元(鹿児島県)の創業・成長支援の対象となる株式未公開の企業。鹿児島県以外の企業については、原則、株式会社南日本銀行の営業管轄区域の企業を対象とする。
目的	創業・成長支援を必要とする企業(事業者)への投資を通じて、地域経済の回復・活性化に貢献していくことを目指す。
存続期間	10年間

【投資先】

企業名	 AMI株式会社	 iCUREX株式会社	 ファーマーズサポート株式会社	 テラスマイル株式会社	 株式会社ライトライト	 株式会社ZIFISH
投資実行日	2024年5月28日	2024年10月11日	2025年4月28日	2025年7月30日	2025年10月31日	2026年3月5日

⑨ 「なんぎんカップ争奪 鹿児島市少年サッカーリーグ」の開催

2025年4月～12月に、「2025年度 第32回 なんぎんカップ」を開催しました。

同大会は、地域の未来を担う子供たちの成長を応援し、スポーツを通じた“つながり”の強さで、地域の輝く未来をつくることを目指し、継続的に実施しています。

当行は、これからも地域の皆さまに寄り添い、皆さまとともに歩みながら、地域の未来を支える取組みを継続してまいります。



人的資本経営の実現に向けての取り組み

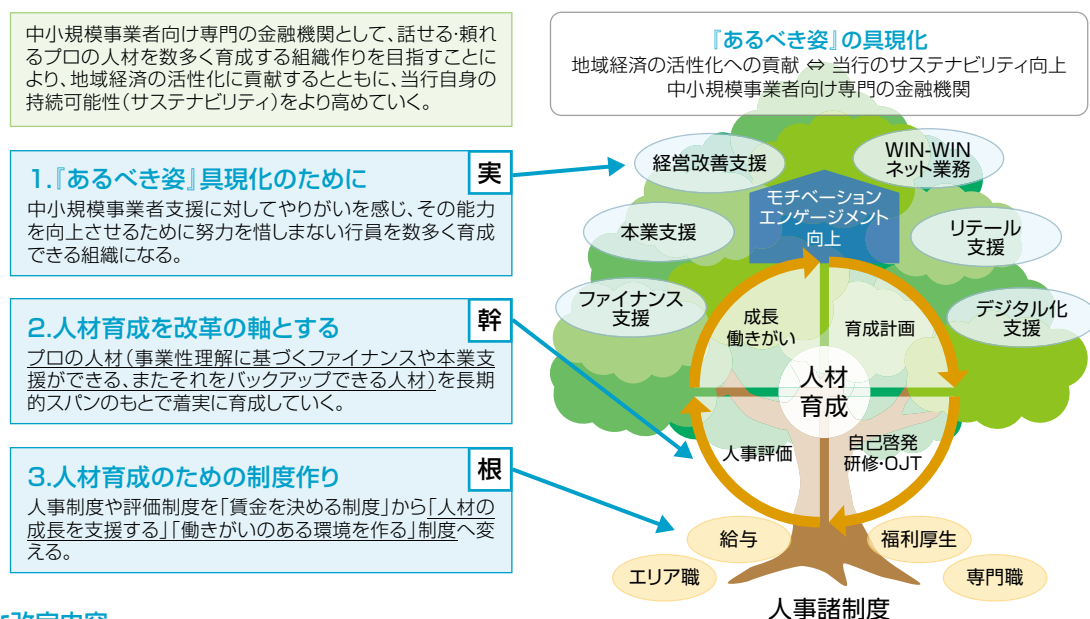
経営戦略と人材戦略の融合による人的資本経営の実現

【人事諸制度改定の枠組み 「TSUNAGU（つなぐ）」】

当行は、多様化する中小規模事業者の経営課題の解決ニーズに、迅速かつ高度なサービスが提供できる「プロの人材」を数多く育成し、その行員がやりがい・働きがいを感じながら働くことを目的として、人事・育成・評価制度を再構築しました。

なお、新しい制度が「人」と「人」をつなぎ、当行や地域の輝く未来につなげていく、という思いを込めて、人事諸制度改定の枠組みを「TSUNAGU（つなぐ）」と名付けました。

今後、人事制度や評価制度を「働きがいのある環境を作る」「人材の成長を支援する」制度とし、お客さまの多様なニーズに応えることで、地域のサステナビリティ向上に貢献してまいります。



主な改定内容

I. 人材育成への取り組み強化	II. 納得感のある人事考課制度	III. 多様な働き方・ジェンダー平等	IV. やりがい・働きがいのある環境構築
● 育成計画の策定 ● 行員スキルのデータ化 ● 育成体系の再構築 ● 育成への投資強化	● 評価制度の見直し ● 嘱託行員の人事考課導入	● 複線型制度の導入 ● ビジネスネームの使用開始 ● 休暇の取得促進 ● 短時間勤務制度の拡充	● 役割等級制度の導入 ● 給与体系の見直し ● 専任行員の待遇見直し ● 時差出勤の導入 ● 各種手当の見直し ● 嘱託主任の雇用形態の見直し

賃金引上げ及び初任給の推移

行職員の「働きがいやエンゲージメントの向上」と将来に渡る「多様な人材の確保」の観点から、2026年度も全行職員のベースアップを実施しました。これにより、4期連続の賃上げとなりました。

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2026年度賃上げ率
大学卒	220,000円	230,000円	260,000円	260,000円	<u>4.0%超</u>
短大卒	180,000円	190,000円	210,000円	210,000円	
高校卒	170,000円	180,000円	200,000円	200,000円	

人的資本経営の実現に向けての取り組み

⑧「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」の認定

当行では、行職員の健康は当行の成長を支える大切な財産という考えのもと、「なんぎん健康経営宣言」を策定しております。

2026年3月、経済産業省および日本健康会議が実施する健康経営優良法人認定制度において「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に認定されました。

これを受け、今後さらに心身ともにいきいきと働ける環境づくりを推進し、健康経営を通じて地域社会との“つながり”をさらに強固にすることで、持続可能な未来の創造に貢献してまいります。

「なんぎん健康経営宣言」

当行は、「“つながり”の強さで、地域の輝く未来をつくる」というパーパス実現のため、行職員とその家族の健康を何よりも大切にし、心身ともにいきいきと働ける環境づくりを推進します。

行職員の健康は当行の成長を支える大切な財産です。健康経営を通じて地域社会との“つながり”をさらに強固にし、持続可能な未来の創造に貢献することを、ここに宣言いたします。

取締役頭取 田中 暁爾



【健康経営】

従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践すること。

【健康経営優良法人認定制度】

優良な健康経営を実践している法人を「見える化」することで、社会的な評価を受けることができる環境を整備することを目的とした顕彰制度。

⑨ 外部機関への出向・派遣等の取り組み

当行は人材育成の一環として、外部機関への出向・派遣等に積極的に取り組んでいます。

■鹿児島新事業開発プロジェクト研究(※)

鹿児島新事業開発プロジェクト研究は2024年度の1期生、2025年度の2期生に続き、2026年度も当行より2名の行員を派遣しております。

本プロジェクトへの参加により、「行内では経験できない様々な知見」「ノウハウの吸収」「地元産学官の新たな人脈形成」などを目指し、修士課程を修了した行員の知見を行内へ還元し、組織全体の人材教育に繋げています。

※鹿児島新事業開発プロジェクト研究は、事業構想大学院大学福岡校が主催し、地元企業の「既存事業の進化」や「新規事業の構築」「人材育成」「地元企業間の協創」「地域発展への貢献」等を目的としています。



■やねだん故郷創世塾(※)

2026年5月8日～10日、「第39回やねだん故郷創世塾」に当行より3名の行員を派遣しました。当日は、様々なテーマによる講義に加え、集落の住民の方との対談や交流会等も実施されました。本塾へ参加した行員の知見を行内へ還元し、組織全体の人材教育に繋げています。

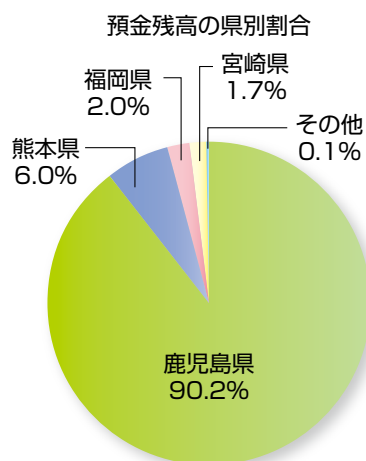
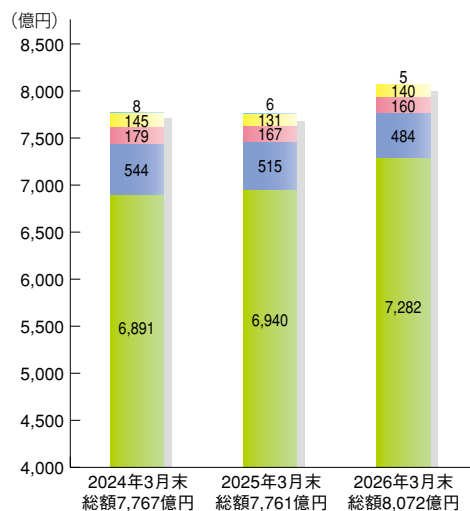
※柳谷町内会(通称:やねだん)は、「行政に頼らない地域づくり」を旗印に、住民自治・自主財源確保活動・還元を基本に住民協同にて活動を行っている地域です。

2026年3月期業績ハイライト(単体)

預金

預金(期末残高)は、2025年3月末に比べ、311億円増加して8,072億円となりました。

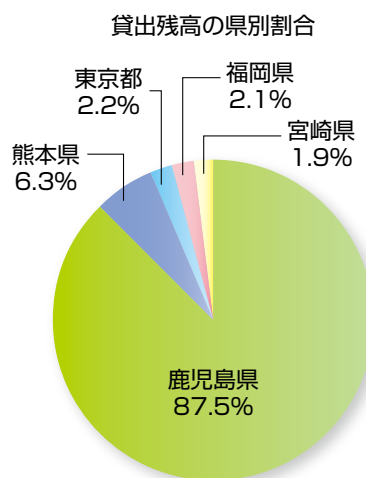
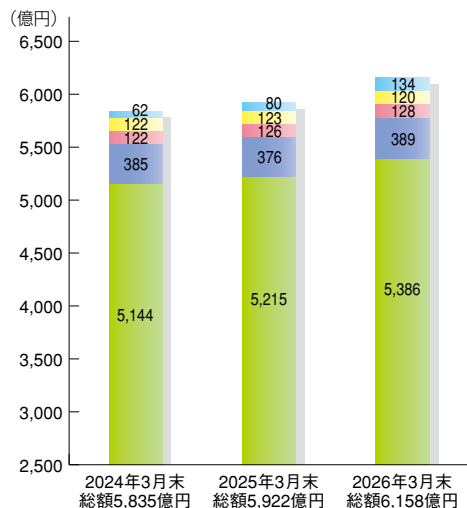
●預金残高の推移 ●鹿児島県 ●熊本県 ●福岡県 ●宮崎県 ●その他



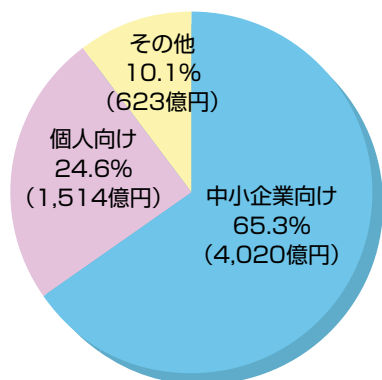
貸出金

貸出金(期末残高)は、中小企業貸出の増加等により、2025年3月末に比べ、236億円増加して6,158億円となりました。

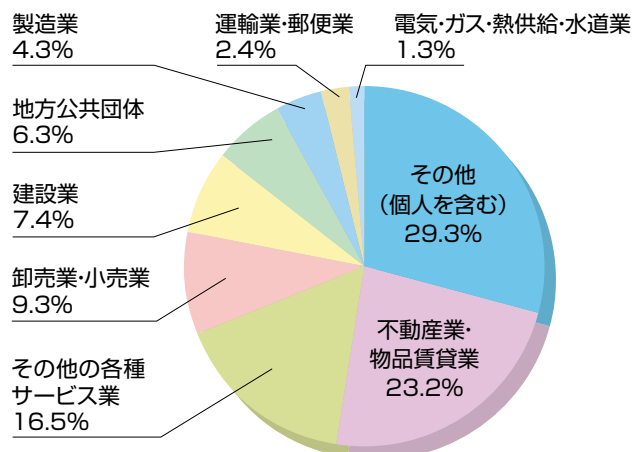
●貸出金残高の推移 ●鹿児島県 ●熊本県 ●福岡県 ●宮崎県 ●東京都



●中小企業・個人向け貸出の状況



●貸出残高の業種別比率



2026年3月期業績ハイライト(単体)

損益の状況

コア業務純益は、預金利息や経費が増加したことにより、前年比2億70百万円の減少となりました。
経常利益については、前年同期比1億77百万円増加し、28億90百万円となりました。
また、当期純利益は、前年同期比6億17百万円増加し、27億70百万円となりました。

用語解説

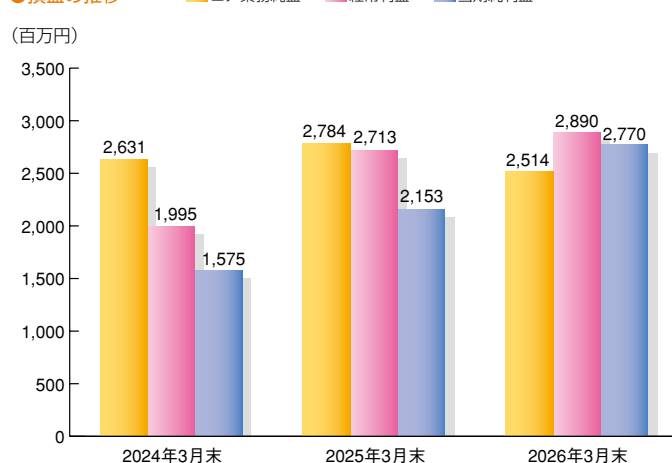
●コア業務純益とは？

銀行の基礎的な収益力を示す指標で「業務粗利益」から「国債等債券の売買損益」を控除し「経費（人件費・物件費・税金）」を差し引いたもので、銀行本来業務から得られる利益を示したものです。

●経常利益と当期純利益とは？

経常利益は銀行の営業活動によって通常発生する収益（経常収益）から費用（経常費用）を差し引いたもので、毎年生じる通常の利益を表します。この経常利益に、その年に特別に発生した利益と損失（特別利益、特別損失）と税金を加減したものが最終的な利益の当期純利益となります。

●損益の推移

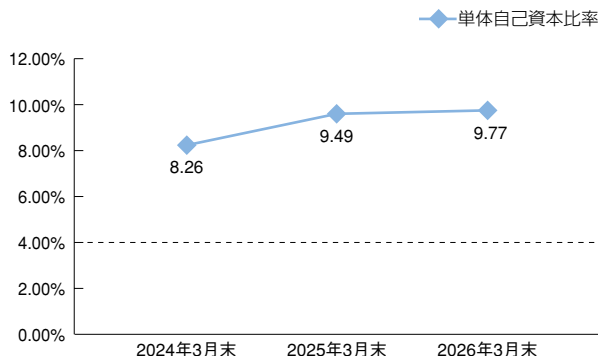


自己資本比率

自己資本比率は貸出金や有価証券などの総資産（リスク・アセット）に対する自己資本（資本金内部留保など）の割合を示すもので、銀行の健全性や安全性をみるうえで重要な指標となっております。

2026年3月末の自己資本比率は、2025年3月末に比べ0.28ポイント上昇し、9.77%となりました。

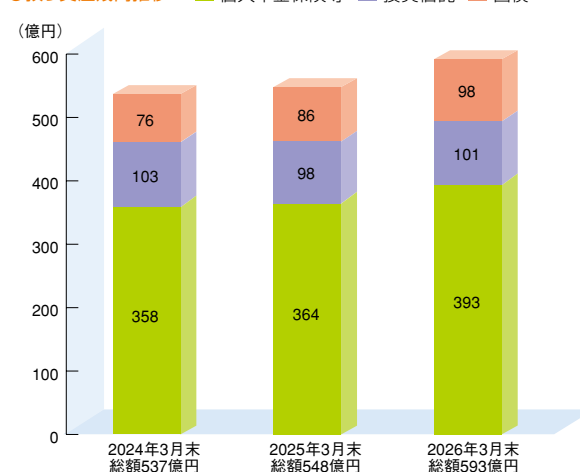
なお、国内で業務を行う銀行の基準である4%を大きく上回っております。



預り資産残高

預り資産は、個人年金保険等の増加により、2025年3月末に比べて45億円増加し、593億円となりました。

●預り資産残高推移

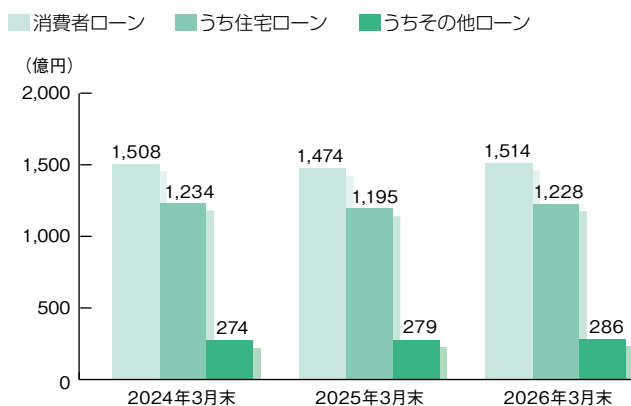


2026年3月期業績ハイライト(単体)

④ 個人向け貸出の状況

個人向け貸出残高については、2025年3月末に比べて40億円の増加となりました。

個人向け貸出のうち、住宅ローンにつきましては、2025年3月末に比べて33億円の増加、その他ローン(目的型ローン・フリーローン他)につきましては7億円の増加となりました。



④ 不良債権の状況

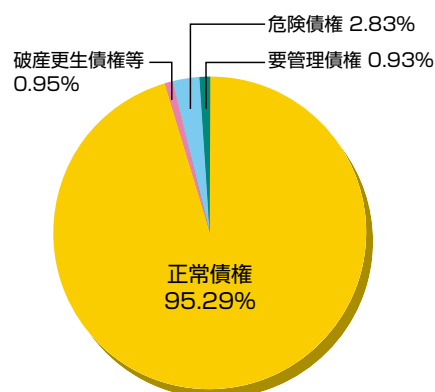
金融再生法の開示基準による不良債権は292億円で、総与信に対する比率は4.71%となりました。
なお、部分直接償却を実施した場合の開示債権比率は4.28%となります。

【金融機能再生法に基づく開示債権】

(単位:億円)

	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末
金融再生法開示債権	297	300	292
破産更生債権等	71	76	59
危険債権	180	168	175
要管理債権	45	56	57
正常債権	5,588	5,673	5,917
総与信額	5,885	5,973	6,210
開示債権比率	5.05%	5.03%	4.71%
保全率	80.93%	81.50%	79.64%

●2026年3月末の状況



④ 不良債権に対する備え

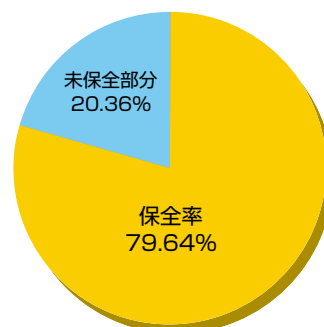
2026年3月末の開示債権額のうち79.64%については、担保・保証や貸倒引当金で十分な保全を行っております。

【保全状況】

(単位:%)

	2026年3月末
保全率	79.64
未保全部分	20.36

●2026年3月末保全状況



<金融機能再生法上の区分概要>

- ①(破産更生債権及びこれらに準ずる債権):破産、会社更生等の理由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権のことです。
- ②(危険債権):お取引先が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取ができない可能性の高い債権のことです。
- ③(要管理債権):3ヵ月以上延滞している貸出金及び貸出条件を緩和している債権のことです。

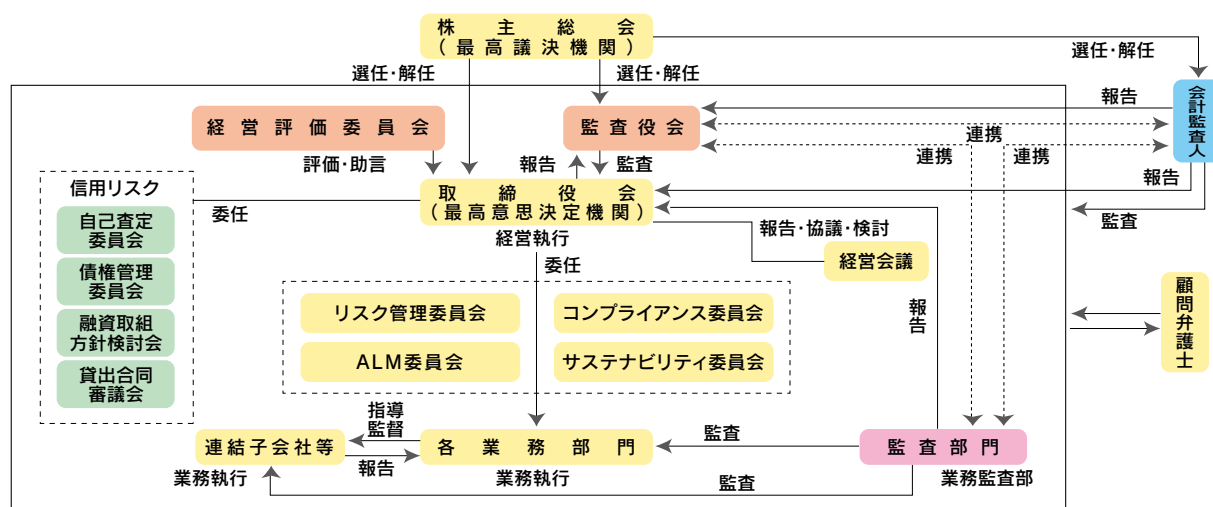
当行の考え方

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

当行は経営理念を主軸とした企業理念体系を定め、その実現に向け、法令等遵守体制の強化やリスク管理体制の強化等、ガバナンスの強化に努めております。中長期的な企業価値の向上と持続的な成長を図るため、コーポレート・ガバナンス(企業統治)の強化と一層の情報開示を経営の重要課題の一つとして取り組んでまいります。

コーポレート・ガバナンス体制の概要図



各会議体の構成員

◎:議長 ○:出席 ◇:出席可能

地 位	氏 名	取締役会	監査役会	経営会議	経営評価委員会
取締役頭取(代表取締役)	田中 暁爾	◎	—	◎	○
専務取締役(代表取締役)	正野 和広	○	—	○	○
常務取締役	岩下 幸利	○	—	○	◇
常務取締役	大山 聡穂	○	—	○	◇
取締役営業統括部長	古園 雅彦	○	—	○	◇
取締役本店営業部長兼天文館支店長	上野 貴史	○	—	○	◇
取締役融資部長	有島 一寛	○	—	○	◇
取締役地域成長支援部長	長谷 大士	○	—	○	◇
取締役(社外)	逆瀬川 尚文	○	—	◇	—
取締役(社外)	山縣 由美子	○	—	◇	—
取締役(社外)	東條 広光	○	—	◇	—
常勤監査役	谷口 幸彦	○	◎	○	◇
監査役(社外)	與倉 昭治	○	○	◇	—
監査役(社外)	上山 幸正	○	○	◇	—
監査役(社外)	上野 総一郎	○	○	◇	—

当行の考え方

取締役会(2025年度開催回数:14回)

取締役会は、取締役11名(うち社外取締役3名)で構成され、「株主総会の負託により経営の執行を行う最高意思決定機関」としており、法令または定款に定める事項や経営に関する事項等を決定するとともに、取締役の業務執行を監督しています。

【取締役会で議論された主な審議事項】

取締役会では、業務計画やコンプライアンス・プログラムの策定などに加えて、第2次中期経営計画について議論・協議し、最終案を決定しました。また、気候変動対応の状況(Scope3 カテゴリー15の算定等)について報告を受けるとともに、今後の課題や対応方法について検討を行いました。

監査役会(2025年度開催回数:12回)

監査役会は、監査役4名(うち社外監査役3名)で構成され、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議または決議を行っております。また、監査役は、取締役会及びその他の重要な会議に出席し、取締役会の意思決定のプロセスならびに業務執行状況の監督及び監査を行っております。

経営会議(2025年度開催回数:25回)

経営会議は、取締役及び部長、室長で構成され、経営に関する重要な事項について協議を行っております。なお、常勤監査役は、経営会議に出席することを要するとともに、社外取締役及び社外監査役は経営会議に出席することができることとし、必要に応じて意見を述べる体制としております。

経営評価委員会

経営評価委員会は、外部の有識者、頭取及び当行役員等で構成され、当行の経営戦略及び方針に対する客観的評価及び助言について総合的な検討を行っております。

各種委員会(業務執行委任)

取締役会は、当行の内規に基づき、様々な業務をリスク管理委員会、コンプライアンス委員会、ALM委員会、サステナビリティ委員会等の各種委員会及び各業務部門に委任しておりますが、その執行状況の適切性・有効性を検証・評価する内部監査部門として、業務監査部を設置し、相互牽制を行っております。

独立社外取締役の有効な活用

当行の中長期的な企業価値の向上と持続的な成長に向けて、社外での豊富な経験と高い見識を活かし、独立した客観的な立場から実効性の高い監督を行うことが可能な独立社外取締役による積極的な貢献が求められます。

選任にあたっては、職務に必要な知見・経験や能力を有しているほか、当行の経営課題に対する積極的な提言や問題提起、経営の監督機能を発揮するため、当行からの独立性の確保を重視しております。また、取締役会の意思決定機能や監督機能の実効性強化に加え、多様性の拡大や組織パフォーマンスの向上に向け、女性役員(独立社外取締役)を選任しております。

社外取締役の選任理由

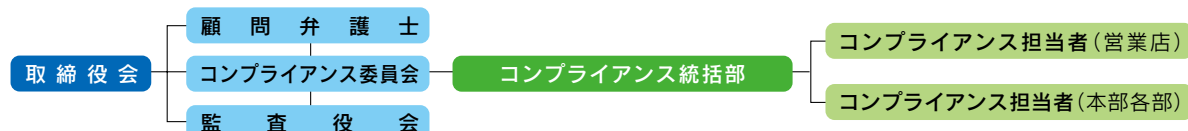
氏 名	選任の理由
逆瀬川 尚文	株式会社南日本新聞社の要職を歴任され、その経営者としての豊富な経験と高い見識を社外取締役として当行の経営全般に反映していただくため、社外取締役に選任しております。 また、当該社外取締役は、一般株主と利益相反が生じるおそれがあるとして取引所が定める基準に該当していないことから、当行は、同氏が独立性の高い立場にあると判断し、独立役員として指定しております。
山縣 由美子	株式会社南日本放送のキャスターとして培われた経験に加え、国立大学法人九州大学の理事を務めるなど、その豊富な経験や知見を社外取締役として当行の経営全般に反映していただくため、社外取締役に選任しております。 また、当該社外取締役は、一般株主と利益相反が生じるおそれがあるとして取引所が定める基準に該当していないことから、当行は、同氏が独立性の高い立場にあると判断し、独立役員として指定しております。
東 條 広 光	鹿児島県の実業家を歴任後、県教育長や県立図書館長も務められ、教育分野でも優れた実績を持たれており、その豊富な経験や知見を当行の経営全般に反映していただくため、社外取締役に選任しております。 また、当該社外取締役は、一般株主と利益相反が生じるおそれがあるとして取引所が定める基準に該当していないことから、当行は、同氏が独立性の高い立場にあると判断し、独立役員として指定しております。

当行の考え方

⑧ コンプライアンス(法令遵守)体制

当行では、リスク管理と共に、コンプライアンスの徹底についてもコーポレート・ガバナンス上の重要な経営課題として取組んでおり、その日常管理については委員長を頭取とし、取締役、監査役および本部長、室長により構成される「コンプライアンス委員会」を組織してこれに委託し、コンプライアンス上の課題について、集中的に協議・検討しています。

コンプライアンス組織体制



⑨ マネー・ローンダリング及びテロ資金供与等の防止

当行グループは、マネー・ローンダリング及びテロ資金供与等の防止(以下「マネロン・テロ資金供与等の防止」という。)による犯罪抑止について、国際的共通課題であるとの認識の下、マネロン・テロ資金供与等の防止を経営戦略等における重要な課題の一つとして位置づけ、関係法令等を遵守し対応を行ってまいります。

⑩ 金融ADR制度

金融分野における裁判外紛争解決制度(Alternative Dispute Resolution)は、訴訟に代わる、あっせん・調停・仲裁等の当事者の合意に基づく紛争の解決方法であり、事案の性質や当事者の事情等に応じた迅速・簡易・柔軟な紛争解決が期待されます。金融ADR制度では、苦情処理と紛争解決の両方を対象とする制度として整備されています。

※当行が契約している銀行法上の指定紛争解決機関

一般社団法人全国銀行協会 連絡先 全国銀行協会相談室 電話番号 **0570-017109** または **03-5252-3772**

⑪ リスク管理体制

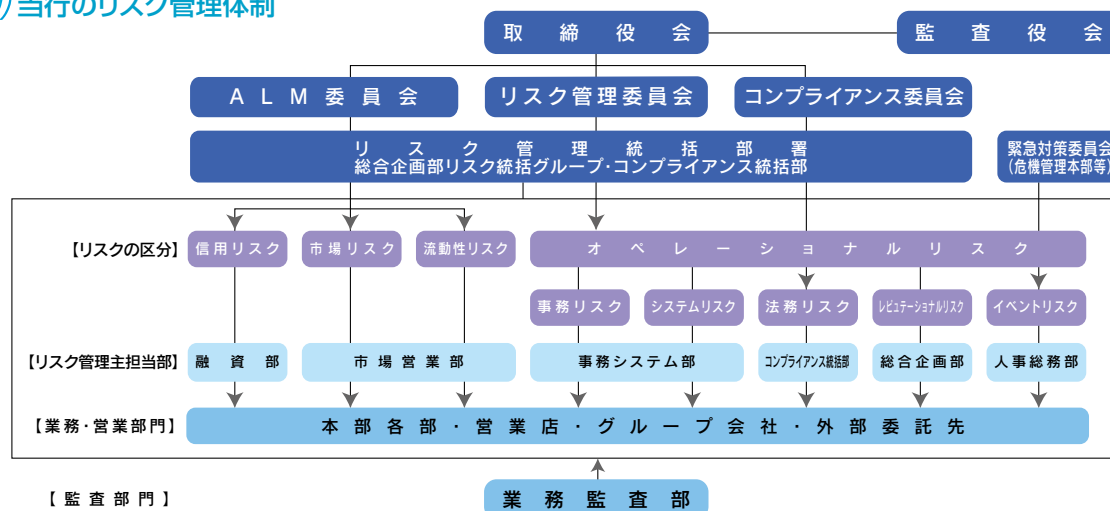
金融機関の業務が急速に多様化・複雑化している中、当行では、経営の健全性の維持・向上の観点から、リスク管理を経営の重点課題と位置付け、その高度化に努めています。

このため、当行では、各種リスク管理の方針、管理基準について規定した「リスク管理基準」に基づく運営に加え、さまざまなリスクを統合的に管理し、業務の健全性と適切性を維持し安定した収益を確保するための体制整備を行っております。

管理の対象としているリスク

管理するリスクの種類	概 要
信用リスク	お取引先(ご融資先)の財務状況の悪化などにより、資産の価値が減少・消失し、損失を被るリスク
流動性リスク	予期せぬ資金の流失などにより損失を被るリスク
市場リスク	金利・為替・株式等の相場が変動することにより、金融商品の時価が変動し損失を被るリスク
オペレーショナルリスク	役職員が正確な事務処理を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより損失を被るリスク
システムリスク	システムの不備・誤作動・不正使用などにより損失を被るリスク
法務リスク	当行および役職員が取引先などとの法律関係や当行の法令等違反により損失を被るリスク
レピュテーションリスク	当行の業務の過程、役職員の活動若しくはシステムが不適切であること等により損失を被るリスク
イベントリスク	犯罪・自然災害等の偶発的要因から発生した事件・事故等により損失を被るリスク

⑫ 当行のリスク管理体制



組織・ネットワーク

役員一覧

取締役



取締役頭取【代表取締役】
たなか きょうじ
田中 暁爾



専務取締役【代表取締役】
しょうの かずひろ
正野 和広



常務取締役
いわした ゆきとし
岩下 幸利



常務取締役
おおやま あきほ
大山 聡徳



取締役営業統括部長
ふるその まさひこ
古園 雅彦



取締役本店営業部長兼天文館支店長
うえの たかふみ
上野 貴史



取締役融資部長
ありしま かずひろ
有島 一寛



取締役地域成長支援部長
はせ だいし
長谷 大士

取締役(社外)

監査役



取締役(社外)
さかかわ なおふみ
逆瀬川 尚文



取締役(社外)
やまがた ゆみこ
山縣 由美子



取締役(社外)
としよう ひろみつ
東條 広光



常勤監査役
たにくち ゆきひこ
谷口 幸彦



監査役(社外)
よくら しょうじ
與倉 昭治



監査役(社外)
うえやま ゆきまさ
上山 幸正



監査役(社外)
うえの そういちろう
上野 総一郎

執行役員

執行役員リテール事業部長 鮫島 勝昭
執行役員総合企画部長兼AI・データサイエンス室長 若松 丈
執行役員事務システム部長 入田 啓之
執行役員業務監査部長 樋口 順也
執行役員市場営業部長 吉永 学

執行役員熊本営業部長兼玉名支店長兼熊本・福岡ブロック長 今村 直哉
執行役員秘書室長 徳尾 英明
執行役員人事総務部長兼人材開発室長 田之上 健
執行役員地域成長支援部副部長 山下 幸男

(2026年6月末現在)

組織・ネットワーク

主要な業務内容

預金業務 当座預金、普通預金、貯蓄預金、通知預金、定期預金、納税準備預金等を取り扱っております。

融資業務 手形貸付、証書貸付、当座貸越を取り扱っております。また、手形の割引、電子記録債権割引(でんさい割引)を取り扱っております。

内国為替業務 送金為替、代金取立等を取り扱っております。

証券業務 国債等公共債の売買業務を行っております。

附帯業務 損害保険及び生命保険の窓口販売などを行っております。

WIN-WINネット業務 中小規模事業者のお取引先に対して、新たな販路開拓や事業運営方法の改善を行っております。

南日本銀行のあゆみ

1913 (大正 2) 年	9月	●同仁貯金合資会社設立(創業) ●本店/鹿児島県始良郡東国分村(現霧島市国分広瀬)
1936 (昭和11) 年	4月	●鹿児島無尽株式会社に組織変更
1937 (昭和12) 年	5月	●鹿児島支店(現本店の旧館)新築落成
1943 (昭和18) 年	11月	●鹿児島無尽株式会社、 鹿児島相互無尽株式会社合併設立
1951 (昭和26) 年	10月	●相互銀行法施行に伴い、 株式会社旭相互銀行に商号変更
1953 (昭和28) 年	11月	●内国為替取扱開始
1958 (昭和33) 年	10月	●旭相互銀行健康保険組合発足
1960 (昭和35) 年	1月	●日本銀行と当座取引開始
1962 (昭和37) 年	12月	●日本銀行歳入代理店事務取扱開始 ●旭ビルディング(株)設立
1963 (昭和38) 年	4月	●旭保養センター完成
	9月	●創業50周年
1967 (昭和42) 年	12月	●本店増改築落成
1973 (昭和48) 年	6月	●行内報「あさひ」創刊(現在の「みなみ」)
	11月	●両替業務取扱開始
1976 (昭和51) 年	9月	●為替オンラインシステム稼働
1977 (昭和52) 年	8月	●第1次オンラインシステム稼働
1979 (昭和54) 年	2月	●全銀データ通信システム加盟
1980 (昭和55) 年	4月	●外国為替業務取扱開始
	5月	●「旭相互銀行史」発刊
	11月	●旭霧島荘オープン
1981 (昭和56) 年	5月	●旭ボランティアサークル結成
	6月	●相銀ワイドサービス(SCS)取扱開始
1982 (昭和57) 年	8月	●金の売買業務取扱開始
1983 (昭和58) 年	4月	●国債窓口販売業務開始
1984 (昭和59) 年	3月	●南九州サービス(株)設立
1985 (昭和60) 年	7月	●旭ファイナンス(株)設立(現なんぎんリース(株))
	12月	●自由金利型定期預金の取扱開始
1986 (昭和61) 年	6月	●旭ビジネスサービス(株)設立
1987 (昭和62) 年	4月	●鹿児島ネットサービス(KNS)取扱開始
	6月	●公共債ディーリング業務取扱開始
	7月	●あさひニュービジネスクラブ(ANBC)設立
	10月	●福岡証券取引所に株式上場
	11月	●旭相互銀行厚生年金基金設立
1988 (昭和63) 年	11月	●南日本銀行VI発表 (シンボルマーク・ペットネーム「フレッシュバンク」を制定)
1989 (平成 元) 年	2月	●普通銀行に転換、南日本銀行に商号変更 ●(社)全国銀行協会へ加盟 ●東京支店、東京事務所開設
1990 (平成 2) 年	3月	●アサヒエステート(株)設立
	8月	●南日本バンクカード(株)設立
	12月	●イメージキャラクター「なんちゃん・ミミちゃん」決定
1991 (平成 3) 年	1月	●テレビ広告開始
	6月	●里村指定金融機関事務取扱開始
1992 (平成 4) 年	3月	●本店営業部全面改装
1994 (平成 6) 年	4月	●地元5行庫による店舗外現金自動設備の共同利用開始
1996 (平成 8) 年	11月	●本店営業部・県庁出張所開設
1997 (平成 9) 年	3月	●「なんぎん産学交流支援サービス」取扱開始
1998 (平成10) 年	12月	●本店の建物が県内初の登録有形文化財に登録
1999 (平成11) 年	3月	●郵便局とのATM(CD)相互利用開始
	9月	●証券投資信託の窓口販売業務取扱開始
2000 (平成12) 年	3月	●第三者割当増資により資本金91億1百万円
2001 (平成13) 年	4月	●損害保険商品窓口販売開始
2002 (平成14) 年	10月	●生命保険窓口販売開始
	11月	●ダイレクトローンセンター業務開始
2003 (平成15) 年	8月	●四半期情報開示開始
2004 (平成16) 年	6月	●執行役員制度導入
	10月	●決済用普通預金取扱開始
2006 (平成18) 年	4月	●本店が「鹿児島市より」環境管理事務所」に認定
2008 (平成20) 年	10月	●なんぎん住宅ローンセンター開設
2009 (平成21) 年	3月	●第三者割当方式によるA種優先株式150億円発行 ●資本金166億1百万円
	5月	●なんぎん個人相談プラザ開設
	11月	●花棚支店開設(2010年3月移転オープン)
2010 (平成22) 年	3月	●熊本支店(河原町支店及び熊本市場支店を統合後) 熊本営業部へ昇格
2011 (平成23) 年	4月	●ミナミネット支店開設
	10月	●WIN-WINネット業務開始
2012 (平成24) 年	5月	●種子島支店リニューアルオープン(新築移転)
	10月	●西谷山出張所開設(2013年4月移転オープン)
	11月	●withyouプラザ開設
2013 (平成25) 年	8月	●イメージキャラクター「わっせかくん」決定
	9月	●創業100周年 ●上川内出張所開設(2014年2月移転オープン)
2014 (平成26) 年	4月	●伊集院支店リニューアルオープン(新築移転)
	9月	●西田支店オープン(城西支店と宮田通支店を統合)
2016 (平成28) 年	3月	●笠之原支店リニューアルオープン(新築移転)
	10月	●紫原支店リニューアルオープン(新築移転)
2017 (平成29) 年	5月	●上町支店リニューアルオープン(新築移転)
	9月	●東京支店リニューアルオープン
2019 (平成31) 年	1月	●新勘定システム稼働開始
2019 (令和 元) 年	8月	●福岡支店リニューアルオープン
2020 (令和 2) 年	2月	●安房支店を屋久島支店内に移転統合(店舗内店舗)
	3月	●宮崎支店リニューアルオープン(移転)
	4月	●玉名支店を熊本営業部内に移転統合(店舗内店舗)
	9月	●「南日本銀行のあるべき姿」の整理
2021 (令和 3) 年	1月	●「南日本銀行グループSDGs宣言」の制定
	9月	●第三者割当方式によるB種優先株式85億円発行 ●資本金208億51百万円 ●下甕支店を鶴島支店内に移転統合(店舗内店舗)
	10月	●明和出張所を西田支店内に移転統合(店舗内店舗)
	11月	●天文館支店を本店営業部内に移転統合(店舗内店舗)
2022 (令和 4) 年	9月	●A種優先株式150億円を取得・消却 ●資本金133億51百万円
2023 (令和 5) 年	1月	●企業理念体系の再定義および「パーパス」、 「なんぎんウェイ2023」、「コーポレートメッセージ」の制定
	4月	●株式会社なんぎんキャピタル設立 ●東京支店リニューアルオープン(移転)
	5月	●「ITCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言」への賛同を表明 ●第1次中期経営計画公表
	9月	●創業110周年 ●地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)による創業地霧島市への寄付 ●「かごしま市健康づくりパートナー」への登録
	10月	●地元3行庫による「Payどん」を活用したキャッシュレス事業開始
	11月	●「かごしま『働き方改革』推進企業」の認定取得
	12月	●国の登録有形文化財である本店建物の夜間ライトアップ開始
2024 (令和 6) 年	2月	●始良支店リニューアルオープン(店舗新築:Nearly ZEB認証)
	3月	●WIN-WINネット業務の売上付与累計金額100億円
	11月	●有料職業紹介事業の許可取得および人材紹介業務の取扱開始
2025 (令和 7) 年	2月	●「パートナーシップ構築宣言」の制定
	4月	●人事諸制度改定 ~人事諸制度改定の枠組み「TSUNAGU(つなぐ)」~
	8月	●「かごしま半導体関連産業共創協議会」へ入会
	10月	●「健康経営宣言」を公表 ●「DX認定事業者」の認定取得
2026 (令和 8) 年	3月	●健康経営優良法人2026(大規模法人部門)認定
	5月	●第2次中期経営計画公表

組織・ネットワーク

店舗一覧(本支店61カ所・出張所3カ所)

(2026年6月末現在)

鹿児島県(本支店52カ所・出張所3カ所) 銀行コード0594							
店舗名	店舗	住所	電話番号	窓口営業時間	キャッシュコーナーご利用時間 平日 土日祝	ATM機能	
本店営業部	住	100	鹿児島市山下町1番1号	(099)226-1111	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
天文館支店	BB 住	110	鹿児島市山下町1番1号(本店営業部内)	(099)226-1111	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00 (上記は本店営業部ATMの営業時間)	IC 緑 視
県庁支店	住	101	鹿児島市鴨池新町10番1号県庁行政棟内	(099)286-5481	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~18:00 休ませていただきます	IC 緑 視
中央支店	住	130	鹿児島市中央町26番18号	(099)254-8166	9:00~15:00	8:00~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
城南支店	住	160	鹿児島市新屋敷町26番10号	(099)226-1041	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
西田支店	住	170	鹿児島市西田2丁目15番15号	(099)258-2265	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
明和出張所	BB 住	192	鹿児島市西田2丁目15番15号(西田支店内)	(099)258-2265	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00 (上記は西田支店ATMの営業時間)	IC 緑 視
玉里支店	住	202	鹿児島市玉里団地3丁目19番2号	(099)229-3691	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
草牟田支店	住	206	鹿児島市草牟田2丁目19番20号	(099)226-2551	9:00~15:00	8:45~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
伊敷支店	住	140	鹿児島市伊敷1丁目3番25号	(099)220-9236	9:00~15:00	8:00~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
上町支店	住	190	鹿児島市大竜町3番11号	(099)226-0101	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 8:00~21:00	IC 緑 視
花棚支店	住	193	鹿児島市吉野2丁目29番20号	(099)243-5001	9:00~15:00	8:00~21:00 8:00~21:00	IC 緑 視
吉野支店	住	191	鹿児島市吉野町1762番地1	(099)243-5151	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
脇田支店	住	150	鹿児島市宇宿3丁目16番3号	(099)258-3161	9:00~15:00	8:00~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
紫原支店	住	204	鹿児島市紫原4丁目35番地19	(099)257-1911	9:00~15:00	8:00~21:00 8:00~21:00	IC 緑 視
桜ヶ丘支店	住	209	鹿児島市桜ヶ丘3丁目3番地6	(099)265-1711	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
星ヶ峯支店	住	151	鹿児島市星ヶ峯2丁目26番7号	(099)265-1211	9:00~15:00	8:45~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
谷山支店	住	200	鹿児島市和田1丁目22番地1	(099)268-2141	9:00~15:00	8:45~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
西谷山出張所	住	199	鹿児島市西谷山1丁目8番25号	(099)268-1300	9:00~15:00	8:45~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
卸本町支店	住	201	鹿児島市卸本町6番地13	(099)260-2611	9:00~15:00	8:45~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
東谷山支店	住	205	鹿児島市東谷山2丁目41番23号	(099)268-7711	9:00~15:00	8:45~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
荒田支店	住	120	鹿児島市荒田2丁目11番4号	(099)254-9101	9:00~15:00	8:00~20:00 9:00~18:00	IC 緑 視
与次郎ヶ浜支店	住	203	鹿児島市与次郎1丁目9番35号	(099)259-1351	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
鴨池支店	住	180	鹿児島市鴨池1丁目32番12号	(099)252-2303	9:00~15:00	8:45~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視
喜入支店	住	211	鹿児島市喜入町7016番地1	(099)345-2222	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~18:00 9:00~18:00	IC 緑 視
国分支店	住	220	霧島市国分中央1丁目27番25号	(099)45-0460	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
隼人支店	住	225	霧島市隼人町見次300番地4	(099)43-1623	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
加治木支店	住	230	始良市加治木町本町121番地	(099)62-3161	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
始良支店	住	231	始良市宮島町21番地11	(099)65-6111	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
種子島支店	住	240	西之表市東町154番地	(099)72-1541	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~18:00 9:00~17:00	IC 緑 視
屋久島支店	住	250	熊毛郡屋久島町宮之浦93番地	(099)742-0511	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~18:00 9:00~17:00	IC 緑 視
安房支店	BB 住	251	熊毛郡屋久島町宮之浦93番地(屋久島支店内)	(099)742-0511	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~18:00 9:00~17:00 (上記は屋久島支店ATMの営業時間)	IC 緑 視
大島支店	住	260	奄美市名瀬末広町1番26号	(099)752-2441	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~19:00 9:00~19:00	IC 緑 視
川内支店	住	300	薩摩川内市西向田町14番15号	(099)622-3171	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
上川内出張所	住	301	薩摩川内市中郷2丁目6番18号	(099)623-1001	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
出水支店	住	310	出水市昭和町10番1号	(099)62-0195	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
阿久根支店	住	320	阿久根市琴平町42番地	(099)672-0485	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
宮之城支店	住	330	薩摩郡さつま町宮之城城屋地1569番地	(099)653-0830	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
大口支店	住	340	伊佐市大口上町9番地4	(099)22-1521	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
串木野支店	住	350	いちき串木野市旭町173番地	(099)632-3141	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
飴島支店	住	360	薩摩川内市上飯町中飯311番地	(099)692-0019	9:00~15:00	8:45~17:00 休ませていただきます	IC 緑 視
下飯支店	BB 住	361	薩摩川内市上飯町中飯311番地(飴島支店内)	(099)692-0019	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:45~17:00 休ませていただきます (上記は飴島支店ATMの営業時間)	IC 緑 視
鹿屋支店	住	400	鹿屋市大手町1番1-2102号	(099)42-3145	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
笠之原支店	住	401	鹿屋市笠之原町1番70号	(099)43-6911	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
垂水支店	住	410	垂水市本町12番地	(099)432-1134	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
志布志支店	住	420	志布志市志布志町志布志2丁目15番8号	(099)472-1027	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
末吉支店	住	650	曽於市末吉町上町4丁目4番地11	(098)76-1155	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
加世田支店	住	500	南さつま市加世田本町50番地1	(099)52-2161	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
吹上支店	住	510	日置市吹上町中原2466番地	(099)296-2141	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
伊集院支店	住	520	日置市伊集院町徳重2丁目6番地5	(099)273-2151	9:00~15:00	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
川辺支店	住	530	南九州市川辺町平山6960番地	(099)56-1161	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
枕崎支店	住	540	枕崎市西本町77番地	(099)72-3221	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
額娃支店	住	550	南九州市額娃町郡1424番地	(099)36-1135	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
指宿支店	住	210	指宿市大牟礼1丁目20番2号	(099)22-3201	9:00~15:00 (11:30~12:30窓口休業)	8:00~21:00 9:00~19:00	IC 緑 視
ミナミネット支店	住	373	鹿児島市中町11番11号南日本銀行第2ビル1F	0120-791-373	9:00~17:00	— —	IC 緑 視

宮崎県(支店2カ所)

宮崎支店	往	600	宮崎市橘通西3丁目3-27(アートセンタービル2階)	(0985)22-5135	9:00~15:00	— —	IC 緑 視
都城支店	往	630	都城市上町9街区26号	(0986)23-0668	9:00~15:00	9:00~18:00 休ませていただきます	IC 緑 視

熊本県(支店4カ所)

熊本営業部	往	700	熊本市中央区下通1丁目7番20号	(096)352-7131	9:00~15:00	9:00~18:00 9:00~18:00	IC 緑 視
玉名支店	BB 往	760	熊本市中央区下通1丁目7番20号(熊本営業部内)	(096)352-7131	9:00~15:00	9:00~18:00 9:00~18:00 (上記は熊本営業部ATMの営業時間)	IC 緑 視
八代支店	往	800	八代市本町3丁目1番19号	(096)532-2141	9:00~15:00	9:00~18:00 9:00~18:00	IC 緑 視
人吉支店	往	820	人吉市紺屋町73番地1	(0966)22-3225	9:00~15:00	9:00~19:00 9:00~18:00	IC 緑 視

福岡県(支店2カ所)

福岡支店	900	福岡市博多区冷泉町10番21号南日本博多ビル2階	(092)281-2631	9:00~15:00	9:00~18:00	休ませていただきます	IC 緑 視
小倉支店	960	北九州市小倉北区馬借3丁目2番23号	(093)521-4081	9:00~15:00	9:00~17:00	休ませていただきます	IC 緑 視

東京都(支店1カ所)

東京支店	991	東京都中央区日本橋三丁目15番2号 東京鹿児島ビル2階	(03)3270-7210	9:00~15:00	— —	— —	IC 緑 視
------	-----	-----------------------------	---------------	------------	-----	-----	--------

往 印は住宅金融支援機構業務取扱店 BB 印はプランチ・イン・プランチ(店舗内店舗)形式の店舗 印は窓口業務の昼時間休業導入店舗 ATM機能: IC 印はIC対応 緑 印は通帳繰越 視 印は視覚障がい者対応

各種相談窓口(1カ所)

鹿児島県(1カ所)

店舗名	住所	取扱業務	電話番号
with you プラザ	鹿児島市中町11番11号南日本銀行第2ビル1F	消費者ローンご相談 住宅ローンご相談	0120-791-373 0120-131-373

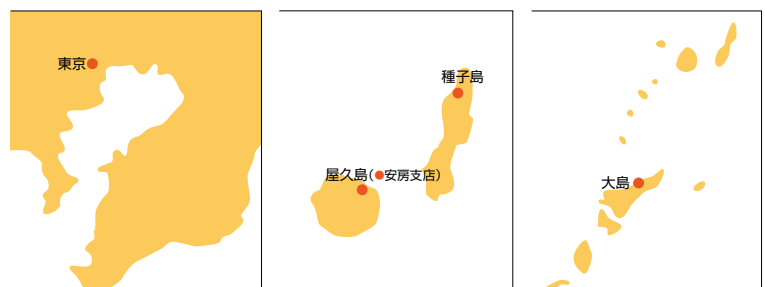
組織・ネットワーク

① ネットワーク

鹿児島市内店舗 (2026年6月末現在)



●	営業部	2
●	支店	58
●	出張所	3
●	ネット支店	1
●	相談プラザ	1
合 計		65拠点



※()内は店舗内店舗方式による営業店。

組織・ネットワーク

店舗外ATM

(2026年6月末現在)

店舗外現金自動設備(62カ所)

店舗名	キャッシュコーナーご利用時間		店舗名	キャッシュコーナーご利用時間	
	平日	土・日・祝日		平日	土・日・祝日
鹿児島市			北薩地区		
鹿児島市役所共同	8:00～18:00	休ませていただきます	プラッセだいわ川内店共同	10:00～20:00	10:00～20:00
山形屋	9:00～19:00	9:00～19:00	だいわ中郷店共同	9:30～21:00	9:30～21:00
マルヤガーデنز共同	10:00～20:00	10:00～20:00	サンキュー出水店共同	9:00～21:00	9:00～21:00
天神ぴらもーる通り	8:00～21:00	8:00～21:00	プラッセだいわ宮之城店共同	9:30～21:00	9:30～21:00
ローソン鹿児島東千石店	8:00～23:00	8:00～23:00	はやひと	9:00～17:00	9:00～17:00
コモナートビル共同	8:00～21:00	8:00～21:00	だいわ串木野店共同	9:30～21:00	9:30～21:00
ローソン照国神社前店	8:00～23:00	8:00～23:00	里支所	9:00～18:00	9:00～17:00
ローソン鹿児島北ふ頭店	8:00～23:00	8:00～23:00	甌島支店下甌出張所	9:00～18:00	9:00～18:00
アーバンポート	8:00～21:00	8:00～21:00	長浜緑地公園	9:00～18:00	9:00～17:00
ローソン鹿児島中央駅前店	8:00～23:00	8:00～23:00	南薩地区		
ローソン鹿児島中央バスターミナル店	8:00～23:00	8:00～23:00	ニシムタ加世田店	9:00～20:00	9:00～19:00
JR鹿児島中央駅共同	8:00～21:00	8:00～21:00	山形屋ストア妙円寺店	9:30～20:00	9:30～20:00
ローソン鹿児島唐湊新川店	8:00～23:00	8:00～23:00	ローソン伊集院麦生田店	8:00～23:00	8:00～23:00
コープ田上店共同	9:00～21:00	9:00～21:00	グランド伊集院共同	8:30～21:00	8:30～21:00
ローソン鹿児島武岡五丁目店	8:00～23:00	8:00～23:00	ニシムタ指宿店共同	9:00～21:00	9:00～21:00
ファミリープラザめいわ	8:45～19:00	9:00～18:00	ニシムタ枕崎店	9:00～21:00	9:00～21:00
タイヨー西陵店	8:30～21:00	8:30～21:00	大隅地区		
ローソン鹿児島錦江町店	8:00～23:00	8:00～23:00	垂水中央病院	9:00～19:00	9:00～19:00
フレスポジャングルパーク共同	8:00～21:00	8:00～21:00	コープかごしま鹿屋店共同	9:30～21:00	9:30～21:00
鴨池新町南国ビル	9:00～18:00	9:00～17:00	ミネサキ旭原店	8:00～21:00	9:00～19:00
ニシムタスカイマーケット鴨池店共同	8:00～21:00	8:00～21:00	サンポートしづしアピア共同	8:30～20:00	9:00～19:00
ホームマートニシムタ伊敷店共同	8:00～21:00	8:00～21:00	始良地区		
ローソン鹿児島小野三丁目店	8:00～23:00	8:00～23:00	タイヨー国分新町店共同	8:30～21:00	8:30～21:00
三船病院	9:00～17:00	9:00～17:00 (土曜日のみ稼働)	霧島市立医師会医療センター	9:30～18:00	休ませていただきます
ローソン鹿児島宇宿町店	8:00～23:00	8:00～23:00	イオン準人国分ショッピングセンター共同	9:00～21:00	9:00～21:00
サンキュー新栄店	8:00～21:00	8:00～21:00	フレスポ国分ジャングルパーク共同	9:00～21:00	9:00～21:00
ローソン鹿児島新栄町店	8:00～23:00	8:00～23:00	イオンタウン始良共同	9:00～21:00	9:00～21:00
オプシアミズミ	10:00～21:00	10:00～21:00	種子島地区		
イオンモール鹿児島	9:00～21:00	9:00～21:00	プラッセだいわ種子島店	9:30～21:00	9:30～21:00
エヌシティニシムタ谷山店共同	8:00～21:00	8:00～21:00	屋久島地区		
ローソン鹿児島谷山中央一丁目店	8:00～23:00	8:00～23:00	屋久島支店安房出張所	8:00～21:00	8:00～21:00
タイヨー坂之上店共同	8:30～21:00	8:30～21:00	熊本県玉名市		
タイヨー中山店	8:30～21:00	8:30～21:00	熊本営業部玉名出張所	9:00～18:00	9:00～18:00
ローソン鹿児島中山中津店	8:00～23:00	8:00～23:00			
タイヨー松元店	9:00～21:00	9:00～21:00			

セブン銀行ATM

全国のセブン-イレブンなどにあるセブン銀行ATMで当行キャッシュカードがお引出しについて**ほぼ24時間**ご利用いただけます。



南日本銀行 キャッシュカード ご利用時間・手数料

(消費税込含む)

	0:00	2:00	6:00	8:45	18:00	24:00
お引出し お預入れ	月曜 火～金曜 土曜・日曜	お取り扱い できません	220円	110円	220円	
残高照会	月曜 火～金曜 土曜・日曜	お取り扱い できません	無 料			

※1日のお引出し限度額は、50万円までとなります。
 ※1度にお引き出し、またはお預け入れ可能な紙幣の枚数は、50枚までとなります。
 ※祝日および年末日は、その曜日と同じ時間帯でご利用いただけます。
 ただし、お引出し・お預入れについてのご利用手数料は、土曜日・日曜日と同じお取り扱いとなります。



※詳しくは、当行ホームページ(<https://nangin.jp>)、または、セブン銀行ホームページ(<https://www.sevenbank.co.jp/>)をご覧ください。

(2026年6月末現在)

資 料 編

決算の状況（2026年3月期）

単体情報

貸借対照表	22
損益計算書・株主資本等変動計算書	23～24
注記事項	25
主要な経営指標等の推移〈単体〉	26
預金	27
貸出	28～30
利回り・利鞘等	31
資本・株式等	32
株式・従業員の状況等	33～34
粗利益・役務取引	35
業務純益等・その他業務収益・営業経費	36
資金運用・調達勘定等	37
受取利息・支払利息の増減	38
有価証券	39～41
デリバティブ取引情報	42
電子決済手段	42
暗号資産	42

連結情報

グループの概要	43～44
主要業務	45
連結貸借対照表	46
連結損益計算書及び連結包括利益計算書	47
連結株主資本等変動計算書	48
連結キャッシュ・フロー計算書・セグメント情報	49
注記事項	50～52
バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示	53～70
報酬等に関する開示事項（単体・連結）	71
銀行法施行規則に基づく索引	72

（注）諸計数は、原則として単位未満を切り捨てております。

監査の状況

連結財務諸表並びに財務諸表は、会社法第396条第1項及び金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、EY新日本有限責任監査法人の監査証明を受けています。

貸借対照表

■資産の部		(単位：百万円)	
科 目	期 別	2025年3月末 (2025年3月31日現在)	2026年3月末 (2026年3月31日現在)
現 金 預 け 金		137,225	150,372
現 金		14,397	11,908
預 け 金		122,827	138,464
金 銭 の 信 託		389	388
有 価 証 券		89,938	86,577
国 債		28,866	28,245
地 方 債		30,550	27,943
社 債		12,035	8,848
株 式		8,300	9,806
そ の 他 の 証 券		10,185	11,733
貸 出 金		592,299	615,889
割 引 手 形		1,797	1,344
手 形 貸 付		17,585	18,240
証 書 貸 付		509,459	531,846
当 座 貸 越		63,457	64,458
外 国 為 替		9	－
外 国 他 店 預 け		9	－
そ の 他 資 産		901	1,014
未 決 済 為 替 貸		115	105
未 収 収 益		477	608
そ の 他 の 資 産		307	300
有 形 固 定 資 産		11,320	11,304
建 物		2,164	2,060
土 地		8,258	8,245
リ ー ス 資 産		27	79
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産		870	918
無 形 固 定 資 産		550	652
ソ フ ト ウ エ ア		489	590
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産		60	62
前 払 年 金 費 用		539	545
繰 延 税 金 資 産		1,525	1,216
支 払 承 諾 見 返		3,890	3,960
貸 倒 引 当 金		△ 10,203	△ 8,967
資 産 の 部 合 計		828,386	862,956

■負債の部		(単位：百万円)	
科 目	期 別	2025年3月末 (2025年3月31日現在)	2026年3月末 (2026年3月31日現在)
預 金		776,149	807,291
当 座 預 金		11,758	13,579
普 通 預 金		420,521	422,916
貯 蓄 預 金		2,267	2,165
通 知 預 金		812	1,378
定 期 預 金		331,755	357,924
定 期 積 金		7,334	7,343
そ の 他 の 預 金		1,699	1,983
そ の 他 負 債		5,741	6,085
未 決 済 為 替 借		153	160
未 払 法 人 税 等		503	93
未 払 費 用		413	910
前 受 収 益		433	506
給 付 補 填 備 金		1	5
リ ー ス 債 務		27	79
資 産 除 去 債 務		18	19
そ の 他 の 負 債		4,188	4,309
退 職 給 付 引 当 金		162	107
睡眠預金払戻損失引当金		35	19
偶 発 損 失 引 当 金		593	620
再 評 価 に 係 る 繰 延 税 金 負 債		1,157	1,157
支 払 承 諾		3,890	3,960
負 債 の 部 合 計		787,730	819,242

■純資産の部		(単位：百万円)	
科 目	期 別	2025年3月末 (2025年3月31日現在)	2026年3月末 (2026年3月31日現在)
資 本 金		13,351	13,351
資 本 剰 余 金		5,204	5,204
資 本 準 備 金		4,250	4,250
そ の 他 資 本 剰 余 金		954	954
利 益 剰 余 金		20,507	22,857
利 益 準 備 金		1,565	1,649
そ の 他 利 益 剰 余 金		18,941	21,208
繰 越 利 益 剰 余 金		18,941	21,208
自 己 株 式		△ 8	△ 245
株 主 資 本 合 計		39,054	41,168
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金		△ 672	272
土 地 再 評 価 差 額 金		2,273	2,273
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計		1,601	2,546
純 資 産 の 部 合 計		40,656	43,714
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計		828,386	862,956

損益計算書

■損益計算書				(単位：百万円)	
期 別		2025年3月期	2026年3月期		
科 目		〔2024年4月 1日から 2025年3月31日まで〕	〔2025年4月 1日から 2026年3月31日まで〕		
経 常 収 益		16,177	16,878		
資 金 運 用 収 益		12,655	13,859		
貸 出 金 利 息		11,316	12,072		
有価証券利息配当金		1,014	1,053		
預 け 金 利 息		323	734		
その他の受入利息		0	0		
役 務 取 引 等 収 益		1,597	1,699		
受入為替手数料		510	516		
その他の役務収益		1,087	1,182		
そ の 他 業 務 収 益		5	60		
国債等債券売却益		5	60		
そ の 他 経 常 収 益		1,919	1,259		
償却債権取立益		2	0		
株式等売却益		1,658	1,160		
金銭の信託運用益		－	0		
その他の経常収益		258	97		
経 常 費 用		13,464	13,988		
資 金 調 達 費 用		526	1,738		
預 金 利 息		526	1,738		
役 務 取 引 等 費 用		1,809	1,800		
支払為替手数料		47	48		
その他の役務費用		1,762	1,752		

				(単位：百万円)	
期 別		2025年3月期	2026年3月期		
科 目		〔2024年4月 1日から 2025年3月31日まで〕	〔2025年4月 1日から 2026年3月31日まで〕		
そ の 他 業 務 費 用		650	121		
外国為替売却損		0	8		
国債等債券売却損		629	112		
国債等債券償還損		20	－		
営 業 経 費		9,135	9,509		
そ の 他 経 常 費 用		1,341	816		
貸倒引当金繰入額		982	445		
株式等売却損		164	137		
金銭の信託運用損		0	－		
その他の経常費用		194	234		
経 常 利 益		2,713	2,890		
特 別 利 益		31	147		
固定資産処分益		31	0		
移 転 補 償 金		－	146		
特 別 損 失		42	23		
固定資産処分損		14	2		
減 損 損 失		28	21		
税 引 前 当 期 純 利 益		2,702	3,013		
法人税、住民税及び事業税		629	356		
法 人 税 等 調 整 額		△ 80	△ 113		
法 人 税 等 合 計		548	243		
当 期 純 利 益		2,153	2,770		

株主資本等変動計算書

■2025年3月期（2024年4月1日から2025年3月31日まで） (単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当 期 首 残 高	13,351	4,250	1,073	5,323	1,488	17,147	18,635
当 期 変 動 額							
剰 余 金 の 配 当						△ 385	△ 385
当 期 純 利 益						2,153	2,153
利 益 準 備 金 の 積 立					77	△ 77	－
自 己 株 式 の 取 得							
自 己 株 式 の 消 却			△ 118	△ 118			
土地再評価差額金の取崩						103	103
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当 期 変 動 額 合 計	－	－	△ 118	△ 118	77	1,794	1,871
当 期 末 残 高	13,351	4,250	954	5,204	1,565	18,941	20,507

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当 期 首 残 高	△ 13	37,296	1,704	2,410	4,115	41,412
当 期 変 動 額						
剰 余 金 の 配 当		△ 385				△ 385
当 期 純 利 益		2,153				2,153
利 益 準 備 金 の 積 立		－				－
自 己 株 式 の 取 得	△ 114	△ 114				△ 114
自 己 株 式 の 消 却	118	－				－
土地再評価差額金の取崩		103				103
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			△ 2,376	△ 137	△ 2,513	△ 2,513
当 期 変 動 額 合 計	4	1,757	△ 2,376	△ 137	△ 2,513	△ 756
当 期 末 残 高	△ 8	39,054	△ 672	2,273	1,601	40,656

■2026年3月期（2025年4月1日から2026年3月31日まで） (単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当 期 首 残 高	13,351	4,250	954	5,204	1,565	18,941	20,507
当 期 変 動 額							
剰 余 金 の 配 当						△ 420	△ 420
当 期 純 利 益						2,770	2,770
利 益 準 備 金 の 積 立					84	△ 84	－
自 己 株 式 の 取 得							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当 期 変 動 額 合 計	－	－	－	－	84	2,266	2,350
当 期 末 残 高	13,351	4,250	954	5,204	1,649	21,208	22,857

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当 期 首 残 高	△ 8	39,054	△ 672	2,273	1,601	40,656
当 期 変 動 額						
剰 余 金 の 配 当		△ 420				△ 420
当 期 純 利 益		2,770				2,770
利 益 準 備 金 の 積 立		－				－
自 己 株 式 の 取 得	△ 236	△ 236				△ 236
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			944	－	944	944
当 期 変 動 額 合 計	△ 236	2,113	944	－	944	3,058
当 期 末 残 高	△ 245	41,168	272	2,273	2,546	43,714

注記事項

■重要な会計方針

- 1.商品有価証券の評価基準及び評価方法
商品有価証券の評価基準は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。
- 2.有価証券の評価基準及び評価方法
(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。
- 3.デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- 4.固定資産の減価償却の方法
(1) 有形固定資産（リース資産を除く）
有形固定資産は、定率法（ただし、1998年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。
なお、主な耐用年数は次のとおりであります。
建 物： 8年～50年
その他： 5年～30年
(2) 無形固定資産（リース資産を除く）
無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。
(3) リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。また、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

5.外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

6.収益及び費用の計上基準

顧客との契約から生じる収益の計上基準
当行の顧客と生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務は、金融サービスに係る役務の提供であり、主に約束したサービスが顧客に移転した時点で、当該サービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

7.引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金
貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 2022年4月14日）に規定する正常先償債及び要注先償債に相当する債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。破綻懸念先償債に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先償債及び実質破綻先償債に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。
破綻懸念先及び貸出条件緩和と債権等を有する債務者で与信額が一定以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積ることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和と実施前の約定利率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署の協力の下に資産査定部署が資産査定を実施しております。
- (2) 退職給付引当金
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。
数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理
- (3) 睡眠預金払戻損失引当金
睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。
- (4) 偶発損失引当金
偶発損失引当金は、信用保証協会との責任共有制度の代位弁済に伴い発生する負担金等の支払い等に備えるため、将来発生する損失額を見積り計上しております。

8.ヘッジ会計の方法

為替変動リスク・ヘッジ
外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 2020年10月8日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを軽減する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。
なお、一部の資産・負債については、金利スワップの特例処理を行っております。

9.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

- (1) 退職給付に係る会計処理
退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
- (2) 消費税等の会計処理
有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

■重要な会計上の見積り

会計上の見積りにより当事業年度に係る財務諸表にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

1.貸倒引当金

- (1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額
貸倒引当金 8,967百万円
- (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報
①算出方法
貸倒引当金の算出方法は、「注記事項 重要な会計方針」の7.引当金の計上基準「(1) 貸倒引当金」に記載しております。
②主要な仮定
主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。
③翌事業年度に係る財務諸表に及ぼす影響
個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合は、翌事業年度に係る財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

■貸借対照表関係

- 1.関係会社の株式又は出資金の総額
株式 50百万円
出資金 455百万円
- 2.銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私債（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに法記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は質貸借契約によるものに限る。）であります。
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額 5,942百万円
危険債権額 17,554百万円
三月以上延滞債権額 ー百万円
貸出条件緩和と債権額 5,772百万円
合計額 29,270百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。
三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。
貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元金の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。
なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
3.手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日。以下「業種別委員会実務指針第24号」という。）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。
1,344百万円

4.担保に供している資産は次のとおりであります。

- 担保に供している資産
- | | |
|-------------|------|
| 有価証券 | ー百万円 |
| 担保資産に対応する債務 | |
| コールマネー | ー百万円 |
- 上記のほか、為替決済、日本銀行共通担保等の担保として、次のものを差し入れております。
- | | |
|------|-----------|
| 預け金 | 7百万円 |
| 有価証券 | 25,693百万円 |
- また、その他の資産には、敷金等が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。
- | | |
|-----|-------|
| 敷金等 | 60百万円 |
|-----|-------|
- なお、手形の再割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しておりますが、これにより引き渡した商業手形はありません。
- 5.当座貸越契約及び貸付金に係るコメントメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。
- | | |
|------------------|-----------|
| 融資未実行残高 | 46,399百万円 |
| うち契約残存期間が1年以内のもの | 45,114百万円 |
- なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも出行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約権限の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
- 6.有形固定資産の圧縮記憶帳
- | | |
|---------------|--------|
| 圧縮記憶帳 | 297百万円 |
| （当事業年度の圧縮記憶帳） | （ー百万円） |
- 7.「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私専（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額
- | | |
|--|--------|
| | 780百万円 |
|--|--------|

■損益計算書関係

- 1.その他の経常収益には次のものを含んでおります。
貸出債権売却益 70百万円
- 2.その他の経常費用には次のものを含んでおります。
偶発損失引当金繰入額 1,96百万円

■有価証券関係

子会社株式及び関連会社株式			
	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	ー	ー	ー
関連会社株式	ー	ー	ー
合計	ー	ー	ー
(注) 上表に含まれない市場価格のない株式等の貸借対照表計上額 (単位：百万円)			
子会社株式 及び出資金	500		
関連会社株式	5		

■税効果会計関係

- 1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
繰延税金資産

貸倒引当金	2,498百万円
退職給付引当金	256百万円
有価証券	101百万円
その他有価証券評価差額金	14百万円
その他	479百万円
繰延税金資産小計	3,349百万円
評価性引当額	△ 1,428百万円
繰延税金資産合計	1,921百万円
繰延税金負債	
前払年金費用	△ 170百万円
その他	△ 533百万円
繰延税金負債合計	△ 704百万円
繰延税金資産の純額	1,216百万円

- 2.法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳
法定実効税率 30.4%
(調整)
交際費等永久に損金に算入されない項目 1.4%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目 △ 0.7%
住民税均等割 0.6%
評価性引当額の増減 △ 21.3%
その他 △ 2.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率 8.0%

■重要な後発事象

該当事項はありません。

主要な経営指標等の推移〈単体〉

決算年月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月	2026年3月
経 常 収 益	15,009 百万円	14,205	14,135	16,177	16,878
経 常 利 益	2,885 百万円	1,900	1,995	2,713	2,890
当 期 純 利 益	2,205 百万円	1,549	1,575	2,153	2,770
資 本 金 (発 行 済 株 式 総 数)	20,851 百万円 普通株式 (8,096) A種優先株式 (3,000) 千株 B種優先株式 (850)	13,351 普通株式 (8,096) A種優先株式 () B種優先株式 (850)	13,351 普通株式 (7,916) A種優先株式 () B種優先株式 (850)	13,351 普通株式 (7,768) A種優先株式 () B種優先株式 (850)	13,351 普通株式 (7,768) A種優先株式 () B種優先株式 (850)
純 資 産 額	52,712 百万円	38,015	41,412	40,656	43,714
総 資 産 額	880,633 百万円	848,981	825,761	828,386	862,956
預 金 残 高	782,042 百万円	777,213	776,776	776,149	807,291
貸 出 金 残 高	588,157 百万円	578,877	583,501	592,299	615,889
有 価 証 券 残 高	83,220 百万円	80,394	84,666	89,938	86,577
1 株 当 たり 純 資 産 額	3,599.02 円	3,638.90	4,143.93	4,125.87	4,646.39
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	普通株式 25.00 円 () A種優先株式 60.30 円 () B種優先株式 87.74 円 ()	普通株式 25.00 円 () A種優先株式 — () B種優先株式 175.00 円 ()	普通株式 30.00 円 () A種優先株式 — () B種優先株式 175.00 円 ()	普通株式 35.00 円 () A種優先株式 — () B種優先株式 175.00 円 ()	普通株式 50.00 円 () A種優先株式 — () B種優先株式 175.00 円 ()
1 株 当 たり 当 期 純 利 益	242.39 円	162.74	179.01	256.22	340.10
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	69.70 円	73.89	83.69	119.63	197.16
単体自己資本比率 (国内基準)	11.04 %	8.11	8.26	9.49	9.77
自 己 資 本 利 益 率	4.59 %	3.41	3.96	5.24	6.56
株 価 収 益 率	2.64 倍	3.93	5.24	3.21	4.11
配 当 性 向	10.31 %	15.36	16.75	13.66	14.70
従 業 員 数	633 人	630	618	606	599

(注) 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。

預 金

■預金科目別残高・平残 (単位：百万円 (構成比%))

2025年3月期		期 末 残 高		平 均 残 高	
区 分		国内業務部門	国際業務部門	国内業務部門	国際業務部門
預	流 動 性 預 金	435,359 (56.1)	435,359 (56.1)	438,164 (56.5)	438,164 (56.5)
	うち有利息預金	423,601 (54.6)	423,601 (54.6)	426,876 (55.0)	426,876 (55.0)
	定 期 性 預 金	339,090 (43.7)	339,090 (43.7)	336,056 (43.3)	336,056 (43.3)
	うち固定金利定期預金	331,747 (42.7)	331,747 (42.7)	328,322 (42.3)	328,322 (42.3)
	うち変動金利定期預金	8 (0.0)	8 (0.0)	8 (0.0)	8 (0.0)
金	そ の 他	1,699 (0.2)	1,660 (0.2)	1,866 (0.2)	1,813 (0.2)
	合 計	776,149 (100.0)	776,110 (100.0)	776,087 (100.0)	776,035 (100.0)
譲 渡 性 預 金		-	-	-	-
総 合 計		776,149	776,110	776,087	776,035

2026年3月期		期 末 残 高		平 均 残 高	
区 分		国内業務部門	国際業務部門	国内業務部門	国際業務部門
預	流 動 性 預 金	440,040 (54.5)	440,040 (54.5)	437,496 (55.2)	437,496 (55.2)
	うち有利息預金	395,446 (49.0)	395,446 (49.0)	391,766 (49.4)	391,766 (49.4)
	定 期 性 預 金	365,268 (45.2)	365,268 (45.2)	353,434 (44.6)	353,434 (44.6)
	うち固定金利定期預金	357,907 (44.3)	357,907 (44.3)	346,200 (43.7)	346,200 (43.7)
	うち変動金利定期預金	16 (0.0)	16 (0.0)	8 (0.0)	8 (0.0)
金	そ の 他	1,983 (0.2)	1,983 (0.2)	1,822 (0.2)	1,802 (0.2)
	合 計	807,291 (100.0)	807,291 (100.0)	792,753 (100.0)	792,733 (100.0)
譲 渡 性 預 金		-	-	-	-
総 合 計		807,291	807,291	792,753	792,733

(注) 1. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金
2. 定期性預金＝定期預金＋定期積金
 固定金利定期預金——預入時に満期日までの利率が確定する定期預金
 変動金利定期預金——預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金
3. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

■預金者別預金残高（国内） (単位：百万円)

種 類	2025年3月期	2026年3月期
個 人 預 金	536,755	542,201
法 人 預 金	209,421	221,889
合 計	746,176	764,090

(注) 譲渡性預金は除いております。

■定期預金の残存期間別残高 (単位：百万円)

種 類	期 間	3カ月未満	3カ月以上 6カ月未満	6カ月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上	合 計
	期 別							
定 期 預 金	2025年3月期	88,087	66,125	128,504	15,547	16,302	17,187	331,755
	2026年3月期	108,843	74,396	135,202	15,448	10,691	13,341	357,924
うち固定金利定期預金	2025年3月期	88,086	66,125	128,504	15,545	16,297	17,187	331,747
	2026年3月期	108,843	74,396	135,190	15,445	10,690	13,341	357,907
うち変動金利定期預金	2025年3月期	1	-	0	1	5	-	8
	2026年3月期	0	-	12	3	1	-	16

(注) 本表の預金残高には、積立定期預金を含んでおりません。

■財形貯蓄残高 (単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
合 計	1,336	1,187

貸 出

■貸出金残高・平残 (単位：百万円 (構成比%))

区 分	2025年3月期			2026年3月期		
	期 末 残 高		平 均 残 高	期 末 残 高		平 均 残 高
	国内業務部門	国際業務部門		国内業務部門	国際業務部門	
手 形 貸 付	17,585 (3.0)	17,585 (3.0)	18,013 (3.1)	18,240 (3.0)	18,334 (3.0)	18,334 (3.0)
証 書 貸 付	509,459 (86.0)	509,459 (86.0)	507,179 (86.4)	531,846 (86.3)	517,613 (86.3)	517,613 (86.3)
当 座 貸 越	63,457 (10.7)	63,457 (10.7)	60,743 (10.3)	64,458 (10.5)	62,950 (10.5)	62,950 (10.5)
割 引 手 形	1,797 (0.3)	1,797 (0.3)	1,227 (0.2)	1,344 (0.2)	1,088 (0.2)	1,088 (0.2)
合 計	592,299 (100.0)	592,299 (100.0)	587,162 (100.0)	615,889 (100.0)	599,986 (100.0)	599,986 (100.0)

■貸出金の残存期間別残高 (単位：百万円)

種 類	期 間 期 別	1 年 以 下	1 年 超 3 年 以 下	3 年 超 5 年 以 下	5 年 超 7 年 以 下	7 年 超	期 間 の 定 め の ない も の	合 計
貸 出 金	2025年3月期	32,490	27,962	47,696	59,421	361,271	63,457	592,299
	2026年3月期	35,887	25,828	57,746	48,171	383,796	64,458	615,889
う ち 変 動 金 利	2025年3月期	/	9,963	21,880	18,147	114,883	/	/
	2026年3月期	/	11,208	21,169	18,009	155,396	/	/
う ち 固 定 金 利	2025年3月期	/	17,999	25,815	41,273	246,387	/	/
	2026年3月期	/	14,620	36,577	30,161	228,400	/	/

(注) 残存期間 1 年以下の貸出金については、変動金利、固定金利の区別をしておりません。

■貸出金の使途別内訳 (単位：百万円、%)

	2025年3月期		2026年3月期	
	金額	構成比	金額	構成比
設 備 資 金	341,493	57.66	355,106	57.66
運 転 資 金	250,806	42.34	260,783	42.34
合 計	592,299	100.00	615,889	100.00

■中小企業等に関する貸出金 (単位：百万円、件)

期 別	総貸出金残高(A)		中小企業等貸出金残高(B)		(B) (A)	
	貸出先数	金額	貸出先数	金額	貸出先数	金額
2025年3月期	35,194	592,299	35,140	543,660	99.84	91.78
2026年3月期	34,919	615,889	34,860	553,528	99.83	89.87

(注) 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

■消費者ローン残高 (単位：百万円、%)

	2025年3月期	2026年3月期
消 費 者 ロ ー ン 残 高	147,492	151,451
う ち 住 宅 ロ ー ン 残 高	119,519	122,803
う ち そ の 他 ロ ー ン 残 高	27,973	28,648
総 貸 出 に 占 め る 比 率	24.9	24.5

決算の状況 単体情報

■貸出金業種別内訳

(単位：百万円、%)

業 種 別	2025年3月期		2026年3月期	
	貸出金残高	構 成 比	貸出金残高	構 成 比
国 内 (除く特別国際金融取引勘定分)	592,299	100.00	615,889	100.00
製 造 業	25,878	4.37	26,584	4.32
農 業、 林 業	6,737	1.14	6,615	1.07
漁 業	1,970	0.33	1,958	0.32
鉱業、採石業、砂利採取業	120	0.02	106	0.02
建 設 業	45,452	7.67	45,804	7.44
電気・ガス・熱供給・水道業	8,212	1.39	7,722	1.25
情 報 通 信 業	2,008	0.34	1,818	0.30
運 輸 業、 郵 便 業	13,589	2.29	14,735	2.39
卸 売 業、 小 売 業	58,538	9.88	57,224	9.29
金 融 業、 保 険 業	10,730	1.81	13,627	2.21
不動産業、物品賃貸業	137,822	23.27	142,815	23.19
その他の各種サービス業	99,791	16.85	101,444	16.47
地 方 公 共 団 体	28,943	4.89	39,064	6.34
そ の 他	152,509	25.75	156,363	25.39
特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—
政 府 等	—	—	—	—
金 融 機 関	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—
合 計	592,299	/	615,889	/

■貸出金担保別内訳

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
自 行 預 金	3,322	3,136
有 価 証 券	2,071	3,168
債 権	—	—
商 品	—	—
不 動 産	59,557	55,677
財 団	—	—
そ の 他	—	—
小 計	64,950	61,982
保 証	153,999	150,101
信 用	373,349	403,805
合 計	592,299	615,889

■支払承諾見返の担保別内訳

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
自 行 預 金	190	150
有 価 証 券	—	—
債 権	—	—
商 品	—	—
不 動 産	1,729	1,829
財 団	—	—
そ の 他	—	—
小 計	1,920	1,979
保 証	1	1
信 用	1,968	1,979
合 計	3,890	3,960

貸 出

■貸倒引当金内訳 (単位：百万円)

	2025年3月期	期中増減	2026年3月期	期中増減
貸 倒 引 当 金	10,166	△364	8,930	△1,236
一 般 貸 倒 引 当 金	3,096	156	3,072	△24
個 別 貸 倒 引 当 金	7,070	△519	5,858	△1,212

■貸出金償却額 (単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
貸 出 金 償 却 額	14	—

■金融再生法開示債権及びリスク管理債権 (単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	7,630	5,942
危 険 債 権 額	16,833	17,554
要 管 理 債 権 額	5,618	5,772
三 月 以 上 延 滞 債 権 額	—	—
貸 出 条 件 緩 和 債 権 額	5,618	5,772
合 計	30,082	29,270
正 常 債 権	567,313	591,791
総 与 信	597,396	621,062

【金融再生法開示債権及びリスク管理債権】

1. (破産更生債権及びこれらに準ずる債権)：破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

2. (危 険 債 権)：債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し契約に従った債権の元本の回収及び利息の受け取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないもの

3. (要 管 理 債 権)：三月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権

4. (三月以上延滞債権)：元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権およびこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないもの

5. (貸出条件緩和債権)：債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないもの

6. (正 常 債 権)：お取引先の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして上記に掲げる債権以外のものに区分される債権

(注)「銀行法施行規則等の一部を改正する内閣府令」が2022年3月31日から施行されたことに伴い、銀行法の「リスク管理債権」の区分等を、金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく開示債権の区分等に合わせて表示しております。

■引当等 (単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
保 全 額	24,517	23,311
貸 倒 引 当 金	9,170	7,806
担 保 保 証 等	15,346	15,504

(単位：%)

	2025年3月期	2026年3月期
保 全 率	81.50	79.64

■特定海外債権の残高
該当ありません。

利回り・利鞘等

■利回り・利鞘 (単位：％)

	2025年3月期			2026年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資 金 運 用 利 回 り	1.59	1.40	1.59	1.68	0.15	1.68
資 金 調 達 原 価	1.24	57.74	1.24	1.41	102.52	1.41
総 資 金 利 鞘	0.35	△56.34	0.35	0.27	△102.37	0.27

■預貸率及び預証率 (単位：％)

		2025年3月期			2026年3月期		
		国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
預 貸 率	期 末 残 高	76.31	－	76.31	76.29	－	76.29
	平 均 残 高	75.66	－	75.65	75.68	－	75.68
預 証 率	期 末 残 高	11.58	－	11.58	10.72	－	10.72
	平 均 残 高	11.21	89.51	11.21	11.06	－	11.06

■利益率 (単位：％)

	2025年3月期	2026年3月期
総 資 産 経 常 利 益 率	0.33	0.34
資 本 経 常 利 益 率	6.61	6.85
総 資 産 当 期 純 利 益 率	0.26	0.33
資 本 当 期 純 利 益 率	5.24	6.56

(注) 1. 総資産経常(当期純)利益率＝ $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{総資産(除く支払承諾見返)平均残高}} \times 100$

2. 資本経常(当期純)利益率＝ $\frac{\text{経常(当期純)利益}}{\text{資本勘定平均残高}} \times 100$

■外貨建資産残高 (単位：百万米ドル)

	2025年3月期	2026年3月期
外 貨 建 資 産	0	－

■外国為替取扱高 (単位：百万米ドル)

		2025年3月期	2026年3月期
仕 向 為 替	売 渡 為 替	1	0
	買 入 為 替	1	0
被仕向為替	支 払 為 替	－	－
	取 立 為 替	－	－
合 計		2	0

■店舗数の推移

	2025年3月期	2026年3月期
本 支 店	61	61
出 張 所	3	3
小 計	64	64
店舗外現金自動サービスコーナー	63	62
合 計	127	126

■内国為替取扱高 (単位：千口、百万円)

区 分		2025年3月期		2026年3月期	
		口 数	金 額	口 数	金 額
送 金 為 替	各地へ向けた分	1,985	1,352,922	1,984	1,400,328
	各地より受けた分	2,659	1,360,281	2,637	1,434,257
代 金 取 立	各地へ向けた分	3	8,302	2	5,233
	各地より受けた分	0	403	0	269

資本・株式等

■資本金の推移 (単位：百万円)			
	増 資 額	減 資 額	資 本 金
1973年10月 1日	370	－	1,000
1976年12月 1日	800	－	1,800
1983年10月 1日	925	－	2,725
1989年10月 1日	1,915	－	4,640
1989年11月15日	255	－	4,895
1992年 3月 1日	1,882	－	6,777
2000年 3月17日	2,323	－	9,101
2009年 3月31日	7,500	－	16,601
2021年 9月30日	4,250	－	20,851
2022年 9月29日	－	7,500	13,351

■株式所有者別状況 (2026年3月31日現在)									
区 分	株式の状況(1単元の株式数 100株)								単 元 未 満 株式の状況
	政 府 及 び 地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法 人	外国法人等		個 人 その他	計	
株 主 数 (人)	2	18	10	827	1	2	3,254	4,114	－
所有株式数(単元)	17	16,729	1,082	23,819	31	2	35,282	76,962	72,690株
割 合 (%)	0.0	21.7	1.4	30.9	0.0	0.0	45.8	100.0	－

(注) 自己株式221,984株は「個人その他」に2,219単元、「単元未満株式の状況」に84株含まれております。

②B種優先株式 (2026年3月31日現在)									
区 分	株式の状況(1単元の株式数 100株)								単 元 未 満 株式の状況
	政 府 及 び 地方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法 人	外国法人等		個 人 その他	計	
株 主 数 (人)	－	8	－	25	－	－	－	33	－
所有株式数(単元)	－	3,000	－	5,500	－	－	－	8,500	－株
割 合 (%)	－	35.2	－	64.7	－	－	－	100.0	－

株式・従業員の状況等

■大株主（上位10社）

①所有議決権別

（2026年3月31日現在）

氏名又は名称	住 所	所有議決権数(個)	総株主の議決権に対する 所有議決権数の割合 (%)
南日本銀行行員持株会	鹿児島県鹿児島市山下町1番1号	10,790	14.44
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	2,809	3.76
株式会社福岡銀行	福岡県福岡市中央区天神2丁目13番1号	2,808	3.76
一般財団法人岩崎育英文化財団	鹿児島県鹿児島市山下町9番5号	2,596	3.47
西日本信用保証株式会社	福岡県福岡市早良区百道浜2丁目2番22号	2,172	2.90
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	東京都中央区晴海1丁目8番12号	1,733	2.32
長野健一	埼玉県ふじみ野市	1,648	2.20
株式会社宮崎太陽銀行	宮崎県宮崎市広島2丁目1番31号	1,503	2.01
株式会社西日本シティ銀行	福岡県福岡市博多区博多駅前3-1-1	1,376	1.84
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1-1	1,366	1.83
計		28,801	38.53

②所有株式数別

（2026年3月31日現在）

氏名又は名称	住 所	所有株式数(千株)	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する 所有株式数の割合 (%)
南日本銀行行員持株会	鹿児島県鹿児島市山下町1番1号	1,079	12.85
一般財団法人岩崎育英文化財団	鹿児島県鹿児島市山下町9番5号	309	3.69
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	280	3.34
株式会社福岡銀行	福岡県福岡市中央区天神2丁目13番1号	280	3.34
西日本信用保証株式会社	福岡県福岡市早良区百道浜2丁目2番22号	217	2.59
株式会社宮崎太陽銀行	宮崎県宮崎市広島2丁目1番31号	190	2.27
株式会社鹿児島銀行	鹿児島県鹿児島市金生町6-6	180	2.15
南国殖産株式会社	鹿児島県鹿児島市中央町18-1	179	2.13
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	東京都中央区晴海1丁目8番12号	173	2.06
長野健一	埼玉県ふじみ野市	164	1.96
計		3,055	36.39

（注）上記の信託銀行所有株式数のうち、当該銀行の信託業務に係る株式は下記の通りであります。
株式会社日本カストディ銀行（信託口） 173千株

■従業員一人当たり及び1店舗当たり指標

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
従業員一人当たり預金残高	1,251	1,276
1店舗当たり預金残高	12,722	12,995
従業員一人当たり貸出金残高	947	966
1店舗当たり貸出金残高	9,625	9,835

- (注) 1. 預金には譲渡性預金も含まれます。
 2. 店舗数には出張所を含んでおりません。
 3. 預金・貸出金額は期中平均残高、従業員数は期中平均人員を使用しております。

■配当政策

当行は、企業価値を高めるため、財務体質の強化と収益力を向上させるとともに、内部留保の蓄積により財務基盤の安定化を図り、安定的な配当を実施できるよう努める方針であります。

当行は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当期の普通株主の配当につきましては、1株当たり普通配当50.00円の配当といたしております。

■従業員の状況

(2026年3月31日現在)

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
599	38.5	15.5	6,199

- (注) 1. 従業員数は、嘱託及び臨時従業員206人を含んでおりません。
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

粗利益・役務取引

■国内・国際業務部門別粗利益

(単位：百万円)

種 類	2025年3月期			2026年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
資 金 運 用 収 益	12,654	0	12,655	13,859	0	13,859
資 金 調 達 費 用	526	0	526	1,738	0	1,738
資 金 運 用 収 支	12,128	0	12,128	12,120	0	12,120
役 務 取 引 等 収 益	1,597	－	1,597	1,699	－	1,699
役 務 取 引 等 費 用	1,809	－	1,809	1,800	－	1,800
役 務 取 引 等 収 支	△211	－	△211	△100	－	△100
そ の 他 業 務 収 益	5	－	5	60	－	60
そ の 他 業 務 費 用	649	0	650	112	8	121
そ の 他 業 務 収 支	△644	△0	△645	△52	△8	△61
業 務 粗 利 益	11,271	0	11,271	11,967	△8	11,958
業 務 粗 利 益 率	1.41%	0.00%	1.41%	1.45%	△43.52%	1.45%

(注) 1. 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。
ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。
2. 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用（2025/3期0百万円、2026/3期0百万円）を控除して表示しております。
3. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。
4. 業務粗利益率＝ $\frac{\text{業務粗利益}}{\text{資金運用勘定平均残高}} \times 100$

■役務取引の状況

(単位：百万円)

種 類	2025年3月期			2026年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
役 務 取 引 等 収 益	1,597	－	1,597	1,699	－	1,699
うち預金・貸出業務	614	－	614	753	－	753
うち為替業務	510	－	510	516	－	516
うち証券関連業務	116	－	116	95	－	95
うち代理業務	285	－	285	251	－	251
うち保護預り・貸金庫業務	6	－	6	5	－	5
うち保証業務	16	－	16	17	－	17
うちその他	48	－	48	58	－	58
役 務 取 引 等 費 用	1,809	－	1,809	1,800	－	1,800
うち為替業務	47	－	47	48	－	48

業務純益等・その他業務収益・営業経費

■業務純益等 (単位：百万円)			
	2025年3月期	2026年3月期	増 減
資 金 利 益	12,129	12,121	△8
役 務 取 引 等 利 益	△211	△100	111
そ の 他 業 務 利 益	△645	△61	584
業 務 粗 利 益	11,271	11,959	688
経 費	9,131	9,497	366
業 務 純 益	1,984	2,485	501
実 質 業 務 純 益	2,140	2,461	321
コ ア 業 務 純 益	2,784	2,514	△270
コ ア 業 務 純 益 (投資信託解約損益を除く)	2,668	2,514	△154

(注)【業務純益】1989年度より、銀行の財務諸表の様式が改訂されたのに伴い、新たに導入された収益指標。「銀行の真の実力を示す指標」と考えられております。算定方法は、資金の運用収支、手数料等の収支、外国為替売買損益及び債券等の損益の合計から、貸倒引当金繰入額（一般）と経費（臨時的経費を除く）を差し引いて算出いたします。したがって、株式等の損益と金銭の信託の運用損益は除かれることとなります。

■その他業務収益の内訳 (単位：百万円)						
種 類	2025年3月期			2026年3月期		
	国内業務部門	国際業務部門	合 計	国内業務部門	国際業務部門	合 計
そ の 他 業 務 収 益	5	－	5	60	－	60
うち外国為替売買益	－	－	－	－	－	－
うち商品有価証券売買益	－	－	－	－	－	－
うち国債等債券売却益	5	－	5	60	－	60
うち国債等債券償還益	－	－	－	－	－	－

■営業経費の内訳 (単位：百万円)			
科 目	期 別	2025年3月期	2026年3月期
給 料 ・ 手 当		3,876	4,016
退 職 給 付 費 用		11	18
福 利 厚 生 費		32	35
減 価 償 却 費		438	529
土 地 建 物 機 械 賃 借 料		199	205
営 繕 費		16	16
消 耗 品 費		103	114
給 水 光 熱 費		86	80
旅 費		19	22
通 信 費		221	232
広 告 宣 伝 費		103	89
諸 会 費 ・ 寄 附 金 ・ 交 際 費		190	200
租 税 公 課		569	567
そ の 他		3,266	3,380
計		9,135	9,509

資金運用・調達勘定等

■資金運用・調達勘定平均残高、利息、利回り

国内業務部門 (単位：百万円、%)

種 類	2025年3月期			2026年3月期		
	平均残高	利 息	利 回 り	平均残高	利 息	利 回 り
資 金 運 用 勘 定	(6)	(0)		(-)	(-)	
	795,380	12,654	1.59	820,765	13,859	1.68
う ち 貸 出 金	587,162	11,316	1.92	599,986	12,072	2.01
う ち 商 品 有 価 証 券	-	-	-	-	-	-
う ち 有 価 証 券	87,009	1,013	1.16	87,674	1,053	1.20
う ち コ ー ル ロ ー ン	-	-	-	-	-	-
う ち 買 現 先 勘 定	-	-	-	-	-	-
う ち 買 入 手 形	-	-	-	-	-	-
う ち 預 け 金	121,201	323	0.26	133,104	734	0.55
資 金 調 達 勘 定	(-)	(-)		(14)	(0)	
	775,672	526	0.06	792,398	1,738	0.21
う ち 預 金	776,035	526	0.06	792,733	1,738	0.21
う ち コ ー ル マ ネ ー	-	-	-	-	-	-
う ち 社 債	-	-	-	-	-	-
う ち 借 用 金	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（2025/3期284百万円、2026/3期287百万円）を、資金調達勘定は金銭の信託運用見合額の平均残高（2025/3期390百万円、2026/3期389百万円）及び利息（2025/3期0百万円、2026/3期0百万円）をそれぞれ控除して表示しております。
2. () 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。

国際業務部門 (単位：百万円、%)

種 類	2025年3月期			2026年3月期		
	平均残高	利 息	利 回 り	平均残高	利 息	利 回 り
資 金 運 用 勘 定	(-)	(-)		(14)	(0)	
	57	0	1.40	20	0	0.15
う ち 貸 出 金	-	-	-	-	-	-
う ち 有 価 証 券	46	0	1.72	-	-	-
う ち 外 国 為 替	10	-	-	5	-	-
資 金 調 達 勘 定	(6)	(0)		(-)	(-)	
	59	0	0.13	20	0	0.08
う ち 預 金	52	0	0.14	20	0	0.08
う ち 譲 渡 性 預 金	-	-	-	-	-	-
う ち コ ー ル マ ネ ー	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高（2025/3期-百万円、2026/3期-百万円）を控除して表示しております。
2. () 内は国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息（内書き）であります。
3. 国際業務部門の国内店外貸建取引の平均残高は月次カレント方式（前月末TT仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式）により算出しております。

受取利息・支払利息の増減

国内業務部門の受取・支払利息の分析 (単位：百万円)

種 類	2025年3月期			2026年3月期		
	残高による増減	利率による増減	純 増 減	残高による増減	利率による増減	純 増 減
受 取 利 息	17	441	459	428	776	1,205
う ち 貸 出 金	208	△60	148	258	497	755
う ち 商 品 有 価 証 券	—	—	—	—	—	—
う ち 有 価 証 券	69	76	145	7	31	39
う ち コ ー ル ロ ー ン	—	—	—	—	—	—
う ち 買 現 先 勘 定	—	—	—	—	—	—
う ち 買 入 手 形	—	—	—	—	—	—
う ち 預 け 金	△41	207	166	65	345	411
支 払 利 息	△3	454	451	36	1,175	1,211
う ち 預 金	△1	452	451	36	1,175	1,212
う ち コ ー ル マ ネ ー	—	—	—	—	—	—
う ち 社 債	—	—	—	—	—	—
う ち 借 用 金	—	—	—	—	—	—

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分しております。

国際業務部門の受取・支払利息の分析 (単位：百万円)

種 類	2025年3月期			2026年3月期		
	残高による増減	利率による増減	純 増 減	残高による増減	利率による増減	純 増 減
受 取 利 息	△3	△0	△3	△0	△0	△0
う ち 貸 出 金	—	—	—	—	—	—
う ち 商 品 有 価 証 券	—	—	—	—	—	—
う ち 有 価 証 券	△4	0	△3	—	—	—
う ち コ ー ル ロ ー ン	—	—	—	—	—	—
う ち 買 入 手 形	—	—	—	—	—	—
う ち 預 け 金	—	—	—	—	—	—
支 払 利 息	△0	0	△0	△0	△0	△0
う ち 預 金	△0	△0	△0	△0	△0	△0
う ち コ ー ル マ ネ ー	—	—	—	—	—	—

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、両者の増減割合に応じて按分しております。

有価証券

■有価証券種類別残高・平残

(単位：百万円 (構成比%))

2025年3月期		期 末 残 高		平 均 残 高	
区 分		国内業務部門	国際業務部門	国内業務部門	国際業務部門
国 債	債	28,866 (32.1)	28,866	24,589 (28.3)	24,589
地 方 債	債	30,550 (34.0)	30,550	29,197 (33.5)	29,197
短 期 社 債	債	— (—)	—	— (—)	—
社 債	債	12,035 (13.4)	12,035	14,115 (16.2)	14,115
株 式	債	8,300 (9.2)	8,300	5,803 (6.7)	5,803
そ の 他 の 証 券		10,185 (11.3)	10,185	13,350 (15.3)	13,304
う ち 外 国 債 券		— (—)	—	46 (0.1)	—
う ち 外 国 株 式		— (—)	—	— (—)	—
合 計		89,938 (100.0)	89,938	87,056 (100.0)	87,009

2026年3月期		期 末 残 高		平 均 残 高	
区 分		国内業務部門	国際業務部門	国内業務部門	国際業務部門
国 債	債	28,245 (32.6)	28,245	29,065 (33.2)	29,065
地 方 債	債	27,943 (32.3)	27,943	29,931 (34.1)	29,931
短 期 社 債	債	— (—)	—	— (—)	—
社 債	債	8,848 (10.2)	8,848	11,106 (12.7)	11,106
株 式	債	9,806 (11.3)	9,806	5,698 (6.5)	5,698
そ の 他 の 証 券		11,733 (13.6)	11,733	11,872 (13.5)	11,872
う ち 外 国 債 券		— (—)	—	— (—)	—
う ち 外 国 株 式		— (—)	—	— (—)	—
合 計		86,577 (100.0)	86,577	87,674 (100.0)	87,674

■有価証券の残存期間別残高

(単位：百万円)

種 類		期 間 期 別	1年以下	1 年 超 3年以下	3 年 超 5年以下	5 年 超 7年以下	7 年 超 10年以下	10年超	期間の定め のないもの	合 計
国 債	債	2025年3月31日	6,996	8,975	1,475	466	10,951	—	—	28,866
		2026年3月31日	8,973	7,452	969	454	10,395	—	—	28,245
地 方 債	債	2025年3月31日	4,894	4,524	4,993	3,736	12,400	—	—	30,550
		2026年3月31日	1,493	7,536	4,410	4,485	10,017	—	—	27,943
短 期 社 債	債	2025年3月31日	—	—	—	—	—	—	—	—
		2026年3月31日	—	—	—	—	—	—	—	—
社 債	債	2025年3月31日	3,457	3,148	4,587	562	279	—	—	12,035
		2026年3月31日	1,649	2,527	4,123	358	188	—	—	8,848
株 式	債	2025年3月31日	/	/	/	/	/	/	8,300	8,300
		2026年3月31日	/	/	/	/	/	/	9,806	9,806
そ の 他 の 証 券		2025年3月31日	—	—	—	—	—	—	10,185	10,185
		2026年3月31日	—	—	—	—	—	—	11,733	11,733
う ち 外 国 債 券		2025年3月31日	—	—	—	—	—	—	—	—
		2026年3月31日	—	—	—	—	—	—	—	—
う ち 外 国 株 式		2025年3月31日	/	/	/	/	/	/	—	—
		2026年3月31日	/	/	/	/	/	/	—	—

■商品有価証券種類別平均残高

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
商 品 国 債	—	—
商 品 地 方 債	—	—
商品政府保証債	—	—
その他の商品有価証券	—	—
合 計	—	—

■公共債引受額

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
国 債	—	—
地 方 債	100	100
政 保 債	99	99
合 計	199	199

■公共債ディーリング実績

該当事項はありません。

■公共債窓口販売高

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期
国 債	3,567	3,657
地 方 債	—	—
政 保 債	—	—
合 計	3,567	3,657

有価証券の時価等情報

■売買目的有価証券 (単位：百万円)

種 類	期 別	2025年3月31日	2026年3月31日
		当事業年度の損益に含まれた評価差額	当事業年度の損益に含まれた評価差額
売 買 目 的 有 価 証 券		—	—

■満期保有目的の債券 (単位：百万円)

種 類	期 別	2025年3月31日			2026年3月31日		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時 価 が 貸 借 対 照 表 計 上 額 を 超 え る も の	社 債	200	200	0	50	50	0
	小 計	200	200	0	50	50	0
時 価 が 貸 借 対 照 表 計 上 額 を 超 え な い も の	社 債	659	647	△12	744	731	△13
	小 計	659	647	△12	744	731	△13
合 計		859	848	△11	794	781	△13

■その他有価証券 (単位：百万円)

種 類	期 別	2025年3月31日			2026年3月31日		
		貸借対照表計上額	取得原価	差 額	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸 借 対 照 表 計 上 額 が 取 得 原 価 を 超 え る も の	株 式	6,502	4,141	2,360	8,364	4,119	4,245
	債 券	5,598	5,596	1	—	—	—
	国 債	4,498	4,496	1	—	—	—
	地 方 債	1,000	1,000	0	—	—	—
	社 債	100	99	0	—	—	—
	そ の 他	1,010	909	101	2,576	2,052	523
	小 計	13,111	10,648	2,463	10,941	6,172	4,768
貸 借 対 照 表 計 上 額 が 取 得 原 価 を 超 え な い も の	株 式	666	773	△106	310	355	△44
	債 券	64,993	67,016	△2,023	64,242	67,723	△3,480
	国 債	24,367	24,918	△550	28,245	29,424	△1,178
	地 方 債	29,550	30,699	△1,149	27,943	29,899	△1,955
	社 債	11,075	11,399	△323	8,053	8,399	△346
	そ の 他	8,683	10,125	△1,442	8,518	9,503	△985
	小 計	74,343	77,916	△3,572	73,071	77,582	△4,510
合 計		87,455	88,564	△1,108	84,012	83,754	258

(注) 市場価格のないその他有価証券

(単位：百万円)

種 類	期 別	2025年3月31日	2026年3月31日
		貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
株 式		1,080	1,080
そ の 他		491	639
合 計		1,572	1,719

■前及び当事業年度中に売却した満期保有目的の債券 該当事項はありません。

■前及び当事業年度中に売却したその他有価証券 (単位：百万円)

種 類	期 別	2025年3月31日			2026年3月31日		
		売却額	売却益の合計額	売却損の合計額	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株 式		2,419	1,602	25	1,532	578	12
債 券		188	—	11	—	—	—
社 債		188	—	11	—	—	—
そ の 他		4,955	61	734	6,688	642	200
合 計		7,563	1,663	771	8,220	1,220	213

■保有目的を変更した有価証券 該当事項はありません。

■減損処理を行った有価証券

(前事業年度)

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当事業年度における減損処理額は、該当ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、以下のとおりであります。

- (1) 時価の下落率が50%以上の場合。
- (2) 時価の下落率が30%以上50%未満の場合、下記の①～③の何れかに該当する場合は回復可能性があるとは認められないと判断し、減損処理を行う。
 - ①株式の時価が過去2年間にわたり、30%以上下落した状態にある場合。
 - ②株式の発行会社が債務超過の状態にある場合。
 - ③株式の発行会社が2期連続で損失を計上しており、翌期も連続して損失を計上すると予想される場合。
- (3) 時価の下落率が30%未満の場合には、著しく下落には該当せず、減損処理は行わない。

(当事業年度)

売買目的有価証券以外の有価証券（市場価格のない株式等及び組合出資金を除く）のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理（以下「減損処理」という。）しております。

当事業年度における減損処理額は、該当ありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、以下のとおりであります。

- (1) 時価の下落率が50%以上の場合。
- (2) 時価の下落率が30%以上50%未満の場合、下記の①～③の何れかに該当する場合は回復可能性があるとは認められないと判断し、減損処理を行う。
 - ①株式の時価が過去2年間にわたり、30%以上下落した状態にある場合。
 - ②株式の発行会社が債務超過の状態にある場合。
 - ③株式の発行会社が2期連続で損失を計上しており、翌期も連続して損失を計上すると予想される場合。
- (3) 時価の下落率が30%未満の場合には、著しく下落には該当せず、減損処理は行わない。

■ 金銭の信託の時価等情報

(金銭の信託関係)

■運用目的の金銭の信託

(単位：百万円)

種 類	期 別	2025年3月31日		2026年3月31日	
		貸借対照表計上額	当事業年度の損益に含まれた評価差額	貸借対照表計上額	当事業年度の損益に含まれた評価差額
運 用 目 的 の 金 銭 の 信 託		389	△2	388	—

■満期保有目的の金銭の信託 該当事項はありません。

■その他の金銭の信託（運用目的及び満期保有目的以外） 該当事項はありません。

■ その他有価証券評価差額金

■その他有価証券評価差額金

(単位：百万円)

種 類	期 別	2025年3月31日	2026年3月31日
評 価 差 額	そ の 他 有 価 証 券	△1,108	258
	そ の 他 の 金 銭 の 信 託	—	—
繰延税金資産（＋）		436	14
繰延税金負債（△）		—	—
その他有価証券評価差額金		△672	272

デリバティブ取引情報

(前事業年度)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

該当事項はありません。

(2) 通貨関連取引

該当事項はありません。

(3) 債券関連取引、株式関連取引、商品関連取引、クレジット・デリバティブ関連取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

該当事項はありません。

(2) 通貨関連取引

該当事項はありません。

(3) 株式関連取引、債券関連取引

該当事項はありません。

(当事業年度)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

該当事項はありません。

(2) 通貨関連取引

該当事項はありません。

(3) 債券関連取引、株式関連取引、商品関連取引、クレジット・デリバティブ関連取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

該当事項はありません。

(2) 通貨関連取引

該当事項はありません。

(3) 株式関連取引、債券関連取引

該当事項はありません。

電子決済手段

該当事項はありません。

暗号資産

該当事項はありません。

グループの概要

1. グループの概要

当行及び当行の関係会社は、当行・連結子会社2社・持分法適用関連会社1社で構成され、銀行業務を中心に、リース業務、ファンドの組成・運営業務、現金等の輸送・警備業務などを行っております。

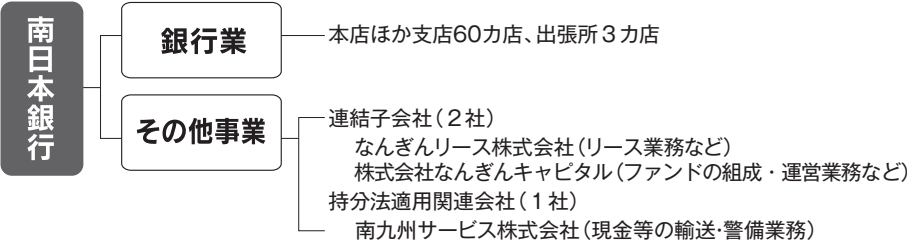
当行及び当行の関係会社の事業に係わる位置づけは次のとおりであります。

〔銀行業〕

当行の本支店においては、預金業務、貸出業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、並びにこれらに付随する業務を行っております。

〔その他事業〕

連結子会社及び持分法適用関連会社については、リース業務、ファンドの組成・運営業務、現金等の輸送・警備業務等を行っております。



■連結子会社						
会 社 名	所 在 地	主 要 事 業 内 容	設 立 年 月 日	資 本 金	当行議決権比率	当行子会社等議決権比率
なんぎんリース(株)	鹿児島市中央町26番18号	リース業務	1985年7月4日	70百万円	98%	—
(株)なんぎんキャピタル	鹿児島市山下町1番1号	ファンドの組成・運営業務	2023年4月3日	10百万円	100%	—

■持分法適用関連会社						
会 社 名	所 在 地	主 要 事 業 内 容	設 立 年 月 日	資 本 金	当行議決権比率	当行子会社等議決権比率
南九州サービス(株)	鹿児島市泉町2番3号4F	現金等の輸送・警備	1984年3月1日	10百万円	50%	—

2. 直近の営業年度における営業の概況

○金融経済環境

当連結会計年度における我が国経済は、株式市場の堅調な推移等を背景に、緩やかな回復基調で推移しています。一方で、中東情勢をはじめとする地政学リスクの高まりを背景に原油価格が上昇するなど、エネルギー価格や物流コストへの影響が懸念されており、事業環境は引き続き不透明な状況が続いております。

鹿児島県経済におきましても、クルーズ船寄港による団体客の増加等を背景に、観光・宿泊関連において、持ち直しの動きがみられるものの、今後の賃上げの動向や原油価格上昇等による物価の動きなどに、引き続き注意が必要な状況にあります。

○企業グループの状況

私ども南日本銀行グループは、「つながり」の強さで、地域の輝く未来をつくる」というパーパスのもと、取引先に対して迅速な資金繰り支援を行うとともに、WIN-WINネット業務（新販路開拓支援業務）による本業支援及び経営改善支援等に取り組んでまいりました。また、コーポレートメッセージに「話せるところ 頼れるところ」を掲げており、これまで以上に事業者及び個人のお客さまにしっかりと寄り添うことで、地域経済の回復・活性化に貢献できるよう取り組んでまいります。

○営業の経過及び成果

預金は、前連結会計年度末に比べ312億円増加し、8,071億円となりました。

貸出金は、前連結会計年度末に比べ236億円増加し、6,156億円となりました。

有価証券は、前連結会計年度末に比べ33億円減少し、865億円となりました。

また、連結自己資本比率（国内基準）は、9.82%となりました。

経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金及び預け金利息の増加等により前連結会計年度に比べ、6億2千4百万円増加し、171億4千1百万円となりました。

一方、経常費用は、与信関係費用は減少したものの、預金利息や経費が増加したこと等により、前連結会計年度に比べ、4億5千1百万円増加し、142億1千8百万円となりました。

この結果、経常利益は、前連結会計年度に比べ1億7千3百万円増加し、29億2千2百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度に比べ6億1千2百万円増加し、28億円となりました。

日銀により、政策金利の引き上げが実施されても、貸出金利の引き上げには慎重に対応する必要があると考えており、今後もお取引先の本業支援や事業再生支援に取り組む「WIN-WINネット業務」に注力し、地域経済活性化に貢献することで収益力を高める方針です。

○キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、預金の増加等により82億7百万円のプラスとなり、前年比228億6千1百万円減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得等により、51億1千9百万円のプラスとなり、前年比131億3千5百万円増加しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により6億5千6百万円のマイナスとなり、前年比1億5千4百万円減少しました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度の残高は、前連結会計年度に比べ126億7千万円増加し、1,453億3千8百万円となりました。

主要業務

■直近5連結会計年度における主要な業務関係指標の推移

科 目	期 別	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		〔自2021年4月1日 至2022年3月31日〕	〔自2022年4月1日 至2023年3月31日〕	〔自2023年4月1日 至2024年3月31日〕	〔自2024年4月1日 至2025年3月31日〕	〔自2025年4月1日 至2026年3月31日〕
連結経常収益	百万円	15,497	14,651	14,565	16,517	17,141
連結経常利益	百万円	2,892	1,883	2,035	2,749	2,922
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	2,212	1,532	1,613	2,188	2,800
連結包括利益	百万円	1,378	784	4,070	△231	4,338
連結純資産額	百万円	52,635	37,872	41,494	40,763	44,444
連結総資産額	百万円	882,898	850,771	827,483	830,086	865,370
連結ベースの1株当たり純資産額	円	3,589.33	3,620.93	4,154.17	4,139.46	4,742.89
連結ベースの1株当たり当期純利益	円	243.18	160.68	183.76	260.61	344.05
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり当期純利益	円	69.90	73.10	85.70	121.54	199.33
連結自己資本比率（国内基準）	%	10.97	8.07	8.26	9.50	9.82

■連結リスク管理債権 (単位：百万円)

区 分	2025年3月期	2026年3月期
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	7,630	5,942
危険債権額	16,833	17,554
三月以上延滞債権額	－	－
貸出条件緩和債権額	5,618	5,772
合 計	30,082	29,270
正 常 債 権	567,063	591,591
総 与 信	597,146	620,862

【リスク管理債権】 1.（破産更生債権及びこれらに準ずる債権）：破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権
2.（危険債権）：債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないもの
3.（三月以上延滞債権）：元本または利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないもの
4.（貸出条件緩和債権）：債務者の経営再建または支援を図ることを目的として金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないもの
5.（正常債権）：お取引先の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして上記に掲げる債権以外のものに区分される債権

連結貸借対照表

■資産の部		(単位：百万円)	
科 目	期 別	2025年3月末 (2025年3月31日現在)	2026年3月末 (2026年3月31日現在)
現金預け金		137,225	150,372
金銭の信託		389	388
有価証券		89,910	86,552
貸出金		592,049	615,689
外国為替		9	—
リース債権及びリース投資資産		1,564	1,750
その他の資産		1,591	1,566
有形固定資産		11,334	11,271
建物		2,164	2,060
土地		8,258	8,245
リース資産		0	0
その他の有形固定資産		912	965
無形固定資産		551	653
ソフトウェア		490	590
その他の無形固定資産		60	62
退職給付に係る資産		343	1,267
繰延税金資産		1,535	957
支払承諾見返		3,890	3,960
貸倒引当金		△ 10,309	△ 9,060
資産の部合計		830,086	865,370

■負債の部		(単位：百万円)	
科 目	期 別	2025年3月末 (2025年3月31日現在)	2026年3月末 (2026年3月31日現在)
預金		775,914	807,134
その他の負債		7,730	8,033
睡眠預金払戻損失引当金		35	19
偶発損失引当金		593	620
再評価に係る繰延税金負債		1,157	1,157
支払承諾		3,890	3,960
負債の部合計		789,322	820,925

■純資産の部		(単位：百万円)	
科 目	期 別	2025年3月末 (2025年3月31日現在)	2026年3月末 (2026年3月31日現在)
資本金		13,351	13,351
資本剰余金		5,191	5,191
利益剰余金		20,648	23,029
自己株式		△ 8	△ 245
株主資本合計		39,182	41,327
その他有価証券評価差額金		△ 671	272
土地再評価差額金		2,273	2,273
退職給付に係る調整累計額		△ 22	569
その他の包括利益累計額合計		1,578	3,115
非支配株主持分		1	2
純資産の部合計		40,763	44,444
負債及び純資産の部合計		830,086	865,370

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

■連結損益計算書				(単位：百万円)	
期 別		2025年3月期	2026年3月期		
科 目		〔2024年4月1日から 2025年3月31日まで〕	〔2025年4月1日から 2026年3月31日まで〕		
経 常 収 益		16,517	17,141		
資 金 運 用 収 益		12,972	14,107		
貸 出 金 利 息		11,312	12,068		
有 価 証 券 利 息 配 当 金		1,014	1,053		
預 け 金 利 息		323	734		
そ の 他 の 受 入 利 息		321	251		
役 務 取 引 等 収 益		1,615	1,710		
そ の 他 業 務 収 益		5	60		
そ の 他 経 常 収 益		1,923	1,263		
償 却 債 権 取 立 益		2	0		
金 銭 の 信 託 運 用 益		－	0		
そ の 他 の 経 常 収 益		1,921	1,262		
経 常 費 用		13,767	14,218		
資 金 調 達 費 用		576	1,788		
預 金 利 息		526	1,738		
そ の 他 の 支 払 利 息		49	50		
役 務 取 引 等 費 用		1,810	1,800		
そ の 他 業 務 費 用		650	121		
営 業 経 費		9,400	9,698		
そ の 他 経 常 費 用		1,329	808		
貸 倒 引 当 金 繰 入 額		957	432		
金 銭 の 信 託 運 用 損		0	－		
そ の 他 の 経 常 費 用		372	376		
経 常 利 益		2,749	2,922		
特 別 利 益		31	147		
固 定 資 産 処 分 益		31	0		
移 転 補 償 金		－	146		
特 別 損 失		42	24		
固 定 資 産 処 分 損		14	2		
減 損 損 失		28	21		
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		2,738	3,045		
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		630	358		
法 人 税 等 調 整 額		△ 80	△ 113		
法 人 税 等 合 計		550	244		
当 期 純 利 益		2,188	2,801		
非支配株主に帰属する当期純利益		0	0		
親会社株主に帰属する当期純利益		2,188	2,800		

■連結包括利益計算書				(単位：百万円)	
期 別		2025年3月期	2026年3月期		
科 目		〔2024年4月1日から 2025年3月31日まで〕	〔2025年4月1日から 2026年3月31日まで〕		
当 期 純 利 益		2,188	2,801		
そ の 他 の 包 括 利 益		△ 2,419	1,536		
その他有価証券評価差額金		△ 2,376	944		
土 地 再 評 価 差 額 金		△ 33	－		
退 職 給 付 に 係 る 調 整 額		△ 9	592		
包 括 利 益		△ 231	4,338		
(内 訳)					
親会社株主に係る包括利益		△ 231	4,337		
非支配株主に係る包括利益		0	0		

連結株主資本等変動計算書

■2025年3月期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	13,351	5,310	18,742	△ 13	37,390
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△ 385		△ 385
親会社株主に帰属する当期純利益			2,188		2,188
自 己 株 式 の 取 得				△ 114	△ 114
自 己 株 式 の 消 却		△ 118		118	－
土地再評価差額金の取崩			103		103
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当 期 変 動 額 合 計	－	△ 118	1,906	4	1,792
当 期 末 残 高	13,351	5,191	20,648	△ 8	39,182

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当 期 首 残 高	1,704	2,410	△ 13	4,102	1	41,494
当 期 変 動 額						
剰 余 金 の 配 当						△ 385
親会社株主に帰属する当期純利益						2,188
自 己 株 式 の 取 得						△ 114
自 己 株 式 の 消 却						－
土地再評価差額金の取崩						103
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△ 2,376	△ 137	△ 9	△ 2,523	0	△ 2,523
当 期 変 動 額 合 計	△ 2,376	△ 137	△ 9	△ 2,523	0	△ 731
当 期 末 残 高	△ 671	2,273	△ 22	1,578	1	40,763

■2026年3月期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	13,351	5,191	20,648	△ 8	39,182
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△ 420		△ 420
親会社株主に帰属する当期純利益			2,800		2,800
自 己 株 式 の 取 得				△ 236	△ 236
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当 期 変 動 額 合 計	－	－	2,380	△ 236	2,144
当 期 末 残 高	13,351	5,191	23,029	△ 245	41,327

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当 期 首 残 高	△ 671	2,273	△ 22	1,578	1	40,763
当 期 変 動 額						
剰 余 金 の 配 当						△ 420
親会社株主に帰属する当期純利益						2,800
自 己 株 式 の 取 得						△ 236
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	944	－	592	1,536	0	1,537
当 期 変 動 額 合 計	944	－	592	1,536	0	3,681
当 期 末 残 高	272	2,273	569	3,115	2	44,444

連結キャッシュ・フロー計算書・セグメント情報

■連結キャッシュ・フロー計算書		(単位：百万円)	
科 目	期 別	2025年3月期	2026年3月期
		〔2024年4月1日から 2025年3月31日まで〕	〔2025年4月1日から 2026年3月31日まで〕
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益		2,738	3,045
減価償却費		988	1,060
減損損失		28	21
持分法による投資損益（△は益）		△ 0	△ 0
貸倒引当金の増減（△）		△ 389	△ 1,249
退職給付に係る資産の増減額（△は増加）		△ 16	△ 6
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）		△ 94	△ 55
睡眠預金払戻損失引当金の増減（△）		△ 22	△ 16
偶発損失引当金の増減（△）		55	27
資金運用収益		△ 12,972	△ 14,107
資金調達費用		576	1,788
有価証券関係損益（△）		△ 826	△ 1,006
金銭の信託の運用損益（△は運用益）		0	△ 0
固定資産処分損益（△は益）		△ 17	2
貸出金の純増（△）減		△ 8,848	△ 23,640
預金の純増減（△）		△ 659	31,219
預け金（日銀預け金を除く）の純増（△）減		28,179	△ 477
外国為替（資産）の純増（△）減		0	9
リース債権及びリース投資資産の純増（△）減		△ 159	△ 185
資金運用による収入		12,861	14,038
資金調達による支出		△ 384	△ 1,363
その他		10,350	△ 127
小計		31,386	8,977
法人税等の支払額		△ 318	△ 769
営業活動によるキャッシュ・フロー		31,068	8,207
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有価証券の取得による支出		△ 32,123	△ 17,878
有価証券の売却による収入		7,517	8,220
有価証券の償還による収入		16,885	15,370
有形固定資産の取得による支出		△ 165	△ 319
有形固定資産の売却による収入		255	17
無形固定資産の取得による支出		△ 386	△ 292
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 8,016	5,119
財務活動によるキャッシュ・フロー			
配当金の支払額		△ 388	△ 420
自己株式の取得による支出		△ 114	△ 236
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 502	△ 656
現金及び現金同等物に係る換算差額		－	－
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）		22,548	12,670
現金及び現金同等物の期首残高		110,119	132,668
現金及び現金同等物の期末残高		132,668	145,338

■セグメント情報
当行グループは、報告セグメントが銀行業務のみであり、当行グループの業績における「その他」の重要性が乏しいため、記載を省略しております。
「その他」にはリース業務が含まれております。

注記事項

■連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

- 1.連結の範囲に関する事項
- | | | |
|------------|----|------------------------------|
| (1) 連結子会社 | 2社 | なんざんリース株式会社
株式会社なんざんキャピタル |
| (2) 非連結子会社 | 1社 | なんざん地域未来応援ファンド投資事業有限責任組合 |
- 非連結子会社は、その資産、経常収益、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。
- 2.持分法の適用に関する事項
- (1) 持分法適用の非連結子会社 該当ありません。
- (2) 持分法適用の非連結子会社 1社 南九州サービス株式会社
- (3) 持分法非適用の非連結子会社 1社 なんざん地域未来応援ファンド投資事業有限責任組合
- 持分法非適用の非連結子会社は、当期純損益（持分に見合う額）、利益剰余金（持分に見合う額）及びその他の包括利益累計額（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除外しております。
- (4) 持分法非適用の関連会社 該当ありません。
- 3.連結子会社の事業年度等に関する事項
- 連結子会社の決算日は次のとおりであります。
- | | |
|------|----|
| 3月末日 | 2社 |
|------|----|
- 4.開示対象特別目的会社に関する事項
- 該当ありません。
- 5.会計方針に関する事項
- (1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法
- 商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っております。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
- ①有価証券の評価は、満期有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。
- なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- ②有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。
- (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
- デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。
- (4) 固定資産の減価償却の方法
- ①有形固定資産（リース資産を除く）
- 当行の有形固定資産は、定率法（ただし、1998年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。
- また、主な耐用年数は次のとおりであります。
- | | |
|------|--------|
| 建 物： | 8年～50年 |
| その他： | 5年～30年 |
- 連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定率法により償却しております。
- ②無形固定資産（リース資産を除く）
- 無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。
- ③リース資産
- 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価値については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
- (5) 貸倒引当金の計上基準
- 当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。
- 「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 2022年4月14日）に規定する正常先償債及び要注意先償債に相当する償債については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。破綻懸念先償債に相当する償債については、償債額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認める額を計上しております。破綻先償債及び実質破綻先償債に相当する償債については、償債額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。
- 破綻懸念先及び貸出条件緩和と償債等を有する債務者で与信額が一定額以上の大口債務者のうち、償債の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積ることができるとする償債については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和と実施時の約定利率で割引いた金額と償債の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。
- すべての償債は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署の協力の下に資産査定部署が資産査定を実施しております。
- 連結子会社の貸倒引当金は、一般償債については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認めた額を、貸倒懸念償債等特定の償債については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。
- (6) 繰越預金払戻損失引当金の計上基準
- 繰越預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。
- (7) 偶発損失引当金の計上基準
- 偶発損失引当金は、信用保証協会との責任共有制度の代位弁済に伴い発生する負担金等の支払い等に備えるため、将来発生する損失額を見積り計上しております。
- (8) 退職給付に係る会計処理の方法
- 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。また、数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。
- 数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生した翌連結会計年度から費用処理
- (9) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
- 当行の外貨建資産・負債については、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。
- (10) 重要な収益及び費用の計上基準
- ①顧客との契約から生じる収益の計上基準
- 当行及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務は、金融サービスに係る役務の提供であり、主に約束したサービスが顧客に移転した時点で、当該サービスと交換に受け取る見込まれる金額を収益を認識しております。
- ②ファイナンス・リース取引に係る収益及び費用の計上方法
- リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。
- (11) 重要なヘッジ会計の方法
- 為替変動リスク・ヘッジ
- 当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨買取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業務別委員会実務指針第25号（2020年10月8日））に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを消滅する目的で行う通貨スワップ取引及び為替オプション取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。
- なお、一部の資産・負債については、金利ワップの特例処理を行っております。
- (12) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
- 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

■重要な会計上の見積り

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結財務諸表にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

- 1.貸倒引当金
- (1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額
- | | |
|-------|----------|
| 貸倒引当金 | 9,060百万円 |
|-------|----------|
- (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報
- ①算出方法
- 貸倒引当金の算出方法は、「注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」の5. 会計方針に関する事項「(5) 貸倒引当金の計上基準」に記載しております。
- ②主要な仮定
- 主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。
- ③翌連結会計年度に係る連結財務諸表に及ぼす影響
- 個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合、翌連結会計年度に係る連結財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

■未適用の会計基準等

- ・「リースに関する会計基準」（企業会計基準第34号 2024年9月13日）
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日）
- ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正
- (1) 概要
- 国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取扱いを定めるもの。
- (2) 適用予定日
- 2028年3月期の期首より適用予定であります。
- (3) 当該会計基準等の適用による影響
- 影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

■連結貸借対照表関係

- 1.非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額
- | | |
|-----|--------|
| 株式 | 18百万円 |
| 出資金 | 460百万円 |
- 2.銀行及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく償債は次のとおりであります。なお、償債は、連結貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金並びに支払承諾見返の自動定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は賃貸借契約によるものに限り）であります。
- | | |
|--------------------|-----------|
| 破産更生償債及びこれらに準ずる償債額 | 5,942百万円 |
| 危険償債額 | 17,554百万円 |
| 三月以上延滞償債額 | －百万円 |
| 貸出条件緩和と償債額 | 5,772百万円 |
| 合計額 | 29,270百万円 |
- 破産更生償債及びこれらに準ずる償債額とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する償債及びこれらに準ずる償債であります。
- 危険償債とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った償債の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い償債で破産更生償債及びこれらに準ずる償債に該当しないものであります。
- 元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生償債及びこれらに準ずる償債並びに危険償債に該当しないものであります。
- 貸出条件緩和と償債とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、償債放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生償債及びこれらに準ずる償債、危険償債並びに三月以上延滞償債に該当しないものであります。
- なお、上記償債額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- 3.手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2022年3月17日。以下「業種別委員会実務指針第24号」という。）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。
- | | |
|--|----------|
| | 1,344百万円 |
|--|----------|
- 4.担保に供している資産は次のとおりであります。
- 担保に供している資産
- | | |
|---------------|------|
| 有価証券 | －百万円 |
| 担保資産に対応する債務 | |
| コールマネー及び先渡し手形 | －百万円 |
- 上記のほか、為替決済、日本銀行共通担保等の担保として、次のものを差し入れております。
- | | |
|------|-----------|
| 預け金 | 7百万円 |
| 有価証券 | 25,693百万円 |
- また、その他資産には、敷金等が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。
- | | |
|-----|-------|
| 敷金等 | 63百万円 |
|-----|-------|
- なお、手形の再割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しておりますが、これにより引き渡した商業手形はありません。
- 5.当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。
- | | |
|------------------|-----------|
| 融資未実行残高 | 46,249百万円 |
| うち契約残存期間が1年以内のもの | 44,964百万円 |
- なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融環境の変化、償債の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約権度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴収するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の状況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
- 6.土地の再評価に関する法律（1998年3月31日公布法律第34号）に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行った、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
- 再評価を行った年月日 1998年3月31日
- 同法律第3条第3項に定める再評価の方法
- 土地の再評価に関する法律施行令（1998年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価格に実行価格修正等の合理的な調整を行って算出。
- 同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の期末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額
- | | |
|--|----------|
| | 3,218百万円 |
|--|----------|
- 7.有形固定資産の減価償却累計額
- | | |
|--|----------|
| | 9,180百万円 |
|--|----------|
- 8.有形固定資産の圧縮記憶帳
- | | |
|-----------------|--------|
| 圧縮記憶額 | 297百万円 |
| （当連結会計年度の圧縮記憶額） | （－百万円） |
- 9.[「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額
- | | |
|--|--------|
| | 780百万円 |
|--|--------|

決算の状況 連結情報

■連結損益計算書関係

1. その他の経常収益には、次のものを含んでおります。
- | | |
|---------|----------|
| 株式等売却益 | 1,160百万円 |
| 貸出債権売却益 | 70百万円 |
2. 営業経費には、次のものを含んでおります。
- | | |
|--------|----------|
| 給料・手当 | 4,060百万円 |
| 退職給付費用 | 18百万円 |
3. その他の経常費用には、次のものを含んでおります。
- | | |
|------------|--------|
| 株式等売却損 | 137百万円 |
| 偶発損失引当金繰入額 | 196百万円 |
4. 営業利益の減少によるキャッシュ・フローの低下及び地価の下落した資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失として特別損失に計上しております。
- 減損を認識した資産又は資産グループ及び種類毎の減損損失額は次のとおりであります。

鹿児島県内

用途	種類	減損損失
営業用店舗等	建物等	21百万円
合計	—	21百万円

(資産グループの概要及びグルーピングの方法)

営業用店舗等の営業用資産については、個別に継続的な収支の把握を行っていることから、原則として営業店単位で、遊休資産等については、各々が独立した資産としてグルーピングしております。また、本部、コンピュータセンター、社宅、ATMコーナー等については独立したキャッシュ・フローを生みださないことから共用資産としております。連結子会社については、個社ごとにグルーピングしております。

(回収可能価額)

減損損失の測定に使用した回収可能価額は、正味売却価額であり、路線債、固定資産税評価額等から処分費用見込額を控除して算出しております。

■連結包括利益計算書関係

1. その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額
- | | |
|--------------|----------|
| その他有価証券評価差額金 | |
| 当期発生額 | 2,336百万円 |
| 組替調整額 | △ 970百万円 |
| 法人税等及び税効果調整前 | 1,366百万円 |
| 法人税等及び税効果額 | △ 422百万円 |
| その他有価証券評価差額金 | 944百万円 |
- 退職給付に係る調整額
- | | |
|--------------|----------|
| 当期発生額 | 854百万円 |
| 組替調整額 | 8百万円 |
| 法人税等及び税効果調整前 | 862百万円 |
| 法人税等及び税効果額 | △ 269百万円 |
| 退職給付に係る調整額 | 592百万円 |
| その他の包括利益合計 | 1,536百万円 |

■連結株主資本等変動計算書関係

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項
- | | 当連結会計年度
期首株式数 | 当連結会計年度
増加株式数 | 当連結会計年度
減少株式数 | 当連結会計年度末
株式数 | 摘要 |
|--------|------------------|------------------|------------------|-----------------|-------|
| 発行済株式 | | | | | |
| 普通株式 | 7,768 | — | — | 7,768 | |
| B種優先株式 | 850 | — | — | 850 | |
| 合計 | 8,618 | — | — | 8,618 | |
| 自己株式 | | | | | |
| 普通株式 | 11 | 210 | — | 221 | (注) 1 |
| 合計 | 11 | 210 | — | 221 | |

(注) 1. 普通株式の自己株式の増加は、単元未満株式の取得によるものが7千株及び自己株式立外買付取引によるものが210千株であります。

2. 当に関する事項

(1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2025年6月25日 定時株主総会	普通株式	271	35.00	2025年3月31日	2025年6月26日
2025年6月25日 定時株主総会	B種優先株式	148	175.00	2025年3月31日	2025年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議予定)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2026年6月25日 定時株主総会	普通株式	377	利益剰余金	50.00	2026年3月31日	2026年6月26日
2026年6月25日 定時株主総会	B種優先株式	148	利益剰余金	175.00	2026年3月31日	2026年6月26日

■連結キャッシュ・フロー計算書関係

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
- | | |
|-----------|------------|
| 現金預け金勘定 | 150,372百万円 |
| 普通預け金 | △ 4,688百万円 |
| 定期預け金 | △ 7百万円 |
| その他の預け金 | △ 338百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 145,338百万円 |

■リース取引関係

1. ファイナンス・リース取引
- (1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引
- ① リース資産の内容
- 有形固定資産
- 主として、事務機器等であります。
- ② リース資産の減価償却の方法
- 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「5.会計方針に関する事項」の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。
2. オペレーティング・リース取引
- オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料
- | | (単位：百万円) |
|-----|----------|
| 1年内 | 30 |
| 1年超 | 62 |
| 合計 | 92 |

■金融商品関係

1. 金融商品の状況に関する事項
- (1) 金融商品に関する取組方針
- 当行グループは、貸出金を中心とした金融サービス事業を行っております。また、貸出金以外に国債等の有価証券に運用を行っております。これらの事業を行うため、預金を中心とした資金の調達を行っております。
- これらの業務を行うにあたり、このように主として金利変動を伴う金融資産及び金融負債を有しているため、金利変動による不利な影響が生じないように、当行では、資産及び負債の総合管理 (ALM) を実施しております。
- (2) 金融商品の内容及びそのリスク
- 当行グループが保有する金融資産は、主として国内の取引先及び個人に対する貸出金であり、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されております。
- また、有価証券は、主に株式、債券、投資信託であり、純投資目的及び政策投資目的で保有しております。これらは、それぞれ発行体の信用リスク及び金利の変動リスク、為替リスク、市場価格の変動リスクに晒されております。
- (3) 金融商品に係るリスク管理体制
- ① 信用リスクの管理
- 当行グループは、「融資の基本姿勢 (クレジットポリシー)」及び「信用リスク管理基準」に従い、貸出金については、個別条件の与信審査を基本として、与信限度額、信用情報管理、内部格付、保証や担保の設定、問題債権への対応などや与信管理に関する体制を整備し運営しております。これらの与信管理は、各営業店のほか融資部により行われ、また、定期的に経営陣による「貸出合同審議会」、「融資取組方針検討会」を開催し、審議・報告を行っております。さらに、これらの与信管理の状況については、定期的に監査部門がチェックしております。
- 有価証券の発行体の信用リスクに関しては、市場営業部において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。
- ② 市場リスクの管理
- (i) 金利リスクの管理
- 当行グループは、ALMによって金利の変動リスクを管理しております。「ALM運用基準」において、リスク管理方法や手続等の詳細を明記しており、取締役会において決定されたALMに関する方針に基づき、ALM委員会等で実施状況の把握・確認、今後の対応等の協議を行っております。
- 日毎的にはリスク統括部門において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等によりモニタリングを行っているほか、ALM委員会に報告しております。
- (ii) 為替リスクの管理
- 当行グループは、為替の変動リスクに関して、外貨預金等の取引をまとめてポジション管理し、為替リスクを回避するための持高操作を行っております。
- (iii) 価格変動リスクの管理
- 有価証券の保有については、取締役会の方針に基づき、取締役会の監督の下、「市場リスク管理基準」等に従い行われております。このうち、市場営業部では、有価証券の購入時の事前審査、ポジション枠及びリスク限度枠等の限度額設定のほか、継続的なモニタリングを通じて、価格変動リスクの軽減を図っております。
- 当行が保有している株式の多くは、業務・資本提携を含む事業推進目的で保有しているものであり、取引先の市場環境や財務状況などをモニタリングしており、これらの情報はリスク統括部門を通じ、ALM委員会に定期的に報告されております。
- なお、当行のリスク統括部門において、バリュエーション・リスク (VaR) を用いて金融商品の市場リスク量を把握されるとともに、監査部門において規定の遵守状況等がチェックされております。
- (iv) 市場リスクに係る定量的情報
- 当行では、主要なリスク変数である金利リスク及び株価変動リスクの影響を受ける主たる金融商品は、「貸出金」「有価証券」及び「銀行業における預金」です。当行では、これらの金融資産及び金融負債について、VaRを用い、金利リスク、株価変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しております。

VaR算定に当たっては、金利変動が正規分布に従うと仮定する「分散共分散法」(保有期間125営業日、信頼区間99%、観測期間5年) という手法により算定しており、2026年3月31日現在で当行の市場リスク量 (損失額の推計値) は全体で8,190百万円でありました。

なお、当行では、モデルが算出するVaRと実際の損益を比較するバックテストを実施しております。2025年度に関して実施したバックテストの結果、使用する計測モデルは十分な精度により市場リスクを捕捉しているものと考えております。

ただし、VaRは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。

③ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当行グループは、「流動性リスク管理基準」や「流動性リスクに関するコンテンジェンシープラン」等において、資金繰り状況の区分とそれぞれの対応等を定め、これに基づき資金繰り状況の把握・管理する体制としております。また、総合企画部において、月次で各グループ会社の資金繰表等によりグループ全体の資金管理を行っているほか、ALMを通して、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整等によって、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項
- 連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません (注1) 参照)。また、現金預け金、外国為替 (資産)、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

	(単位：百万円)	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託		388	388	—
(2) 有価証券				
満期保有目的の債券		794	781	△ 13
その他有価証券		84,014	84,014	—
(3) 貸出金		615,689		
貸倒引当金 (※ 1)		△ 8,929		
		606,760	607,904	1,143
資産計		691,958	693,088	1,130
(1) 預金		807,134	806,916	△ 217
負債計		807,134	806,916	△ 217
デリバティブ取引 (※ 2)				
ヘッジ会計が適用されていないもの		—	—	—
ヘッジ会計が適用されているもの		—	—	—
デリバティブ取引計		—	—	—

- (※ 1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。
- (※ 2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。
- デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、() で表示しております。

(注1) 市場価格のない株式等及び組合出資金の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含めておりません。

区分	2026年3月31日
非上場株式 (※ 1) (※ 2)	1,098
組合出資金 (※ 3)	643

- (※ 1) 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日) 第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。
- (※ 2) 当連結会計年度において、非上場株式について減損処理は該当ありません。
- (※ 3) 組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日) 第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	(単位：百万円)	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預け金	150,372						—
有価証券	12,153	17,786	10,056	5,900	22,700	—	—
満期保有目的の債券	153	386	256	—	—	—	—
うち社債	153	386	256	—	—	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの	12,000	17,400	9,800	5,900	22,700	—	—
うち国債	9,000	7,500	1,000	500	11,500	—	—
地方債	1,500	7,700	4,700	5,000	11,000	—	—
社債	1,500	2,200	4,100	400	200	—	—
貸出金 (※)	130,519	90,525	76,603	56,944	77,198	152,392	—
合計	293,045	108,311	86,659	62,844	99,898	152,392	—

(※) 貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない23,420百万円、期間の定めのないもの8,084百万円は含めておりません。

決算の状況 連結情報

(注3) 借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)						
	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金（※）	769,092	25,444	12,597	—	—	—
合計	769,092	25,444	12,597	—	—	—

（※）預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

3.金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

(単位：百万円)				
区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託	—	388	—	388
有価証券				
その他有価証券				
国債	28,245	—	—	28,245
地方債	—	27,943	—	27,943
社債	—	8,053	—	8,053
株式	8,677	—	—	8,677
その他	7,006	4,087	—	11,094
デリバティブ取引	—	—	—	—
資産計	43,930	40,473	—	84,403
デリバティブ取引	—	—	—	—
負債計	—	—	—	—

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：百万円)				
区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	—	14	766	781
貸出金	—	—	607,904	607,904
資産計	—	14	608,670	608,685
預金	—	806,916	—	806,916
負債計	—	806,916	—	806,916

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

資 産

金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券について、株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっており、構成物のレベルに基づき、レベル2の時価に分類しております。

有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式や国債がこれに含まれます。

公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に地方債、社債がこれに含まれます。また、市場における取引価格が存在しない投資信託について、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類しております。

自行保証付私募債は、内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の起債を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しており、当該割引率が観測不能であることからレベル3の時価に分類しております。

貸出金

貸出金については、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。このうち変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない場合は時価と帳簿価額が近似していることから、帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの割引現在価値、又は、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

上記時価については、時価に対して観察できないインプットによる影響額が重要であるため、すべてレベル3の時価に分類しております。

負 債

預金

要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。上記時価は、すべてレベル2の時価に分類しております。

■収益認識関係

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：百万円)	
区分	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
役務取引等収益	1,710
預金・貸出業務	753
為替業務	516
証券関連業務	95
代理業務	251
保護預り・貸金庫業務	5
保証業務	17
その他	68
顧客との契約から生じる経常収益	1,710
上記以外の経常収益	15,430
経常収益	17,141

■重要な後発事象

該当事項はありません。

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

当行では、「自己資本比率の算式」における「信用リスク・アセットの額の合計額」を算出する手法として「標準的手法」を採用し、「オペレーショナル・リスク相当額の合計額」を算出する手法として「標準的計測手法」を採用しております。

本編はこれに基づき記載しております。

【自己資本の構成に関する事項】

自己資本比率は、2007年3月31日から、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第19号。以下、「告示」という。）に定められた算式に基づき、算出しております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を採用しております。

■自己資本の構成に関する開示事項（単体）

（単位：百万円、％）

項 目	2026年3月31日	2025年3月31日
コア資本に係る基礎項目（1）		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	40,642	38,634
うち、資本金及び資本剰余金の額	18,556	18,556
うち、利益剰余金の額	22,857	20,507
うち、自己株式の額（△）	△245	△8
うち、社外流出予定額（△）	△526	△420
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株式引受権及び新株予約権の合計額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	3,072	3,096
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	3,072	3,096
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額（イ）	43,714	41,730
コア資本に係る調整項目（2）		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く）の額の合計額	△454	△382
うち、のれんに係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	△454	△382
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く）の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
前払年金費用の額	△379	△375
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る10パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る）に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る）に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額（ロ）	△833	△758
自己資本		
自己資本の額（（イ）－（ロ））（ハ）	42,880	40,972
リスク・アセット等（3）		
信用リスク・アセットの額の合計額	426,634	409,803
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
オフ・バランス項目	2,068	2,013
CVAリスク相当額を8％で除して得た額	—	—
中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	—	—
マーケット・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	12,134	21,567
フロア調整額	—	—
リスク・アセット等の額の合計額（ニ）	438,769	431,371
自己資本比率		
自己資本比率（（ハ）／（ニ））	9.77	9.49

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

自己資本比率は、2007年3月31日から、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第19号。以下、「告示」という。）に定められた算式に基づき、算出しております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を採用しております。

■自己資本の構成に関する開示事項（連結）

（単位：百万円、％）

項 目	2026年3月31日	2025年3月31日
コア資本に係る基礎項目（1）		
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株主資本の額	40,801	38,762
うち、資本金及び資本剰余金の額	18,543	18,543
うち、利益剰余金の額	23,029	20,648
うち、自己株式の額（△）	△245	△8
うち、社外流出予定額（△）	△526	△420
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
コア資本に算入されるその他の包括利益累計額	569	△22
うち、為替換算調整勘定	—	—
うち、退職給付に係るものの額	569	△22
普通株式又は強制転換条項付優先株式に係る株式引受権及び新株予約権の合計額	—	—
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	3,077	3,100
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	3,077	3,100
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧非累積的永久優先株の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額（イ）	44,447	41,840
コア資本に係る調整項目（2）		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く）の額の合計額	△454	△383
うち、のれん（のれん相当差額を含む）に係るものの額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	△454	△383
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く）の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
退職給付に係る資産の額	△881	△238
自己保有普通株式等（純資産の部に計上されるものを除く）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通株式等の額	—	—
特定項目に係る10パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る）に関連するものの額	—	—
特定項目に係る15パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通株式等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る）に関連するものの額	—	—
コア資本に係る調整項目の額（ロ）	△1,336	△622
自己資本		
自己資本の額（（イ）－（ロ））（ハ）	43,110	41,217
リスク・アセット等（3）		
信用リスク・アセット額の合計額	426,666	411,727
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
オフ・バランス取引等項目	2,068	2,013
CVAリスク相当額を8％で除した額	—	—
中央清算機関関連エクスポージャーに係る信用リスク・アセットの額	—	—
マーケット・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	—	—
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	12,285	22,141
フロア調整額	—	—
リスク・アセット等の額の合計額（ニ）	438,952	433,868
連結自己資本比率		
連結自己資本比率（（ハ）／（ニ））	9.82	9.50

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

【定性的な開示事項】

- 連結の範囲 P43に記載の通りです。

○ 自己資本調達手段の概要

発行者	株式会社南日本銀行	株式会社南日本銀行
資本調達手段の種類	普通株式	B種優先株式
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（2025年3月末）	13,351百万円	8,500百万円
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額（2026年3月末）	13,351百万円	8,500百万円

○ 銀行の自己資本の充実度に関する評価方法の概要

自己資本の充実度に関する評価方法の概要

当行では、信用リスク、市場リスク、オペレーショナル・リスク等の各種リスクについて、それぞれのリスクに適したリスク管理を行うとともに、各種リスクを横断的に把握・評価し、それらのリスクの合計がコア資本を中心とした自己資本の額を超えないようにモニタリングすることで、自己資本の充実度を確認しております。

また、自己資本比率等を指標とし、十分な自己資本を確保するよう努めております。

○ 信用リスクに関する事項

イ. リスク管理の方針及び手続の概要

信用リスク管理の方針及び手続の概要

○ リスク管理の方針及び手続の概要

信用リスクとは、与信供与先の財務状況の悪化等により、資産（オフバランス資産を含む）の価値が減少ないし消失し、当行が損失を被るリスクをいいます。

当行では、信用リスク管理に関する方針及び基準を制定し、全ての役職員が与信業務に取組む際の基本姿勢等を「クレジットポリシー」として定めています。これらの規定の下、健全な資産の充実を図るために、信用リスクを適切に認識・評価するとともに、適切な経営資源の配分を行い、安定した収益を確保するため、信用格付制度（注1）等に基づいて個々の信用リスクを管理し、与信ポートフォリオ管理の確立を図っています。

また、体制面では、営業推進部門と審査部門を分離し、相互牽制機能を確保することで、適切な与信管理体制の構築を行うこととし、また、内部監査部門が与信管理の状況の検証を行うことで、信用リスクを適切に管理する体制としています。さらに、信用リスクを有する資産及びオフバランス項目（市場取引に係る信用リスクを含む。）を統合した上で、当行と連結対象子会社を法令に抵触しない範囲で、一体として管理するリスク管理体制を目指しています。

個別債務者の信用リスク管理については、審査部門が個別債務者毎に財務分析、業界動向、資金使途、返済計画等の評価を行っています。評価は、新規与信取組時および、実行後の自己査定（注2）において定期的に行い、常に個別債務者の信用状況を把握するよう努めています。

銀行全体の与信ポートフォリオについては、信用リスク管理の担当部である融資部が、業種集中度合や大口集中度合等の分析を行い、その結果については総合企画部リスク統括グループが統括し、ALM委員会等を通じて定期的に経営に報告しています。

また、当行では信用リスクの計量化を行い、信用リスク管理に活用しています。

○ 自己査定と償却・引当

当行では、自己査定基準および償却・引当基準を定めており、自己査定を定期的に行い、適切な償却・引当を行っています。

貸倒引当金は、償却・引当基準に基づいて計上しており、債務者区分が「正常先」「要注意先（要管理先を含む）」に該当する債権については、過去の貸倒実績から計算した将来の予想損失額を一般貸倒引当金に計上しています。「破綻懸念先」「実質破綻先」「破綻先」に該当する債権については、担保・保証等により回収が見込まれる部分以外の必要額について、直接償却または個別貸倒引当金の計上を行っています。

（注1）当行では、信用格付制度を導入しています。信用格付制度は、個別債務者に信用度に応じた信用格付を付与して分類するもので、当行では、案件審査や与信管理、与信ポートフォリオのモニタリングを行う上で、信用格付を利用しています。

（注2）自己査定とは、債務者区分及び担保・保証等の状況をもとに、債権の回収の危険性の度合いに応じて資産の分類を行うものです。審査部門は、自己査定の集計結果等を経営に報告しています。

ロ. 標準的手法が適用されるポートフォリオに関する事項

当行では、保有資産のリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関として次の2社を使用しています。なお、エクスポージャーごとの格付機関の使い分けは行っておりません。

- ・株式会社日本格付研究所（JCR）
- ・株式会社格付投資情報センター（R&I）

○ 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

信用リスク削減手法とは、担保、保証、貸出金と預金の相殺、クレジット・デリバティブ等により、保有債権のリスクを削減する手法をいいます。

当行では、貸出等の与信行為を行うにあたり、返済可能性に関する十分な検証を行っています。その上で、信用リスクを軽減するために、担保や保証等をいただくことがあります。当行が適用している担保や保証の種類としては、担保では預金、有価証券、不動産等があります。保証では、信用保証協会、政府関係機関、地方公共団体等があります。担保・保証の評価や管理等の手続については、当行が定める「融資取扱要領」等の行内規定に基づいて、適切な取扱いを行っております。特に不動産担保については、厳正な担保評価を行うべく、「不動産担保取扱基準」等の規定を定めています。

また、貸出金と預金の相殺を行う取引としては、手形貸付、割引手形、証書貸付、当座貸越、債務保証、外国為替等を対象としており、行内規定に基づいて、手続きを行います。

なお、自己資本比率算出にあたっては、金融庁告示の要件を満たす適格担保および適格保証、および、貸出金と自行預金の相殺を、信用リスク削減手法として適用し、リスク・アセットを削減しています。適格担保の内容としては自行預金、国債、上場株式等、適格保証の内容としては政府関係機関や地方公共団体の保証等があります。

○ 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当ありません。

○ 証券化エクスポージャーに関する事項

該当ありません。

○ CVAリスクに関する事項

該当ありません。

○ マーケット・リスクに関する事項

該当ありません。

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

○ オペレーショナル・リスクに関する事項

イ. リスク管理の方針及び手続の概要

オペレーショナル・リスク管理の方針及び手続の概要

オペレーショナル・リスクとは、当行の業務過程、役職員の活動若しくはシステムが不適切であること、又は外生的事象により損失を被るリスクをいいます。当行では、オペレーショナル・リスクに関し、事務リスク、システムリスク、法務リスク、イベントリスク、レピュテーションリスクの5つに分けて、それぞれについて、「管理方針・基準」等を定め管理しています。また、各リスクについては、それぞれの主担当部署が個別に管理し、総合企画部リスク統括グループが統括し、リスク管理委員会等を通じて定期的に経営に報告しております。

ロ. オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する方法

「標準的計測手法」を使用しております。「標準的計測手法」では、オペレーショナル・リスク相当額を事業規模要素（BIC）に内部損失乗数（ILM）を乗じて算出します。また、BICの額は、事業規模指標（BI）にBIの額に応じた掛目（12%、15%、18%）を乗じて算出します。

ハ. BIの算出方法

以下のILDC（金利要素）、SC（役務要素）、FC（金融商品要素）の合計がBIの額となります。

構成要素	対象	算出方法
ILDC（金利要素）	資金運用収益 資金調達費用 金利収益資産 受取配当金	①（資金運用収益-資金調達費用）の絶対値の直近3年平均 ②金利収益資産の直近3年平均×2.25% ③受取配当金の直近3年平均 上記①、②のいずれか小さい値+③
SC（役務要素）	役務取引等利益	④役務取引等収益の直近3年平均、役務取引等費用の直近3年平均のいずれか大きい値
	その他業務利益	⑤その他業務収益の直近3年平均、その他業務費用の直近3年平均のいずれか大きい値 上記④+⑤
FC（金融商品要素）	特定取引勘定以外の勘定のネット損益	⑥銀行勘定のネット損益の絶対値の3年平均
	特定取引勘定のネット損益	⑦トレーディング勘定のネット損益の絶対値の3年平均 上記⑥+⑦

ニ. ILMの算出方法

金融庁告示第306条第1項第1号に定められた方法によりILMを算出しております。なお、連結子会社であるなんぎんリース株式会社および株式会社なんぎんキャピタルについては、金融庁告示第306条第1項第4号に定められた保守的な見積値を用いる方法によりILMを算出しております。

ホ. オペレーショナル・リスク相当額の算出に当たって、BIの算出から除外した連結子法人等又は事業部門の有無

除外した事業部門はありません。

ヘ. オペレーショナル・リスク相当額の算出に当たって、ILMの算出から除外した特殊損失の有無

除外した特殊損失はありません。

○ 銀行法施行令第4条第6項第3号に規定する出資その他これに類するエクスポージャー（以下「出資等」という。）又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

出資等に関するリスク管理の方針及び手続の概要

出資等のリスク管理につきましては、リスク管理部門においてリスクを評価し、その状況について総合企画部リスク統括グループが統括し、ALM委員会等を通じて定期的に経営への報告を行っております。リスク評価の方法としては、上場株式等につきましては、時価評価及びバリュエーション・リスク（VaR）によりリスク量を計測し、予め定めた損失限度枠等の遵守状況をモニタリングしております。また、非上場株式、子会社・関連会社株式、その他の株式等で時価のないものにつきましては、自己査定のプロセスの中で、財務諸表に基づいて純資産価額方式により算定された価額と、取得簿価との比較による評価を行っております。なお、出資等の会計処理につきましては、当行が定める有価証券等に関する「時価会計基準書」及び日本公認会計士協会の「金融商品会計に関する実務指針」等に則って、適正な処理を行っております。不動産投資法人への出資及びこれに類する出資については、株式等のエクスポージャーとしてリスク・ウェイトを判定しております。

○ 金利リスクに関する事項

リスク管理の方針及び手続の概要

市場リスクのリスク管理の方針及び手続の概要

当行が管理するリスクの一つとして、市場リスクがあります。市場リスクとは、金利、有価証券等の価格、為替等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、保有する資産（オフバランス資産を含む）の価値が変動し損失を被るリスクをいい、主に、金利リスク、価格変動リスク、為替リスクに分けられます。当行では、市場リスク量を適切コントロールするために、市場リスクの限度額を定め、その使用状況をモニタリングするとともに、市場リスク量の計測やストレステスト、バックテストを実施し、金利（主に債券）・株・為替市場が大きく変動した場合の市場リスク等の分析を行い、ALM委員会等を通じて定期的に経営に報告しています。

イ. 金利リスクの算定方法の概要

(1) 開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVEに銀行がこれらに追加して自ら開示を行う事項

- 流動性預金に割り当てられた金利改定の平均満期
2026年3月末基準における流動性預金全体の金利改定の平均満期は3.8年となっております。
- 流動性預金に割り当てられた最長の金利改定満期
流動性預金の金利改定の平均満期を推計するにあたり、最長の金利更改満期を10年としております。
- 流動性預金への満期の割当て方法（コア預金モデル等）及びその前提
普通預金など満期のない流動性預金については、内部モデルを使用して預金残高推移を統計的に解析し、将来の預金残高推移を保守的に推計することで実質的な満期を計測しております。推計にあたっては、過去の預金残高の変化と景気指標との関係性、市場金利に対する預金金利の追随率に基づく影響を考慮しております。推計値については定期的にバックテストを実施するなど、モデルの検証等を十分に行うこととしております。
- 固定金利貸出の期限前返済や定期預金の早期解約に関する前提
金融庁が定める保守的な前提を使用しております。
- 複数の通貨の集計方法及びその前提
外国通貨については残高が僅少であるため計測対象外としています。
- スプレッドに関する前提
スプレッド及びその変動は考慮しておりません。
- 内部モデルの使用等、△EVEに重大な影響を及ぼすその他の前提
当行では、コア預金の算出に内部モデルを使用しております。コア預金については、過去の実績データを用いて推計しているため、実績値が大きく変動した場合、△EVEに重大な影響を及ぼす可能性があります。
- 前事業年度末の開示からの変動に関する説明
金利リスクの算定にかかる前提に変動はありません。
- 計測値の解釈や重要性に関するその他の説明
△EVEは基準値であるコア資本の20%以内に収まっており、金利リスク管理上、問題ない水準と認識しております。

ロ. 銀行が、自己資本の充実度の評価、ストレステスト、リスク管理、収益管理、経営上の判断その他の目的で、開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVE及び△NII以外の金利リスクを計測している場合における、当該金利リスクに関する事項

統合リスク管理において、VaRで計測されるリスク量が年度ごとに設定している資本配賦の範囲に収まっているが毎月モニタリングしております。また、ストレステストにより、金利が大きく変動した場合等に想定しうる金利リスク量や損失額等の把握を行う体制としております。

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

【定量的な開示事項】

自己資本の充実度

■信用リスク・アセットの額及び信用リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

項 目	2025年3月末		2026年3月末		2025年3月末		2026年3月末		<参考> 告示で定める リスク・ウェイト (%)
	単 体 信用リスク・ アセットの額 A	所要自己 資本の額 A×4%	単 体 信用リスク・ アセットの額 A	所要自己 資本の額 A×4%	連 結 信用リスク・ アセットの額 A	所要自己 資本の額 A×4%	連 結 信用リスク・ アセットの額 A	所要自己 資本の額 A×4%	
1. 現 金	-	-	-	-	-	-	-	-	0
2. 我が国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-	-	-	0
3. 外国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-	-	-	0~150
4. 国 際 決 済 銀 行 等 向 け	-	-	-	-	-	-	-	-	0
5. 我が国の地方公共団体向け	-	-	-	-	-	-	-	-	0
6. 外国の中央政府等以外の公共部門向け	-	-	-	-	-	-	-	-	20~150
7. 国 際 開 発 銀 行 向 け	-	-	-	-	-	-	-	-	0~150
8. 地 方 公 共 団 体 金 融 機 構 向 け	-	-	-	-	-	-	-	-	10~20
9. 我が国の政府関係機関向け	1	0	1	0	1	0	1	0	10~20
10. 地 方 三 公 社 向 け	-	-	-	-	-	-	-	-	20
11. 金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	2,807	112	3,069	122	2,807	112	3,069	122	20~150
（うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け）	-	-	-	-	-	-	-	-	20~150
12. カバード・ボンド向け	-	-	-	-	-	-	-	-	10~100
13. 法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	182,369	7,294	194,451	7,778	182,119	7,284	194,251	7,770	20~150
（うち特定貸付債権向け）	2,745	109	2,551	102	2,745	109	2,551	102	20~150
14. 中堅中小企業等向け及び個人向け	61,409	2,456	61,930	2,477	61,409	2,456	61,930	2,477	45~100
（うちトラザクター向け）	176	7	169	6	176	7	169	6	45
15. 不 動 産 関 連 向 け	113,228	4,529	111,274	4,450	113,228	4,529	111,274	4,450	20~150
（うち自己居住用不動産等向け）	70,436	2,817	66,651	2,666	70,436	2,817	66,651	2,666	20~75
（うち賃貸用不動産向け）	36,550	1,462	37,637	1,505	36,550	1,462	37,637	1,505	30~150
（うち事業用不動産関連向け）	6,241	249	6,986	279	6,241	249	6,986	279	70~150
（うちその他不動産関連向け）	-	-	-	-	-	-	-	-	60
（うち A D C 向 け）	-	-	-	-	-	-	-	-	100~150
16. 劣後債権及びその他資本性証券等	-	-	-	-	-	-	-	-	150
17. 延滞等向け（自己居住用不動産等向けを除く。）	19,992	799	19,620	784	19,992	799	19,620	784	50~150
18. 自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	1,782	71	1,761	70	1,782	71	1,761	70	100
19. 取 立 未 済 手 形	23	0	21	0	23	0	21	0	20
20. 信用保証協会等による保証付	2,266	90	2,510	100	2,266	90	2,510	100	0~10
21. 株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	-	-	-	-	-	-	-	-	10
22. 株 式 等	11,444	457	13,473	538	11,461	458	13,499	539	250~400
23. 上 記 以 外	12,268	490	12,554	502	14,423	576	12,760	510	100~1250
（うち重要な出資のエクスポージャー）	-	-	-	-	-	-	-	-	1250
（うち他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象 普通株式等及びその他外部 T L A C 関連調達手段に 該当するもの以外のものに係るエクスポージャー）	0	-	0	-	0	-	0	-	250~400
（うち特定項目のうち調整項目に算入され ない部分に係るエクスポージャー）	695	27	1,010	40	583	23	897	35	250
（うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を 保有している他の金融機関等に係るその他外部 T L A C 関連調達手段に関するエクスポージャー）	-	-	-	-	-	-	-	-	250
（うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を 保有していない他の金融機関等に係るその他外部 T L A C 関連調達手段に係るエクスポージャー）	-	-	-	-	-	-	-	-	150
（うち右記以外のエクスポージャー）	11,572	462	11,543	461	13,840	553	11,862	474	100
24. 証 券 化	-	-	-	-	-	-	-	-	-
（う ち S T C 要 件 適 用 分）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
（う ち 短 期 S T C 要 件 適 用 分）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
（う ち 不 良 債 権 証 券 化 適 用 分）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
（うちSTC・不良債権証券化適用対象外分）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25. 再 証 券 化	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	2,210	88	5,964	238	2,210	88	5,964	238	-
27. 未 決 済 取 引	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28. 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエク スポージャーに係る経過措置によりリスク・ アセットの額に算入されなかったものの額	-	-	△0	-	-	-	-	-	-
合計（信用リスク・アセットの額）	409,803	16,392	426,634	17,065	411,727	16,469	426,666	17,066	-

(注) 1. 延滞エクスポージャーは、バーゼルⅢ最終化に基づき、三月以上延滞先を含む要管理先以下の債務者に係るエクスポージャーとしております。

2. 経過措置を適用したリスク・ウェイトに基づき算出した計数を記載しております。

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

■オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額及びオペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額

(単位：百万円)

	2025年3月31日		2026年3月31日	
	単 体	連 結	単 体	連 結
B I	14,378	14,760	14,659	14,696
B I C	1,725	1,771	1,759	1,763
I L M	1	1	0.5518	0.5573
オペレーショナル・リスク相当額 を8%で除した額	21,567	22,141	12,134	12,285
オペレーショナル・リスクに対す る所要自己資本の額	862	885	485	491

■オペレーショナル・リスク損失の推移

(単位：百万円)

	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	直近10年 間の平均
200万円を超える損失を集計したもの											
ネット損失の合計額 (特殊損失控除前)	—	5	—	—	—	—	—				0
損失の件数	—	1	—	—	—	—	—				0
特殊損失の総額	—	—	—	—	—	—	—				—
特殊損失の件数	—	—	—	—	—	—	—				—
ネット損失の合計額 (特殊損失控除後)	—	5	—	—	—	—	—				0

■リスク・アセットの合計額及び総所要自己資本額

(単位：百万円)

	2025年3月31日			
	単 体		連 結	
	リスク・アセットの額	所要自己資本額	リスク・アセットの額	所要自己資本額
信用リスク	409,803	16,392	411,727	16,469
オペレーショナル・リスク	21,567	862	22,141	885
合 計	431,371	17,254	433,868	17,354

(単位：百万円)

	2026年3月31日			
	単 体		連 結	
	リスク・アセットの額	所要自己資本額	リスク・アセットの額	所要自己資本額
信用リスク	426,634	17,065	426,666	17,066
オペレーショナル・リスク	12,134	485	12,285	491
合 計	438,769	17,550	438,952	17,558

信用リスクに関するエクスポージャーおよび延滞エクスポージャーの期末残高

■取引種類別内訳

(単位：百万円)

取引種類の名称	信用リスクに関するエクスポージャーの期末残高			
	単 体		連 結	
	2025年3月31日	2026年3月31日	2025年3月31日	2026年3月31日
貸出金、コミットメント及びその他の デリバティブ以外のオフ・バランス取引	746,512	782,474	748,486	784,499
うち貸出金	592,299	615,889	592,049	615,689
有価証券	91,400	86,663	91,418	86,682
デリバティブ	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
合 計	837,913	869,138	839,904	871,182

■地域別、業種別、残存期間別内訳

(単位：百万円)

	信用リスクに関する エクスポージャーの期末残高		う ち 延 滞 エクスポージャーの期末残高		信用リスクに関する エクスポージャーの期末残高		う ち 延 滞 エクスポージャーの期末残高	
	単 体		連 結		連 結		連 結	
	2025年3月31日	2026年3月31日	2025年3月31日	2026年3月31日	2025年3月31日	2026年3月31日	2025年3月31日	2026年3月31日
国 内	837,913	869,138	23,692	22,277	839,904	871,182	23,692	22,277
国 外	—	—	—	—	—	—	—	—
地 域 別 計	837,913	869,138	23,692	22,277	839,904	871,182	23,692	22,277
製 造 業	33,945	32,514	3,204	2,065	33,945	32,514	3,204	2,065
農 業、林 業	7,689	7,508	1,015	881	7,689	7,508	1,015	881
漁 業	2,074	2,065	393	358	2,074	2,065	393	358
鉱業、採石業、砂利採取業	121	106	—	—	121	106	—	—
建設業	51,522	51,539	916	1,295	51,522	51,539	916	1,295
電気・ガス・熱供給・水道業	9,036	8,399	75	621	9,036	8,399	75	621
情報通信業	3,250	2,237	23	23	3,250	2,237	23	23
運輸業、郵便業	14,977	16,206	215	127	14,977	16,206	215	127
卸売業、小売業	61,280	59,567	3,841	3,205	61,280	59,567	3,841	3,205
金融業、保険業	13,843	16,848	987	18	13,593	16,648	987	18
不動産業、物品賃貸業	159,578	162,414	2,519	2,903	159,578	162,414	2,519	2,903
その他の各種サービス業	111,673	112,694	8,799	9,276	111,673	112,694	8,799	9,276
国・地方公共団体	91,902	99,555	—	—	91,902	99,555	—	—
個 人	114,479	121,503	1,699	1,500	114,479	121,503	1,699	1,500
そ の 他	162,537	175,977	—	—	164,778	178,221	—	—
業 種 別 計	837,913	869,138	23,692	22,277	839,904	871,182	23,692	22,277
1 年 以 下	188,765	187,419	—	—	188,515	187,219	—	—
1 年 超 3 年 以 下	29,289	27,216	—	—	29,289	27,216	—	—
3 年 超 5 年 以 下	47,780	57,792	—	—	47,780	57,792	—	—
5 年 超 7 年 以 下	59,448	48,198	—	—	59,448	48,198	—	—
7 年 超 10 年 以 下	76,438	85,718	—	—	76,438	85,718	—	—
10 年 超	285,160	298,399	—	—	285,160	298,399	—	—
期間の定めのないもの	151,030	164,394	—	—	153,271	166,638	—	—
残 存 期 間 別 合 計	837,913	869,138	—	—	839,904	871,182	—	—

一般貸倒引当金、個別貸倒引当金、特定海外債権引当勘定の期末残高および期中増減額

■引当金の期末残高および期中増減額

2025年3月期

(単位：百万円)

	単 体			連 結		
	期首残高	期中増減額	期末残高	期首残高	期中増減額	期末残高
一 般 貸 倒 引 当 金	2,940	155	3,096	2,945	155	3,100
個 別 貸 倒 引 当 金	7,626	△519	7,107	7,753	△544	7,209
特 定 海 外 債 権 引 当 勘 定	—	—	—	—	—	—
合 計	10,567	△364	10,203	10,699	△389	10,309

2026年3月期

(単位：百万円)

	単 体			連 結		
	期首残高	期中増減額	期末残高	期首残高	期中増減額	期末残高
一 般 貸 倒 引 当 金	3,096	△24	3,072	3,100	△23	3,077
個 別 貸 倒 引 当 金	7,107	△1,212	5,894	7,209	△1,225	5,983
特 定 海 外 債 権 引 当 勘 定	—	—	—	—	—	—
合 計	10,203	△1,236	8,967	10,309	△1,249	9,060

2025年3月期

(単位：百万円)

	単 体			連 結		
	期首残高	期中増減額	期末残高	期首残高	期中増減額	期末残高
国 内	7,626	△519	7,107	7,753	△544	7,209
国 外	—	—	—	—	—	—
地 域 別 計	7,626	△519	7,107	7,753	△544	7,209
製 造 業	885	467	1,353	933	459	1,392
農 業、林 業	229	255	484	232	252	484
漁 業	183	△10	173	183	△10	173
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
建 設 業	926	△607	318	931	△608	323
電気・ガス・熱供給・水道業	—	12	12	—	12	12
情 報 通 信 業	2	△0	2	2	△0	2
運 輸 業、郵 便 業	148	△78	69	184	△83	101
卸 売 業、小 売 業	975	146	1,122	982	141	1,123
金 融 業、保 険 業	1,008	△135	873	1,008	△135	873
不動産業、物品賃貸業	449	28	478	449	28	478
その他の各種サービス業	2,698	△654	2,043	2,726	△657	2,068
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—
個 人	117	56	174	117	56	174
そ の 他	—	—	—	—	—	—
業 種 別 計	7,626	△519	7,107	7,753	△544	7,209

2026年3月期

(単位：百万円)

	単 体			連 結		
	期首残高	期中増減額	期末残高	期首残高	期中増減額	期末残高
国 内	7,107	△1,212	5,894	7,209	△1,225	5,983
国 外	—	—	—	—	—	—
地 域 別 計	7,107	△1,212	5,894	7,209	△1,225	5,983
製 造 業	1,353	△442	911	1,392	△462	930
農 業、林 業	484	△84	400	484	△84	400
漁 業	173	△24	149	173	△24	149
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—	—	—
建 設 業	318	167	485	323	165	488
電気・ガス・熱供給・水道業	12	183	196	12	183	196
情 報 通 信 業	2	△0	2	2	1	3
運 輸 業、郵 便 業	69	△48	20	101	△52	48
卸 売 業、小 売 業	1,122	△431	690	1,123	△432	691
金 融 業、保 険 業	873	△863	9	873	△863	9
不動産業、物品賃貸業	478	170	648	478	170	648
その他の各種サービス業	2,043	194	2,238	2,068	207	2,276
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—
個 人	174	△33	141	174	△33	141
そ の 他	—	—	—	—	—	—
業 種 別 計	7,107	△1,212	5,894	7,209	△1,225	5,983

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

■業種別の貸出金償却の額

(単位：百万円)

	単 体		連 結	
	2025年3月31日	2026年3月31日	2025年3月31日	2026年3月31日
製 造 業	—	—	—	—
農 業、 林 業	—	—	—	—
漁 業	—	—	—	—
鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	—	—
建 設 業	14	—	14	—
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—
情 報 通 信 業	—	—	—	—
運 輸 業、 郵 便 業	—	—	—	—
卸 売 業、 小 売 業	—	—	—	—
金 融 業、 保 険 業	—	—	—	—
不動産業、物品賃貸業	—	—	—	—
その他の各種サービス業	—	—	—	—
国・地方公共団体	—	—	—	—
個 人	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—
業 種 別 計	14	—	14	—

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

■エクスポージャーのポートフォリオの区分ごとの内訳

(単位：百万円)

ポートフォリオ区分	2025年3月31日						2026年3月31日					
	単体						単体					
	CCF・信用リスク削減手法勘案前		CCF・信用リスク削減手法勘案後		信用リスク・アセットの額	リスク・ウェイトの加重平均値 (%)	CCF・信用リスク削減手法勘案前		CCF・信用リスク削減手法勘案後		信用リスク・アセットの額	リスク・ウェイトの加重平均値 (%)
	オン・バランスシートのエクスポージャーの額	オフ・バランスシートのエクスポージャーの額	オン・バランスシートのエクスポージャーの額	オフ・バランスシートのエクスポージャーの額			オン・バランスシートのエクスポージャーの額	オフ・バランスシートのエクスポージャーの額	オン・バランスシートのエクスポージャーの額	オフ・バランスシートのエクスポージャーの額		
	A	B	C	D			A	B	C	D		
日本国政府及び日本銀行向け	149,198	-	149,198	-	-	0.00	164,135	-	164,135	-	-	0.00
外国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国際決済銀行等向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
我が国の地方公共団体向け	60,667	-	60,354	-	-	0.00	69,016	-	68,803	-	-	0.00
外国の中央政府等以外の公共部門向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地方公共団体金融機構向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
我が国の政府関係機関向け	419	-	419	-	1	0.47	14	-	14	-	1	9.99
地方三公社向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国際開発銀行向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	9,568	-	9,568	-	2,807	29.33	10,036	-	10,036	-	3,069	30.58
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カバード・ボンド向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	223,548	7,473	211,704	3,233	182,369	84.84	240,938	5,328	227,431	2,415	194,451	84.60
うち、特定貸付債権向け	2,788	-	2,745	-	2,745	100.00	2,578	-	2,551	-	2,551	100.00
劣後債権及びその他資本性証券等株式等	11,444	-	11,444	-	11,444	100.00	10,364	-	10,364	-	13,473	130.00
中堅中小企業等向け及び個人向け	91,149	7,480	86,260	1,017	61,409	70.36	91,860	7,221	87,129	856	61,930	70.38
うち、トランザクター向け	-	3,920	-	392	176	45.00	-	3,767	-	376	169	45.00
不動産関連向け	182,677	-	181,787	-	113,228	62.28	178,692	-	177,935	-	111,274	62.53
うち、自己居住用不動産等向け	135,707	-	134,961	-	70,436	52.18	129,310	-	128,708	-	66,651	51.78
うち、賃貸用不動産向け	40,739	-	40,626	-	36,550	89.96	42,265	-	42,149	-	37,637	89.29
うち、事業用不動産関連	6,231	-	6,199	-	6,241	100.67	7,116	-	7,078	-	6,986	98.69
うち、その他不動産関連	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち、ADC向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）	14,929	103	14,681	10	19,992	136.08	14,705	133	14,558	22	19,620	134.55
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	1,785	-	1,784	-	1,782	99.88	1,762	-	1,761	-	1,761	100.00
現金	14,397	-	14,397	-	-	0.00	11,908	-	11,908	-	-	0.00
取立未済手形	115	-	115	-	23	20.00	105	-	105	-	21	20.00
信用保証協会等による保証付	48,135	-	47,978	-	2,266	4.72	46,529	-	46,386	-	2,510	5.41
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計（注）					395,325						408,115	

注：信用リスク・アセット額の合計は、本表記載の資産クラスごとの信用リスク・アセット額の合計であります。

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

(単位：百万円)

ポートフォリオ区分	2025年3月31日						2026年3月31日					
	連結						連結					
	CCF・信用リスク削減手法勘案前		CCF・信用リスク削減手法勘案後		信用リスク・アセットの額	リスク・ウェイトの加重平均値 (%)	CCF・信用リスク削減手法勘案前		CCF・信用リスク削減手法勘案後		信用リスク・アセットの額	リスク・ウェイトの加重平均値 (%)
	オン・バランスシートのエクスポージャーの額	オフ・バランスシートのエクスポージャーの額	オン・バランスシートのエクスポージャーの額	オフ・バランスシートのエクスポージャーの額			オン・バランスシートのエクスポージャーの額	オフ・バランスシートのエクスポージャーの額	オン・バランスシートのエクスポージャーの額	オフ・バランスシートのエクスポージャーの額		
	A	B	C	D			A	B	C	D		
日本国政府及び日本銀行向け	149,198	-	149,198	-	-	0.00	164,135	-	164,135	-	-	0.00
外国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国際決済銀行等向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
我が国の地方公共団体向け	60,667	-	60,354	-	-	0.00	69,016	-	68,803	-	-	0.00
外国の中央政府等以外の公共部門向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地方公共団体金融機構向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
我が国の政府関係機関向け	419	-	419	-	1	0.47	14	-	14	-	1	9.99
地方三公社向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国際開発銀行向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	9,568	-	9,568	-	2,807	29.33	10,036	-	10,036	-	3,069	30.58
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カバード・ボンド向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	223,298	7,473	211,454	3,233	182,119	84.82	240,738	5,328	227,231	2,415	194,251	84.58
うち、特定貸付債権向け	2,788	-	2,745	-	2,745	100.00	2,578	-	2,551	-	2,551	100.00
劣後債権及びその他資本性証券等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
株式等	11,461	-	11,461	-	11,461	100.00	10,383	-	10,383	-	13,499	130.00
中堅中小企業等向け及び個人向け	91,149	7,480	86,260	1,017	61,409	70.36	91,860	7,221	87,129	856	61,930	70.38
うち、トランザクター向け	-	3,920	-	392	176	45.00	-	3,767	-	376	169	45.00
不動産関連向け	182,677	-	181,787	-	113,228	62.28	178,692	-	177,935	-	111,274	62.53
うち、自己居住用不動産等向け	135,707	-	134,961	-	70,436	52.18	129,310	-	128,708	-	66,651	51.78
うち、賃貸用不動産向け	40,739	-	40,626	-	36,550	89.96	42,265	-	42,149	-	37,637	89.29
うち、事業用不動産関連	6,231	-	6,199	-	6,241	100.67	7,116	-	7,078	-	6,986	98.69
うち、その他不動産関連	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち、ADC向け	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）	14,929	103	14,681	10	19,992	136.08	14,705	133	14,558	22	19,620	134.55
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	1,785	-	1,784	-	1,782	99.88	1,762	-	1,761	-	1,761	100.00
現金	14,397	-	14,397	-	-	0.00	11,908	-	11,908	-	-	0.00
取立未済手形	115	-	115	-	23	20.00	105	-	105	-	21	20.00
信用保証協会等による保証付	48,135	-	47,978	-	2,266	4.72	46,529	-	46,386	-	2,510	5.41
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計（注）					395,093						407,940	

注：信用リスク・アセット額の合計は、本表記載の資産クラスごとの信用リスク・アセット額の合計であります。

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

■ポートフォリオの区分ごとのCCFを適用した後及び信用リスク削減手法の効果を勘案した後のエクスポージャーの額並びにこの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

(単位：百万円)

ポートフォリオ区分	2025年3月31日									
	単体									
	資産の額及び与信相当額の合計額（CCF・信用リスク削減効果適用後）									
リスク・ウェイト	0%	20%	50%	100%	150%	その他	合計			
資産クラス										
日本国政府及び日本銀行向け	149,198	—	—	—	—	—	—	—	—	149,198
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他	合計		
我が国の地方公共団体向け	60,354	—	—	—	—	—	—	—	60,354	
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地方公共団体金融機構向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
我が国の政府関係機関向け	—	419	—	—	—	—	—	—	419	
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
リスク・ウェイト	0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他	合計		
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
リスク・ウェイト	20%	30%	40%	50%	75%	100%	150%	その他	合計	
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	1,123	7,954	490	—	—	—	—	—	9,568	
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
リスク・ウェイト	10%	15%	20%	25%	35%	50%	100%	その他	合計	
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
リスク・ウェイト	20%	50%	75%	80%	85%	100%	130%	150%	その他	合計
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	7,500	7,716	501	—	150,066	49,152	—	—	—	214,938
うち、特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	2,745	—	—	—	2,745
リスク・ウェイト	100%	150%	250%	400%	その他	合計				
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
株式等	—	—	—	11,444	—	—	—	—	11,444	
リスク・ウェイト	45%	75%	100%	その他	合計					
中堅中小企業等向け及び個人向け	392	86,886	—	—	—	—	—	—	87,278	
リスク・ウェイト	20%	25%	30%	35%	40%	50%	70%	75%	その他	合計
不動産関連向け うち、自己居住用不動産等向け	16,010	7,923	18,875	—	9,901	11,156	53,790	17,304	—	134,961
リスク・ウェイト	20%	31.25%	37.5%	43.75%	50%	62.5%			その他	合計
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	—			—	—
リスク・ウェイト	30%	35%	45%	60%	75%	105%	150%	その他	合計	
不動産関連向け うち、賃貸用不動産向け	2,762	1,454	3,165	1,461	3,128	27,591	1,063	—	40,626	
リスク・ウェイト	30%	43.75%	56.25%	75.00%	93.75%			その他	合計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—			—	—	
リスク・ウェイト	70%	90%	110%	150%	その他	合計				
不動産関連向け うち、事業用不動産関連	1,860	456	3,239	643	—	—	—	—	6,199	
リスク・ウェイト	70%	112.5%					その他	合計		
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	—	—	—		
リスク・ウェイト	60%	その他	合計							
不動産関連向け うち、その他不動産関連	—	—	—	—	—	—	—	—		
リスク・ウェイト	60%	その他	合計							
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	—	—	—		
リスク・ウェイト	100%	150%	その他	合計						
不動産関連向け うち、ADC向け	—	—	—	—	—	—	—	—		
リスク・ウェイト	50%	100%	150%	その他	合計					
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）	758	2,282	11,651	—	—	—	—	14,692		
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	1,784	—	—	—	—	—	1,784		
リスク・ウェイト	0%	10%	20%	その他	合計					
現金	14,397	—	—	—	—	—	—	14,397		
取立未済手形	—	—	—	115	—	—	—	115		
信用保証協会等による保証付	19,582	28,396	—	—	—	—	—	47,978		
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—		

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

(単位：百万円)

ポートフォリオ区分	2026年3月31日									
	単体									
	資産の額及び与信相当額の合計額（CCF・信用リスク削減効果適用後）									
リスク・ウェイト	0%	20%	50%	100%	150%	その他	合計			
資産クラス										
日本国政府及び日本銀行向け	164,135	—	—	—	—	—	—	—	—	164,135
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他	合計		
我が国の地方公共団体向け	68,803	—	—	—	—	—	—	—	—	68,803
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	14	—	—	—	—	—	—	—	14
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他	合計		
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	20%	30%	40%	50%	75%	100%	150%	その他	合計	
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	4	9,441	591	—	—	—	—	—	—	10,036
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	10%	15%	20%	25%	35%	50%	100%	その他	合計	
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	20%	50%	75%	80%	85%	100%	130%	150%	その他	合計
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	10,300	5,626	502	—	155,091	58,325	—	—	—	229,847
うち、特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	2,551	—	—	—	2,551
リスク・ウェイト	100%	150%	250%	400%	その他	合計				
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	10,364	—	—	—	—	—	10,364
リスク・ウェイト	45%	75%	100%	その他	合計					
中堅中小企業等向け及び個人向け	376	87,609	—	—	—	—	—	—	—	87,986
リスク・ウェイト	20%	25%	30%	35%	40%	50%	70%	75%	その他	合計
不動産関連向け うち、自己居住用不動産等向け	16,418	7,316	17,655	—	9,339	10,092	55,857	12,028	—	128,708
リスク・ウェイト	20%	31.25%	37.5%	43.75%	50%	62.5%			その他	合計
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	—			—	—
リスク・ウェイト	30%	35%	45%	60%	75%	105%	150%	その他	合計	
不動産関連向け うち、賃貸用不動産向け	3,050	1,871	2,932	1,865	2,686	28,891	851	—	—	42,149
リスク・ウェイト	30%	43.75%	56.25%	75.00%	93.75%			その他	合計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—			—	—	—
リスク・ウェイト	70%	90%	110%	150%	その他	合計				
不動産関連向け うち、事業用不動産関連	1,723	552	4,801	—	—	—	—	—	—	7,078
リスク・ウェイト	70%	112.5%						その他	合計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	60%	その他	合計							
不動産関連向け うち、その他不動産関連	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	60%	その他	合計							
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	100%	150%	その他	合計						
不動産関連向け うち、ADC向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	50%	100%	150%	その他	合計					
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）	518	3,094	10,968	—	—	—	—	—	—	14,581
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	1,761	—	—	—	—	—	—	—	1,761
リスク・ウェイト	0%	10%	20%	その他	合計					
現金	11,908	—	—	—	—	—	—	—	—	11,908
取立未済手形	—	—	—	105	—	—	—	—	—	105
信用保証協会等による保証付	15,065	31,320	—	—	—	—	—	—	—	46,386
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 経過措置を適用する前のリスク・ウェイトの区分に応じた額を記載しております。

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

(単位：百万円)

ポートフォリオ区分	2025年3月31日									
	連結									
	資産の額及び与信相当額の合計額（CCF・信用リスク削減効果適用後）									
リスク・ウェイト	0%	20%	50%	100%	150%	その他	合計			
資産クラス										
日本国政府及び日本銀行向け	149,198	—	—	—	—	—	—	—	—	149,198
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他	合計		
我が国の地方公共団体向け	60,354	—	—	—	—	—	—	—	—	60,354
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機構向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	419	—	—	—	—	—	—	—	419
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他	合計		
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	20%	30%	40%	50%	75%	100%	150%	その他	合計	
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	1,123	7,954	490	—	—	—	—	—	—	9,568
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	10%	15%	20%	25%	35%	50%	100%	その他	合計	
カバード・ボンド向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	20%	50%	75%	80%	85%	100%	130%	150%	その他	合計
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	7,500	7,716	501	—	150,066	48,902	—	—	—	214,688
うち、特定貸付債権向け	—	—	—	—	—	2,745	—	—	—	2,745
リスク・ウェイト	100%	150%	250%	400%	その他	合計				
劣後債権及びその他資本性証券等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株式等	—	—	—	11,461	—	—	—	—	—	11,461
リスク・ウェイト	45%	75%	100%	その他	合計					
中堅中小企業等向け及び個人向け	392	86,886	—	—	—	—	—	—	—	87,278
リスク・ウェイト	20%	25%	30%	35%	40%	50%	70%	75%	その他	合計
不動産関連向け うち、自己居住用不動産等向け	16,010	7,923	18,875	—	9,901	11,156	53,790	17,304	—	134,961
リスク・ウェイト	20%	31.25%	37.5%	43.75%	50%	62.5%			その他	合計
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	—			—	—
リスク・ウェイト	30%	35%	45%	60%	75%	105%	150%	その他	合計	
不動産関連向け うち、賃貸用不動産向け	2,762	1,454	3,165	1,461	3,128	27,591	1,063	—	—	40,626
リスク・ウェイト	30%	43.75%	56.25%	75.00%	93.75%			その他	合計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—			—	—	—
リスク・ウェイト	70%	90%	110%	150%	その他	合計				
不動産関連向け うち、事業用不動産関連	1,860	456	3,239	643	—	—	—	—	—	6,199
リスク・ウェイト	70%	112.5%			その他	合計				
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	60%	その他	合計							
不動産関連向け うち、その他不動産関連	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	60%	その他	合計							
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	100%	150%	その他	合計						
不動産関連向け うち、ADC向け	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト	50%	100%	150%	その他	合計					
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）	758	2,282	11,651	—	—	—	—	—	—	14,692
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	—	1,784	—	—	—	—	—	—	—	1,784
リスク・ウェイト	0%	10%	20%	その他	合計					
現金	14,397	—	—	—	—	—	—	—	—	14,397
取立未済手形	—	—	115	—	—	—	—	—	—	115
信用保証協会等による保証付	19,582	28,396	—	—	—	—	—	—	—	47,978
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

(単位：百万円)

ポートフォリオ区分	2026年3月31日									
	連結									
	資産の額及び与信相当額の合計額（CCF・信用リスク削減効果適用後）									
リスク・ウェイト	0%	20%	50%	100%	150%	その他	合計			
資産クラス										
日本国政府及び日本銀行向け	164,135	－	－	－	－	－	－	－	－	164,135
外国の中央政府及び中央銀行向け	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
国際決済銀行等向け	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
リスク・ウェイト	0%	10%	20%	50%	100%	150%	その他	合計		
我が国の地方公共団体向け	68,803	－	－	－	－	－	－	－	－	68,803
外国の中央政府等以外の公共部門向け	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
地方公共団体金融機構向け	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
我が国の政府関係機関向け	－	14	－	－	－	－	－	－	－	14
地方三公社向け	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
リスク・ウェイト	0%	20%	30%	50%	100%	150%	その他	合計		
国際開発銀行向け	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
リスク・ウェイト	20%	30%	40%	50%	75%	100%	150%	その他	合計	
金融機関、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	4	9,441	591	－	－	－	－	－	－	10,036
うち、第一種金融商品取引業者及び保険会社向け	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
リスク・ウェイト	10%	15%	20%	25%	35%	50%	100%	その他	合計	
カバード・ボンド向け	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
リスク・ウェイト	20%	50%	75%	80%	85%	100%	130%	150%	その他	合計
法人等向け（特定貸付債権向けを含む。）	10,300	5,626	502	－	155,091	58,125	－	－	－	229,647
うち、特定貸付債権向け	－	－	－	－	－	2,551	－	－	－	2,551
リスク・ウェイト	100%	150%	250%	400%	その他				合計	
劣後債権及びその他資本性証券等	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
株式等	－	－	－	10,383	－	－	－	－	－	10,383
リスク・ウェイト	45%	75%	100%	その他				合計		
中堅中小企業等向け及び個人向け	376	87,609	－	－	－	－	－	－	－	87,986
リスク・ウェイト	20%	25%	30%	35%	40%	50%	70%	75%	その他	合計
不動産関連向け うち、自己居住用不動産等向け	16,418	7,316	17,655	－	9,339	10,092	55,857	12,028	－	128,708
リスク・ウェイト	20%	31.25%	37.5%	43.75%	50%	62.5%			その他	合計
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	－	－	－	－	－	－			－	－
リスク・ウェイト	30%	35%	45%	60%	75%	105%	150%	その他	合計	
不動産関連向け うち、賃貸用不動産向け	3,050	1,871	2,932	1,865	2,686	28,891	851	－	－	42,149
リスク・ウェイト	30%	43.75%	56.25%	75.00%	93.75%			その他	合計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	－	－	－	－	－			－	－	－
リスク・ウェイト	70%	90%	110%	150%	その他				合計	
不動産関連向け うち、事業用不動産関連	1,723	552	4,801	－	－	－	－	－	－	7,078
リスク・ウェイト	70%	112.5%						その他	合計	
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	－	－						－	－	－
リスク・ウェイト	60%	その他				合計				
不動産関連向け うち、その他不動産関連	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
リスク・ウェイト	60%	その他				合計				
うち、抵当権が第二順位以下で適格要件をみたすもの	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
リスク・ウェイト	100%	150%	その他				合計			
不動産関連向け うち、ADC向け	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
リスク・ウェイト	50%	100%	150%	その他				合計		
延滞等（自己居住用不動産等向けエクスポージャーを除く。）	518	3,094	10,968	－	－	－	－	－	－	14,581
自己居住用不動産等向けエクスポージャーに係る延滞	－	1,761	－	－	－	－	－	－	－	1,761
リスク・ウェイト	0%	10%	20%	その他				合計		
現金	11,908	－	－	－	－	－	－	－	－	11,908
取立未済手形	－	－	－	105	－	－	－	－	－	105
信用保証協会等による保証付	15,065	31,320	－	－	－	－	－	－	－	46,386
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

(注) 経過措置を適用する前のリスク・ウェイトの区分に応じた額を記載しております。

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

■エクスポージャーの適切な数のリスク・ウェイトの区分ごとの内訳

(単位：百万円)

リスク・ウェイトの区分	2025年3月31日				2026年3月31日			
	単体				単体			
	CCF・信用リスク削減効果適用前		CCFの加重 平均値 (%)	資産の額及び 与信相当額の 合計額 (CCF・ 信用リスク削減 効果適用後)	CCF・信用リスク削減効果適用前		CCFの加重 平均値 (%)	資産の額及び 与信相当額の 合計額 (CCF・ 信用リスク削減 効果適用後)
	オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目			オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目		
40%未満	336,781	500	40.00	336,070	357,952	500	40.00	357,412
40%～70%	89,831	5,967	19.98	90,691	88,753	3,814	9.89	88,924
75%	112,214	3,560	17.61	108,434	107,167	3,454	13.99	103,397
80%	—	—	—	—	—	—	—	—
85%	154,988	1,326	69.34	150,066	160,324	1,251	71.45	155,091
90%～100%	58,447	3,649	41.25	53,677	69,824	3,620	41.22	63,733
105%～130%	30,913	—	—	30,830	33,760	—	—	33,693
150%	13,418	54	17.88	13,358	11,921	42	14.96	11,819
250%	11,444	—	—	11,444	10,364	—	—	10,364
400%	—	—	—	—	—	—	—	—
1250%	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の 合計	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	808,039	15,058	29.58	794,572	840,069	12,683	27.23	824,437

(単位：百万円)

リスク・ウェイトの区分	2025年3月31日				2026年3月31日			
	連結				連結			
	CCF・信用リスク削減効果適用前		CCFの加重 平均値 (%)	資産の額及び 与信相当額の 合計額 (CCF・ 信用リスク削減 効果適用後)	CCF・信用リスク削減効果適用前		CCFの加重 平均値 (%)	資産の額及び 与信相当額の 合計額 (CCF・ 信用リスク削減 効果適用後)
	オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目			オン・バランス 資産項目	オフ・バランス 資産項目		
40%未満	336,781	500	40.00	336,070	357,952	500	40.00	357,412
40%～70%	89,831	5,967	19.98	90,691	88,753	3,814	9.89	88,924
75%	112,214	3,560	17.61	108,434	107,167	3,454	13.99	103,397
80%	—	—	—	—	—	—	—	—
85%	154,988	1,326	69.34	150,066	160,324	1,251	71.45	155,091
90%～100%	58,197	3,649	41.25	53,427	69,624	3,620	41.22	63,533
105%～130%	30,913	—	—	30,830	33,760	—	—	33,693
150%	13,418	54	17.88	13,358	11,921	42	14.96	11,819
250%	11,461	—	—	11,461	10,383	—	—	10,383
400%	—	—	—	—	—	—	—	—
1250%	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の 合計	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	807,806	15,058	29.58	794,339	839,889	12,683	27.23	824,257

(注) 経過措置を適用する前のリスク・ウェイトの区分に応じた額を記載しております。

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

■信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：百万円)

	単 体		連 結	
	2025年3月31日	2026年3月31日	2025年3月31日	2026年3月31日
適格金融資産担保が適用されたエクスポージャー	17,728	18,927	17,728	18,927
保証またはクレジットデリバティブが適用されたエクスポージャー	47,978	46,386	47,978	46,386

派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

■派生商品取引の与信相当額算出に用いる方式

先物予約取引その他の派生商品取引の与信相当額はカレント・エクスポージャー方式(注)にて算出しております。

(注) カレント・エクスポージャー方式とは、デリバティブ取引の信用リスク計測手段の1つで、取引を時価評価することによって再構築コストを算出し、これに契約期間中に生じらるであろう同コストの増加見込み額（ポテンシャル・エクスポージャー）を付加して算出する方法です。

■派生商品取引のグロス再構築コストの額及び与信相当額

該当事項はありません。

■証券化エクスポージャーに関する事項

該当事項はありません。

■CVAリスクに関する事項

該当事項はありません。

出資等に関する事項

■出資等の売却及び償却に伴う損益の額

(単位：百万円)

	単 体		連 結	
	2025年3月31日	2026年3月31日	2025年3月31日	2026年3月31日
売却損益額	1,493	1,022	1,493	1,022
償却額	—	—	—	—

■評価損益の額

(単位：百万円)

	単 体		連 結	
	2025年3月31日	2026年3月31日	2025年3月31日	2026年3月31日
貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額	△1,108	258	△1,108	258
貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額	—	—	—	—

■出資等の貸借対照表計上額及び時価

(単位：百万円)

	単 体				連 結			
	2025年3月31日		2026年3月31日		2025年3月31日		2026年3月31日	
	貸借対照表計上額	時 価	貸借対照表計上額	時 価	貸借対照表計上額	時 価	貸借対照表計上額	時 価
上 場 し て い る 出 資 等	7,169	7,169	8,675	8,675	7,171	7,171	8,677	8,677
上 記 に 該 当 し な い 出 資 等	1,130	1,130	1,130	1,130	1,101	1,101	1,103	1,103
合 計	8,300	8,300	9,806	9,806	8,272	8,272	9,780	9,780

■株式等エクスポージャーのポートフォリオ区分ごとの額

(単位：百万円)

	単 体		連 結	
	2025年3月31日	2026年3月31日	2025年3月31日	2026年3月31日
投機的な非上場株式に対する投資に該当する株式等エクスポージャー	—	—	—	—
上記に該当しない株式等エクスポージャー	8,300	9,806	8,272	9,780

バーゼルⅢ第3の柱に基づく開示

金利リスク（単体）

■金利リスクに関する事項

（単位：百万円）

IRRBB 1:金利リスク					
項番		イ	ロ	ハ	ニ
		△EVE		△NII	
		2026年3月31日	2025年3月31日	2026年3月31日	2025年3月31日
1	上方パラレルシフト	0	0	1,189	1,246
2	下方パラレルシフト	5,336	5,029	1,964	2,217
3	スティープ化	0	0		
4	フラット化				
5	短期金利上昇				
6	短期金利低下				
7	最大値	5,336	5,029	1,964	2,217
		ホ		ヘ	
		2026年3月31日		2025年3月31日	
8	自己資本の額	42,880		40,972	

報酬等に関する開示事項（単体・連結）

1. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等に関する組織体制の整備状況に関する事項

(1) 「対象役職員」の範囲

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象役員」及び「対象従業員等」（合わせて「対象役職員」）の範囲については、以下のとおりであります。

① 「対象役員」の範囲

対象役員は、当行の取締役及び監査役であります。なお、社外役員を除いております。

② 「対象従業員等」の範囲

当行では、対象役員以外の当行の職員及び主要な連結子法人等の役職員のうち、「高額の報酬を受ける者」で当行及びその主要な連結子法人等の業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者等を「対象従業員等」として、開示の対象としております。

なお、当行の対象役員以外の役員及び従業員で、対象従業員等に該当する者はありません。

(ア) 「主要な連結子法人等」の範囲

「主要な連結子法人等」とは、当行の連結総資産に対する総資産の割合が2％を超えるもの及びグループ経営に重要な影響を与える連結子法人等であります。なお、当行において「主要な連結子法人等」の該当はありません。

(イ) 「高額の報酬等を受ける者」の範囲

「高額の報酬等を受ける者」とは、有価証券報告書記載の「提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額」を同記載の「対象となる役員の員数」により除すことで算出される「対象役職員の平均報酬額」以上の報酬等を受ける者であります。

(ウ) 「グループの業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」の範囲

「グループの業務の運営又は財産の状況に重要な影響を与える者」とは、その者が通常行う取引や管理する事項が、当行、当行グループ、主要な連結子法人等の業務の運営に相当程度の影響を与え、又は取引等に損失が発生することにより財産の状況に重要な影響を与える者であります。

(2) 対象役職員の報酬等の決定について

当行では、株主総会において役員報酬の総額（上限額）を決定しています。取締役に対する報酬は、株主総会で定められた報酬限度額の範囲内で、職責や役割に応じた固定報酬及び各事業年度の業績等に基づく業績連動報酬を取締役会の決議により決定しております。監査役に対する報酬は、独立性を確保するため固定報酬のみとし、株主総会で定められた報酬限度額の範囲内で監査役の協議により決定しております。

(3) 報酬委員会等の構成員に対して支払われた報酬等の総額及び報酬委員会等の会議の開催回数

	開催回数 (2025年4月～2026年3月)	報酬等の総額 (百万円)
取締役会（南日本銀行）	2回	—

（注）報酬等の総額については、報酬委員会等の職務執行に係る対価に相当する部分のみを切り離して算出することができないため、報酬等の総額は記載しておりません。

2. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等に関する体系の設計及び運用の適切性の評価に関する事項

報酬等に関する方針について

「対象役員」の報酬等に関する方針

当行は、中長期的な企業価値の向上を通じて、「役員報酬方針」という当行の経営方針に基づいて役員報酬制度を設計しております。具体的な役員報酬制度としたしましては、役員の報酬等の構成を、

- ・固定報酬
- ・業績連動報酬

としております。

固定報酬は役員としての職責や役割を勘案し、業績連動報酬は各事業年度の業績等を勘案して決定しております。

役員の報酬等については、株主総会において決議された役員報酬限度額の範囲内で、取締役会にて決定しております。

なお、監査役の報酬は、株主総会において決議された役員報酬限度額の範囲内で、社外監査役を含む監査役の協議により決定しております。

3. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等の体系とリスク管理の整合性並びに報酬等と業績の連動に関する事項

対象役職員の報酬等の決定に当たっては、株主総会で役員全体の報酬総額が決議され、決定される仕組みになっております。

4. 当行（グループ）の対象役職員の報酬等の種類、支払総額及び支払方法に関する事項

対象役職員の報酬等の総額（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

区分	人数	報酬等の総額 (百万円)	固定報酬	業績連動報酬
対象役員 (除く社外役員)	9	179	157	21
対象従業員等	—	—	—	—

5. 当行グループの対象役職員の報酬等の体系に関し、その他参考となるべき事項

特段、前項までに掲げたもののほか、該当する事項はありません。

銀行法施行規則に基づく索引

銀行法施行規則第19条の2…銀行の開示項目

〔概況・組織〕

1. 経営の組織 …………… 15～16
2. 大株主（10位以上）に関する事項 …………… 33
3. 取締役及び監査役の氏名及び役職名 …………… 15
4. 会計監査人の氏名又は名称 …………… 21
5. 営業所の名称・所在地 …………… 18～19

〔主要な業務の内容〕 …………… 17

〔主要な業務に関する事項〕

1. 直近の営業年度における営業の概況 …………… 9～11
2. 直近の5営業年度における主要な業務の状況を示す指標 … 26

〔経常収益、経常利益、当期純利益、資本金及び発行済株式総数、純資産額、総資産額、預金残高、貸出金残高、有価証券残高、単体自己資本比率、配当性向、従業員数〕

3. 直近の2営業年度における業務の状況を示す指標

〔主要な業務の状況を示す指標〕

- 1 業務粗利益・業務粗利益率・業務純益・実質業務純益・コア業務純益・コア業務純益（投資信託解約損益を除く） … 35～36
- 2 資金運用収支・役務取引等収支・その他業務収支 …………… 35
- 3 資金運用勘定・資金調達勘定の平均残高・利息・利回り … 37
総資金利鞘 …………… 31
- 4 受取利息・支払利息の増減 …………… 38
- 5 総資産経常利益率・資本経常利益率 …………… 31
- 6 総資産当期純利益率・資本当期純利益率 …………… 31

〔預金に関する指標〕

- 1 預金・譲渡性預金の平均残高 …………… 27
- 2 定期預金の残存期間別残高 …………… 27

〔貸出金に関する指標〕

- 1 貸出金の平均残高 …………… 28
- 2 貸出金の残存期間別残高 …………… 28
- 3 貸出金・支払承諾見返の担保の種類別残高 …………… 29
- 4 貸出金の用途別残高 …………… 28
- 5 業種別の貸出金残高・貸出金総額に占める割合 …………… 29
- 6 中小企業等に対する貸出金残高・貸出金総額に占める割合 …………… 28
- 7 特定海外債権の残高の5%以上占める国別残高 …………… 該当なし
- 8 預貸率 …………… 31

〔有価証券に関する指標〕

- 1 商品有価証券の平均残高 …………… 39
- 2 有価証券の残存期間別残高 …………… 39
- 3 有価証券の平均残高 …………… 39
- 4 預証率 …………… 31

〔業務運営〕

1. リスク管理の体制 …………… 14
2. 法令遵守の体制 …………… 14
3. 金融ADR制度 …………… 14
4. 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況 … 3～6

〔直近の2営業年度における財産の状況〕

1. 貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書 … 22～24
2. リスク管理債権 …………… 30
3. 自己資本の充実の状況 …………… 53～70
4. 有価証券・金銭の信託・デリバティブ取引の時価等・電子決済手段・暗号資産 … 40～42
5. 貸倒引当金の期末残高・期中増減 …………… 30
6. 貸出金償却 …………… 30
7. 監査状況 …………… 21

〔報酬等に関する事項〕 …………… 71

銀行法施行規則第19条の3…連結ベースの開示項目

〔概況〕

1. 主要な事業の内容・組織の構成 …………… 43
2. 子会社等の名称・所在地・資本金など …………… 43

〔主要な業務に関する事項〕

1. 直近の営業年度における営業の概況 …………… 44
2. 直近の5連結会計年度における主要な業務の状況を示す指標 45

〔経常収益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、包括利益、純資産額、総資産額、連結自己資本比率〕

〔直近の2連結会計年度における財産の状況〕

1. 連結貸借対照表・連結損益計算書・連結株主資本等変動計算書 … 46～48
2. リスク管理債権 …………… 45
3. 自己資本の充実の状況 …………… 53～70
4. セグメント情報 …………… 49
5. 監査状況 …………… 21

〔報酬等に関する事項〕 …………… 71



2026年7月発行 南日本銀行 総合企画部
〒892-8611 鹿児島市山下町1番1号
電話(099)226-1111(代)
ホームページ <https://nangin.jp>

